

中國大ブルジョアチーの弱いことは中國革命的特質的なものと云つたのは當を得て居る。随つて必然的に中國革命の教導者は、又農民の領袖は、中國のブルジョアチーより一層よく組織され且つ積極的である中國無産階級の手中に歸すべきものである。

中國革命の第三の特質として次の事實を看過してはならぬ。即ち、ソウエートユニオンの存在とその發展、其の革命的經驗と援助とがあつて、中國に於ける帝國主義封建制に對する、プロレタリアートの闘争に便宜を與へて居るといふことである。

以上はその性質と歸趨とを決定する中國革命の根本的な特質である。」

と論じ、最後に次の如く結論し、此の結論に向つて、中國のプロレタリアートが奮闘せんことを希望して居る。

「私は茲に二の結論を述べようと思ふ。即ち一は中國に於ける反帝國主義の闘争に就て、又一は農民問題に就て。

今や中國のコムニストが徹底的に不平等條約撤廢の要求に出でるだらうことは疑を容れぬ。張學良の如き反革命派すら、此要求を叫んで居るのであるから、コムニストが一層積極的に前進せねばならぬのは云ふ迄もない。鐵道國有を叫ばなくてはならぬ。これは重大なことであつて、此の目的の爲めに、凡ての工作が指導されなくてはならぬ。更に次の問題は重要工場國有である。これは、就中、工場主が一般國民に特別の敵意と侵略とを示すところの企業に就いて殊に其の必要がある。」

これ等の討論の結果として、一九二七年に入つて「社會經濟と重要な關係ある産業を國有にせよ」「帝國主義手中

の産業を沒收せよ」「而して國有財産の管理に参加せしめよ」と云ふ重要な標語が新たに叫ばれ、新しい第五期の運動への展開はかくして豫告されたのである。

## 三

一九二六年五月廣東に於て廣東全省農民協會第二回代表大會が開かれた。當時廣東以外には未だ省協會はどこにも成立して居なかつたが、全国各地の運動者中、廣西、福建、湖南、湖北、江西、江蘇、浙江、山東、山西、河南十省の代表が參加した。次で八月擴大大會があり、此大會中に於て、各省代表等は全國農民協會籌備會の組織に其の第一歩を進めた。

一方各地の組織は北伐の進行と共に擴大し、廣東湖南を筆頭に南方各省に於てそれ／＼急激に發展し、湖南、湖北、江西、江蘇、浙江、福建相次いで全省農民協會を組織した。此間又國民黨農民部の名に於て管下各省に農民運動講習所を設立し、同時に各省農民協會は農民訓練班を設け短期間に、

- 一、農民運動の實際策略。
- 二、國民黨の農民運動に對する法令、宣言、決議案。
- 三、農民協會組織法及其應用。
- 四、農民軍の編成及其法令。
- 五、農會と農民自衛軍との關係。



- 六、農民運動概論。
- 七、廣東及各地農民運動史。
- 八、農民運動經驗談。
- 九、當該各地政治經濟狀態。
- 十、勞農運動及び其相互の關係。
- 十一、各地農民生活。
- 十二、農會決議案。
- 十三、農民協會と土匪及民團。

等の必要學課を講習し、かく訓練された闘士を前線に送り出すことに奮闘した。そして、これ等の指導者は、いづれも農民の組織及武装、國民革命の参加、工農聯合を三大目標とし、且つ加ふるに、八月の廣東省農民協會擴大大會が會員須知として決定したところの、

服從農會命令	遵守農會紀律
按章親納月費	擁護多數議決
不分地方界限	不分姓氏差別
不得藉會榮私	私闘尤須禁絶

凡屬本會友	務須親愛團結
萬衆一心向前	打倒貪汚豪劣
帝國主義軍閥	專吸農工膏血
工農聯合奮闘	敵人完全消滅

を直ちに全國運動の上に採用して前線の指揮に當つた。

農民運動はかくて、所在に地主郷紳との烈しい闘争を展開した。特にその最も烈しかった湖南湖北、及江西の一部では、自衛軍と民團との間、農民の所謂革命裁判と、地主の司法支配との間に、絶えず革命的流血劇が繰り返された。これに對し、當時國民黨幹部の革命意識を以てしては、之れを如何に處断して好いか決論を下すことが、出来なかつたが、然し農民の方でも、彼等の闘争に統一的中央機關の存在が確立せず、指導に統一なく闘争に聯絡なく、凡てが各個衝突の状態であつたから、徒らに「農運過火」の非難を受くるのみで、成績を擧げることが出来なかつた。そして、それは結局に於て、第五期中に暴露した國民黨ブルジョアヂーの聯合戦線脱退と、共產黨に對する地主階級の大反攻を誘起した。即中國共產黨は、全國農民協會の組織を完成して全國の運動を統一することと、農民運動の根本たる土地問題對策を決定することの二大急務に當面して第四期を終つて居るのである。

註一、一九二五年八月以前の廣東軍隊は非常に亂雜なものであつた。當時廣東には、粵軍（許崇智）湘軍（譚延闓）滇軍（朱培德）

桂軍（楊希閔）豫軍（樊鍾秀）等建國軍と稱して、駐屯し別に范石生、劉震寰の軍隊も介在して、各駐屯地方より一切の經費を徴



收し、事毎に意の儘に動いて孫文を手古摺らせて居た。

一九二五年八月、學生軍及共導團の實力に自信を得た國民政府は軍政整理案を出し、財政權を回收統一せんとし、廖仲愷は遂に反對派の犠牲となつた。

學生軍は、當時城内に一萬六千の兵を擁して居た劉震寰と楊希閔とに對し労働者の参加を以て斷然たる武装解除を行つた。

學生軍は第二回の東征後、許崇智軍の武装解除を首め全軍の約半分の武装解除に成功した。そこで軍官學校出身學生を士官及下士とした新編成を行ひ、建國軍を改めて國民革命軍とし、左の七ヶ軍を國民政府の基本軍とした。

- 第一軍 蔣介石
- 第二軍 譚延闓
- 第三軍 朱培德
- 第四軍 李濟琛
- 第五軍 李福林
- 第六軍 程潜
- 第七軍 李宗仁

一軍を二ヶ師標準とし、國民革命軍北伐開始と共に歸順軍を順次任命して行つた爲め一時四十有餘軍を算するに至つた。

註二 海軍代理局長李子龍は右派の企に成る蔣介石の僞命令を受取り（本人は知らず）直ちに中山艦に戦闘準備を命じて黄埔軍官學校沖に出動せしめた。同時に蔣は、今共產黨が軍隊及労働軍を率ゐて、國民政府をソウエト政府に改造せんとして居る旨の報告を得た。蔣は疾風迅雷的に、中山艦を拘留し、共產黨の軍人及黨代表を捕へ、糾察隊の武装を解除し、露人顧問の住宅を包圍し、當時視察に来て居たロシア人を直ちに歸國せしめた。所謂三月廿日事件とは是である。

然し事件は兩三日を経て真相明かとなり、僞命令の交付者歐陽格が處罰された。

これは反共產黨の態度を具體化した一の表現であつて、この事件はやがて、五月の黨務整理となり、共產黨が、黨の責任地位から除外されると共に、曩に除名された、葉楚傖、邵元冲等復黨し、續いて右翼分子は陸續廣東に戻つて來た。

註三 三月十八日、北京天安門外に國民大會を開き、奉天討伐、反日本帝國主義、段政府打倒を叫んだ民衆は、執政府に押寄せ、段に面會を強要して居る間に衛兵の發砲となり死者及重輕傷者百餘名を出した。

### 第五項 上海の占領から武漢政府の没落まで

無産階級運動の急激な發展は、一九二六年三月、先づ國民黨内のブルジョアヂーを聯合戦線から脱離せしめたが次の三ヶ月を経て、地主階級をも脱離せしめた。第五期は、僅々此三ヶ月間の活動を代表する。

上海事件後、中國共產黨書記長陳獨秀と國民黨中央執行委員汪精衛とは聯名の宣言を發し、國民共產兩黨は、孫文の遺志にあくまで忠實たるべしと述べて武漢に去つた。中國共產黨はかくて、武漢政府の下に從來の聯合戦線を保持することになつたが、四月南京政府と正式に對立することゝなるや、直ちに宣言を發し、今や國民黨は階級的政黨となつた。随つて國民革命即ち農民革命なりてふ意識を正確に諒解し、舊軍閥並に新らしい革命の敵に向つて積極的に奮闘しなくてはならぬと主張した。即ち該宣言の大意に云ふ。

「一、蔣介石は今や帝國主義の走狗となり國民革命の新しい敵となつた。



二、國民黨は改組によつて被壓迫民衆の革命黨となつたが、反動分子は依然として存在し、之れが爲め今日内部の争闘を起して居る。國民黨が被壓迫階級を代表する一の階級黨となるか、上層の利益を代表する人民黨となるか？之れは、北伐の發展につれて生ずる黨の危機である。

三、三月廿日事件は國民黨の有産階級と封建分子が革命的民主主義の政權を奪つた事件である。

四、だが北伐の勝利は民衆をして、三月廿日事件で壓迫された左派を擁護し、茲に左右派の大闘争を誘起した。

五、革命勢力長江に達するに及び、帝國主義者は公然たる武装干渉を以て、此の脅威に對せんとして居る。國民政府の對策は、民衆の革命的力量を後盾とし革命的民主政權を建てることである。これは國民革命は先づ一の農民革命たるべしといふことを意味する。

六、全人口の八割は農民である。農民革命を経ずして革命的民主政權を獲得することは出来ない。國民政府にして、眞に數千年來の農民の苦痛を解放する意あらば、國民革命は此に立派な保證を得たわけである。

七、農民革命と國民革命とは分離出来ない。國民黨中の左派は之れを諒解するも、右派封建分子は、自身の動搖を感じて遂に孫中山を賣つた。

八、國民黨は革命完成の爲めに、今や、此の敵を推翻せねばならぬ。蔣介石一派の反動勢力、地主封建分子、資本家等の陰謀は、武漢政府領内の各處に存在して居る。政府は徹底的農民政策によつてのみ之れ等を掃討してその目的を成就することが出来る。」

同時に、國民黨の新定義を基礎とする兩黨の協同を堅實にすることに就いて、孫文の三大政策（聯共、聯俄、勞農）を高唱し、非妥協的革命政策の遂行を力説した。そして非資本主義的國家建設の宣傳を擴大した。

かゝる間に、農民運動の急激な發展を直接の原因とする、國民黨内部の險惡な空氣は、日々濃厚となり、長沙事件（註）以後、實力派の態度は寧ろ公然たる武力壓迫を示すに至つた。そして國民政府幹部も、農民運動の小兒病的缺陷を指摘し、各地の状態に對し、益々非同情的壓迫政策を採用し、江西政府は遂にその領域から一切の農民運動者を驅逐するに至つた。それにも拘らず、共產黨は、國民黨との提携を出来る限り支持せんことに腐心し、幾多の無効な努力を繰返した。即ち、或は、長沙事件の解決に對する一切の不平を抑へて、軍隊との關係悪化を防止せんとしたり、或は下層の積極的闘志を制して、長沙農民が將に長沙を包圍占領し新しい組織を建設せんとする間に、之を中止せしめたりした。連合戦線の必然的要求に對して共產黨が最後に施した政策は、本來の政策の意義を没却したものと見て、當時の幹部は嚴重な批判を受けた。その結果は、幹部の大異動、全國支部の改組、黨員の大整理、戦術の根本的變改等の大騒ぎを引起すに至つた。此の共產黨の大改革は、國民黨との連合の末期に現はれた、「失敗」の批判より發して、南昌會議に至つて、愈々具體的となつて居る。今右幹部に對する第一の公開批判として、八月のソウエート・ユニオンの中央執行委員會同監察委員會の聯席擴大々會の討議を左に擧げて見よう。

(一)

支那革命に於ける無産者黨の戦術に就ては、その見解を三つの主流に分けることが出来る。そしてそれ等の凡



ては、勿論客觀的に觀察されたものであり、又そのいづれもが支那革命に對する獨特の見解に基いて居る。

其第一（急激にメンセヴィズムへ走りつゝある右翼分子）は「帝國主義に打ち勝つて支那が統一されるまで、有産階級を包含する現國民革命戦線上の聯合を支持することは必要である。」

展開のあらゆるステーチに於て此の目的の爲めには幾多の讓歩もなさるべきである。」

と云ひ、第二（トロツキー一派）は、

「革命發展の如何なる階段に於ても、有産階級と妥協したり、協同したりすることの認めらるゝ如き主義を拒否すべく、有産階級との妥協や協同は無産階級自身を弱めるに過ぎない。」

となし、第三（レニン派の主張であり、現に赤色労働組合インターナショナルによつて行はれつゝあるところのもの）は、

「殖民地及半殖民地の有産階級との妥協は發展の或る階段に於てのみ、及び與へられたるある條件の下に於てのみ必要である。」

となし、同時に、

「これ等の妥協は、發展の状態が變化したとか、階級的實力が充實したとか、等の場合に於ては、早速消滅さるべきものであり、そして又決定的な戦闘が前述戦線に向つて開始せらるべきである。」  
と云ふのである。

## (一)

右翼の主張―それに就ては、假令コミンテルンの訓令があつたにもせよ、支那共產黨のリーダーの責任は免れ難い―は國民革命と土地革命との對立に就て、全く誤つた概念にその基礎を置くものである。

右翼の首腦者達は、支那の社會に於ける基礎的階級の勢力の永久的關係を臆斷して居る。彼等は、その前に聯合された國民革命戦線内に於ける、階級對立の發展の重大さと必然さとを理解して居ない。かつ又彼等はそれによつて生ずる必然的な階級的充實、國民解放運動の指導權把握に對する有産階級と無産階級の必然的闘争、ブルジョア革命からブルジョアチーのデモクラシー革命への必然的推移、有産階級デモクラシー革命から社會主義革命への必然的發展、これ等を少しも諒解して居ないのである。彼等は結局に於て、階級闘争の立場を否定し、そして必然的にメンセヴィズムへと墮ちて行くのだが、本聯席會議は、支那の友黨の領袖中に存する該右翼が既に整理され、その政策が改善されたことを此に報道するものである。

## (二)

トロツキー一派は、その見解を、ロシアに於ける一九〇五年の革命から類推した皮相的基礎に置いて居た當時、ボルセヴィキと、メンセヴィキの辯護を得つゝあつた自由主義的有産階級との提携には絶對的に反對して居たのである。

トロツキー一派の最大の錯誤は、トロツキー及び其の一味（ジノヴィエフ其他）が、帝國主義者と殖民地の間の、



又帝國主義國家内の革命と帝國主義そのものと闘ひつゝある國家内の革命との間の根本的相異を理解して居らぬ點にある。此の相異に就てレーニンは次の如く云つて居る。

「吾人の問題の主要觀念に於て、何が最も重大であるか、それは壓迫者と被壓迫者間の相異である。吾人は第二インターナショナル及びブルジョアデモクラシーに於て回避された此の「相異」に就て力説せんとするものである。殊に、無産階級にとつて、又共產黨インターナショナルにとつて、現實の經濟問題を正確に把握し、而して一切の殖民地問題（抽象的論據からでなしに）を解決する基點として密切なその關係を會得すると云ふことは最も重要である。」（レーニン全集第十八卷）

レーニンは更らに云ふ、

「コムニスト・インターナショナルと殖民地及び後進國のブルジョアデモクラシーとの妥協・協同に於ても一は當座的のものでなくてはならぬ、彼等と合同してはならぬ。必ずや、無産階級運動の獨立を、その最も純な形に於て保持して居なければならない。」（同第十四卷）

そして最後に曰く、

「吾人コムニストは殖民地のブルジョアデーの解放運動に對し、それが眞實革命的である場合には、又その領袖達が、吾々の農民大衆及革命分子への啓發及組織運動を妨げない場合には、之れを援助すべきものであり、又勿論さうするであらう。」

かくの如くレーニンの立場とトロツキーの立場とは異つて居る。トロツキーの立場はレニニズムに對する亂暴な曲解であつて、その基礎をまさしく帝國主義國家と、殖民地間の相異の無視に置いたものである。

(四)

コミンテルンによつて採用された戰術的特質的基礎は革命の種々なる階段の分析、各階級の分析から成るものである。

コミンテルンは革命の發展時代に於て、支那の有産階級の後援者であつた。此の頃有産階級は猶革命的であつた。即ち第一に彼等は帝國主義に對する實際の闘争を爲しつゝあつた。又第二に少くも彼等は共產黨が労働者及農民の大衆を革命的自覺へ教育すること並びに革命的労働者及農民の組織を進めて行くことを妨げなかつた。又第三に、少くも彼等は、共產主義無産階級の組織、その統一、その發展に就いて妨害を爲さなかつた。

蒋介石の背反以前に於ける廣東及北方は實にかゝる状態にあつたのである。

此の時代にあつては、獨り支那共產黨が大々的にその勢力を増加したばかりでなく、労働者及農民の運動も亦非常に發展した。無産階級の大衆的機關（労働組合）及び農民のそれ（農民組合、農民委員會等）が組織されたのも此の間のことである。此の發展段階に於て、有産階級との妥協は、労働者及農民階級の實力養成に役立つた。殖民地國家に於けるレーニンの戰術の正鵠は實にこゝに存する。

蒋介石のクーデターは、或る階級勢力の新しい結合を示すものである。こゝに於てか、コミンテルンは此の發



展の新しい階段に對し、新しい戰術を定めた。此の新戰術は労働者、農民、小商人のプロツクの帝國主義と張作霖のプロツクに對する又同時に有産階級と蔣介石のプロツクに對する、徹底的な闘争に根據する。

一方、又國民黨左翼及武漢政府に踏み留まつた急進派小資産階級の方では、蔣介石に宣戰を布告し、共產黨をしてその活動を繼續せしめ得た。勿論共產黨は、所謂「カペーニアツクへの防禦」を組織する爲め、又民衆を動員する爲め、此の機會を利用しなければならなかつた。

然し、階級闘争の發展と、帝國主義から加へられた壓迫とはまたもや、新しい一勢力の結合を誘發した。即ち武漢政府國民黨左翼リーダーの大部分は革命を放棄し、労働者及農民の運動を抑壓し始めたのである。此の形勢は再びその戰術と標語の上に必要な變化を來たさしめた。即ち事實上「革命的なもの」を取消してしまつた武漢政府に對し共產黨は宣戰を布告したのである。

## (五)

這うした一切の發展階段の間に於て、コミンテルン一つの階段からその次の階段への推移を正しく解して居たところの—は此の推移の爲めに大衆を喚起することを必要とした。又コミンテルンは獨立せる支那共產黨が、それ自身の爲め、出來る限りの努力で活動することを必要と考へたばかりでなく、從來の協同者の一切の動搖を一層深刻に批評すること、及び黨自身の實力、武装された民衆の組織、適當なる支持重心の確立を組織的に準備し、労働者、農民、都市無産者のより大なる發展に最大の保證を與へ、革命を深刻にすることを更に重大なりと考へた。

そして土地革命の發展、農民の土地獲得、労働運動の發展、労働者農民の武装、國民黨の民主々義化、同無節操な領袖の處分—之等は即ちコミンテルンの主なるスローガンであつた。

## (六)

コミンテルンは革命を前進させたが然し同時に、適當に經過しなかつた處のその革命の階段の飛躍に就いて反對した。

だが、又國民黨をむざ／＼右翼に引渡してしまふに等しい、そして共產主義者を國民黨大衆から孤立せしめるに等しい條件の下での一民衆組織たる國民黨からの退出は之れを正當に非難した。

又、ソウエートのスローガンに就ても、その標語が武漢政府及國民黨左翼が、前述の意味に於ける所謂革命政治を行ひつゝあつたのに、それを飛越えることを意味する場合には正當に反對した。

だが之れと同等に、コミンテルンは、土地革命及労働運動の利益を犠牲にする一切の右翼分子に對しては、それが支那共產黨のリーダーの中に於てとあらうとも、又ロシア共產黨自身の中（そこにはブルヂョアを完全に辯護する反對理論家—ラデツクと其著「廣東に於ける勞農の支配」や、支那革命に對する極めて開展せられた機會主義者の理論—トロツキーの常用理論—がある）であらうとも、懸念に之れと闘つたのであつた。

## (七)



若し支那の革命が、共產主義者のインターナショナルの正しい戦術にも拘らず、重大なる失敗を蒙つたものとせば、それは第一に支那自身に於ける、及び國際的な階級勢力の關係に歸因するものである。

又此失敗は更に、労働者及農民大衆が、結合せる、又は一齊に進出して来る敵を征服し、外國帝國主義者や張作霖に代表される封建分子や、反革命的國內有産階級の勢力を征服するに足るだけの實力を組織すべき充分な時間をもたなかつた事情によつても説明されるし、又更に、労働階級の實力が、充分に組織されたる共產主義者大衆の政黨を形成するまでに至らなかつた事情によつても説明される。

だが、一方支那共産黨も、コミンテルンの訓令を組織的に排斥した點に於て、支那の労働階級及び農民の失敗に一部の責任を有つと云ふべきである。

## (八)

支那革命の現在に於ける特質的形狀は、此重大な失敗と、並に、それと同時に起りつゝある勢力の急激な再結合である。現に労働者、農民、都市無産者のブロックは、一切の支配階級及び帝國主義者に對して組織されつゝある。かゝる状態から觀察して、今や革命は其最高形態に向つて、又労働農民の獨裁に對する直接の闘争形態に向つて急激に前進しつゝある。過去に於ける發展の經驗は、明かに次の事實を證明する。即ち、

「有産階級は帝國主義者の羈絆から國民を解放する問題の解決に就いて、何等の資格をも持たない。彼等は常に労働者、農民と争ひつゝあるのである。又有産階級は帝國主義者に對する一貫した戦争を爲す資格がない。

彼等は一步々と妥協—事實帝國主義者の支配を最も完全に安定せしめる妥協—に走りつゝあるのである。」

國內有産階級は、革命の内的問題に就ても之れを解決する資格をもたない。何故といふに、彼等は農民を支持しないのみならず、却つて積極的に彼等と闘ふからである。そして右の過程に於て、彼等はブルジョアリーの民主主義的革命の本質的問題をすら解決することなく、容赦なく帝國主義のブロックへと走り行くのである。

一方に於て、支那の有産階級が農民と妥協することは殆んど絶對不可能に近い。何故と云ふに、支那では如何なる切り詰めた土地改革案でも、それは紳士及小地主階級を剝奪することになるからである。随つて革命の一次的失敗は、比較的短期間に新しい次の革命の進出となつて現はれるだらう、と云ふことは、極めて「あり得る」ことと思はれる。

## (九)

現在、支那共産黨に對して、革命反對の一切の火の手が集中されて居る。即ち現在の共産黨は、最も困難な、そして最も責任ある仕事に當面して居るのである。先づ第一に、彼等は領袖の犯した過失を認識し、黨をコミンテルンの訓令の基礎に結合し、指揮を改革し、實際の革命に經驗ある黨員から指導者を擧げ、同時に武漢の領域に於ける自己の機關を擴大することが必要である。

共産黨は國民解放運動の利益及び労働者農民の階級闘争に對する利益と衝突する一切の理論に、熱心なそして組織的な闘争を爲さねばならない。之等の反革命理論—狡猾に孫文の背後に隠れて居る革命の裏切者（蔣介石、



馮玉祥、汪精衛等)によつて宣傳されて居るところのものは、その目的として、一般民衆を國內反革命有産階級の利益と、支配に従はせようとするものである。共產黨は帝國主義の克服、支那の革命的統一、及びその帝國主義の連鎖からの解放、これ等は皆廣汎なる勞農大衆の封建貴族及資本家に對する階級闘争の基礎の上に於てのみ、爲し得らるゝものであることを宣言すべきである。

更に進んで、共產黨は國民黨の左翼の低い層を上の方に引上げる爲め、一切の必要な手段をとらなくてはならない。そして此の目的の爲め熱心な闘争を開始しなくてはならぬ。又之れと同時に、共產黨は、ソウエートの理想を熱心に宣傳すべきである。

若し國民黨の革命化に對する共產黨の努力が成功しないものとせば、又若し此の組織(國民黨を指す)を民主主義化し、及び廣汎なる勞農大衆の組織に轉換することが不可能なりと知られたとせば、更に又、若し此の間一方に於て革命が新なる進展を示したとせば、その時には、ソウエートの宣傳者のスローガンは速刻の戦ひへのスローガンに變ずることが必要となり、そして直ちに、勞働者、農民、手工業者の、ソウエートへと進むことが必要となるであらう。

同時に、農民革命を進展せしめる爲め、勞働者農民の武装に、一切の手段を講ずる爲め、そして眞の勞農軍の基礎を建設する爲め、凡ゆる努力が爲されねばならぬ。

又共產黨は組織的に、蔣介石及武漢の裏切りを暴露し、痛烈に彼等の「面」からマスクを引裂き、勞働階級の支

配權獲得の爲め闘ひ、そして農民及都市無産階級の廣汎な大衆の先頭に進むところの勞働階級の眞の前衛として行動しなければならぬ。

## 二

上海のゼネストライキ、上海市政府の建設、廣東對英罷業の二箇年に亘る支持、北伐軍進出に伴ふ各地の活動、之等は中國の勞働階級をして、確實に民衆運動の中心勢力を獲得せしめ、都市資産階級及外國資本主義に異常な脅威を與へ、遂に國內ブルジョアデーに基礎を置く、國民黨内の軍人及政客をして、勢ひその階級的態度を明にせざるを得ざらしめた。三月に入つて、廣東、上海、福州、杭州、南京其他國民黨南京派勢力圏内の全部に亘つて行はれた勞働者の大弾壓は、實に此の必然的な結果であつた。

勞働者は、そこで、その本部を武漢に移し、一層戰闘的な態度を以て、民衆運動の中心となり、一方被壓迫地方の組織と闘争とを展開して行つた。そして五月には、太平洋勞働會議を開き、六月には第四次全國勞働大會を召集し、過去の目標から更に一段の進出を示した革命的標語に新戰術を決定し、「武装」と「軍隊へ」を高唱しつゝ、險惡な空氣の間に一貫せる活動を試みた。

此期に於ける勞働運動の方針に就いて、吾人は第四回大會の宣言した「目前闘争の目標」中から其主要點を擧げることが最も簡單だと考へる。

「一、一切の帝國主義及軍閥を打倒する。



- 二、國民革命に背ける大ブルジョアチーに反対する。
- 三、大ブルジョアの中小商人の壓迫に反対する。
- 四、勞農、小資産階級の革命同盟を堅固にする。
- 五、勞兵の聯合。
- 六、勞働者の武装。
- 七、改良主義の欺騙を打倒する。
- 八、勞農を屠殺した蔣介石、李濟琛、許克祥を打倒する。
- 九、各階級の政府機關に對する参加を要求する。
- 十、國有財産管理参加を要求する。
- 十一、帝國主義手中の産業を沒收する。
- 十二、社會經濟と重大な關係ある産業を國有とする。
- 十三、生活改善の爲め闘争する。
- 十四、八時間勞働制、勞働保護法、工場法、國立勞働保險の制定。
- 十五、西方各國の勞働組合と密接な關係を建設する。
- 十六、太平洋各國の組合と堅實なる聯合を形成する。

- 十七、全國組合を總工會に統一し、組織と力量とを集中する。
- 十八、鞏固な工場委員會を建立する。」

三

資産階級を代表する國民黨が分化するや、共產黨は、武漢政府に依據して、極力農民運動の發展に努力し、五月の共產黨第五回全國代表大會は、國民革命の農民政綱として、

「一、一切の所謂公有田産、祠堂、寺廟、教堂、學校、農業公司の土地を沒收して、之れを自ら耕す農民に交付し、沒收した土地の管理は、土地委員會に托す。此種土地管理の形式は公有制にするか、分配するかを、凡て該委員會に於て決定する。

二、甲 地主が農民に賃貸せる土地を無代價で沒收し、土地委員會を経て、自ら耕す農民に交付する。

乙 小地主の土地は沒收せず。

丙 革命軍長官既有的土地は沒收しない。

丁 革命軍兵士の土地無きものには、戰爭終了後に之れを與へる。

三、沒收地を耕す農民は累進的地租を政府に交納する以外に負擔なく、永久の耕作權を保持する。

四、地主及紳士の有する一切の政權々利を取消し、農民の郷村自治政府を建設し、郷村中の各被壓迫階級が組織する郷民會議に對し責を負ふ。



五、郷村に於ける反動勢力の武装を解除する。そして農民自衛軍を組織し、郷村自治政府及び革命の勝利を保護する。

六、國家農業銀行及農民の消費組合、生産組合、信用組合を設備し、水利を改良する。

七、高利を取消し、最高利率を制定する。」

を決議し、之れが實行を通過した。當時、此原則に基き、最も速かに具體的細目を規定して、管内運動の指揮統一に努力したのは、湖北省協會であつた。該協會は、共產黨大會後、農民問題の大分喧しくなつた六月、擴大々會を召集し、中央幹部の指導下に當時の局面に参照し、全運動の各方面に亘つて重大な決議を爲して居るが、今その中の土地問題に關する部分を特に擧げる。蓋し此の頃に於ける武漢政府管下各省に於ける農民闘争の共通の基本を示すものだからである。

#### 一、土地租率及雇農自作農の問題

「一、沒收せる土豪劣紳の土地は、政府機關の管理に移交し、協會と黨部及其他の人民團體に於て委員會を組織して監督する。

二、沒收土地は原耕作者即ち小作人が耕作するを原則とし、該小作者と協會と政府とに於て協議決定する。

三、累進地租實行前の沒收地稅額は、生産全額の二割五分以内とし、此中に含まるゝ増加稅額の、五割を消費組合に、五割を郷村中の公益費に充つ。

四、租額は現在は少くも二割を實行する。

五、小作保護法の實行、雇農保護法の制定を要求す。

六、土地均分運動を禁止す。

七、協會と政府と協議して自作農の利益を害する苛稅雜捐を減除する。

#### 二、沒收財産問題

一、沒收の不動産は政府機關に交付し、協會及黨部其他の團體で委員會を組織して監督する。そして家屋は政府より貧農に貸貸し、収入の一半を郷村の教育、交通の公費に當て、一半を消費組合の基金とする。

二、沒收の動産は、縣農民協會に集中し、用途を公布する。

三、沒收の動産は、凡て消費組合其他此種組合の基金とし、黨部、政府、労働組合、商民協會、婦女協會で委員會を組織して監督し、縣長を主席とする。

四、沒收財産は、縣協會の承認を得て、縣協會と縣政府で直接沒收する。區郷各協會は自由に沒收するを得ない。

五、沒收の財産は、政府成立の時、完全に自治政府の管理と監督に移す。

六、非土豪劣紳及革命軍人の財産にして、沒收したものは返還する。」

然し既にも述べた如く、農民運動の擴大の結果、遂に五月二十一日事件の勃發となり、國民黨内の軍人の空氣險惡化し、共國の合作に一大龜裂を生ぜんとするに及び、共產黨の幹部は、出来る丈け地方の闘争を緩和し、國民政



府の確立と協同戦線の維持とを謀らんと努め、農民運動に對して、六月、全國農民協會の名に於て左の如き訓令を發した。

「許克祥長沙の變も「農民過火」を理由として居る。「過火」は勿論反動派の共通の口實ではあるが、農民運動の初期状態に顧み、又上層機關の指導力の實狀に顧み、所謂「過火」に關しては自ら省みる必要がある。農民運動は今日の新環境に對し、新戦術を執らなくてはならぬ、とは臨字第一號訓令に指摘した所であるが、今、此新政策の執行に便する爲め左の五項を宣示し、各省農民協會の切實なる辦理を望む。

一、組織の鞏固と紀律の嚴肅

各級農民協會過去の發展が急激であつた爲め、土豪劣紳等不良分子が混入し、協會の運動を破壊せんとするのを免れ得なかつた。

就ては各級農民協會は隨時代表大會を召集して過去の工作を審査すると共に會員の行動を監視し、不良分子を發見せば、直ちに革命紀律に依つて處斷しなくてはならぬ。同時に新政策を實行する爲め、各級協會は即日代表大會を召集し、新職員及新指導員を増加し、貧農、小作人、雇農及自作農を協會の堅固な社會的基礎としなければならぬ。

二、革命同盟者の利益

農村の小商人は金融流通の主要分子であり且つ同様被壓迫者である。協會は農民を領導して彼等と革命聯盟を結

び彼等を保護しなくてはならぬ。

農村の穀米は自治機關未成立前は、協會にて農村の必要額を計算して餘分を融通し、小地主及富農に不便を感じしめず、同時に軍米の供給を豊にする。農村中の其他の生産品に就ても都會の商業と良好な關係を維持し、小商人の發展を阻碍しない様にする。そして一方此の商業の扶助を組織的に行ひ、奸商の剝奪を防ぐ。革命軍人の家族及財産は切實に保護しなくてはならぬ。

三、鄉村の舊習慣改良の順序

禁酒席、禁齋、果香燭、迷信宗法社會の舊習打破、婦人の地位改良等封建惡習の打破は長期の宣傳を必要とする。然らざれば良好の結果を得ないのみならず、反動派の農民運動破壊に利用せられる。

四、鄉村の建設事業

自治機關の設立は、封建份子を抑制し、農民の勝利を確立し、農村の無政府状態を消滅し、農民運動をして新環境に適應せしむる重要な仕事である。本會は既に國民政府に自治條令の公布を要求して居るが、各級協會も鄉村の革命平民と聯絡し、最短期間に、完全に自治機關を建設する様努力せねばならぬ。又農民銀行、消費組合、生産組合等の建設事業にも同様協力を以て努力するを要する。

五、宣傳工作の擴大

農民運動の發展につれ、土豪劣紳等も一面農民を壓迫すると共に他方、走狗を買収して反攻する。一方貧農等は



入會後經驗に乏しく兎角幼稚の行動あるを免れず、土豪劣紳之れを針小棒大に宣傳するを例とする。各級協會は過去に於て宣傳をおろそかにし反動派の宣傳を都市郡に充滿せしめて居る。之れが爲め都會の革命同志すら、時に農民運動に疑をいだく傾きすらある。宜しく農民被壓摧殘の状態を常に革命同志の前に報告し、以て上級協會の指導と糾正に便すると共に、一般農民に本協會の戦術を充分諒解させなくてはならぬ。(六月七日臨字第二號) それにも拘らず、國民黨の對共產黨態度は好都合に轉回しなかつた。そして長沙事件の解決に就ては、明に事件の罪を、湖南農民運動の過激に轉嫁し、長沙の軍人を支持した。尤も地方の運動は中央のかゝる態度に反し、甚だしく積極的であり、長沙の如きは全く一夜の差を以て武装せる農民軍に占領されんとした位である。

又農民の全國的組織に就ては、國民黨との協同の下に全國農民協會が組織されて居たが、譚延闓を委員長とする鄧演達、譚平山、毛東澤等兩黨混合のものであり、且つ全國大會の召集(五月の豫定が十月に延び、形勢の變化と共に無期延期となつた)も無く、全國の急激な發展を統一する力量をもたなかつた。尙ほ、此期に於ける農民運動に不便と混亂とを與へた最う一つの原因は、土地問題に對する決定的な方策が遂に示されなかつたことである。此の問題は、今日尙ほ、最大問題として討議されて居る。

次に示す土地問題草案は、此の間の討論に提起されたものである。

#### 土地問題草案

#### 緒言

「中國共產黨は認める、中國鄉村中に於ける地主、豪紳、富農の分子は少くない。彼等は、自己の暴力機關(民團、團防、商團、軍閥の軍隊、並びに彼等が買収勾結する所の土匪等々)に依據し、又帝國主義の助力に依據し土地制度の變革、革命に對し全力を擧げて抗争して居る」と。

中國共產黨は認める、「農民の最も激烈な階級闘争によつてのみ、よく敵人の政治經濟的權力を消滅し得る」と。中國共產黨は認める、「民衆の武力的階級闘争の方法を用ゐてのみ、土地革命を完成し得、且つ、眞に革命的な土地制度の變革と、そして鄉村中に於ける農民代表會議の政權の組織、並びに全國的ソウエート政府の建設を實行し得る」と。

此の闘争に於て、苦力と雇農は重大な役割を務むるものである。

中國共產黨は飽迄雇農、苦力を蔑視する反革命理論(例へば、農民運動は所謂「流氓的痞」であつてはならぬと云ふ運動等)に反對し駁斥する。そして、極力此の苦力及び雇農を階級的組織の中に組織し、彼等の代表を領導して革命政權の指導機關に参加せしめる。同時に、中國共產黨は、極力鄉村中の中農分子を誘引して貧農方面に來集せしめる。蓋し此の中農も亦、中國舊制度の推翻を必要とするものだからである。

中國共產黨は明瞭に認める、「此の種闘争は非常に困難なものである」と。然し、同時に、廣東、湖北、湖南の農民が既に本黨の指導の下に、幾度か、勇敢なる武装暴動を實行して居ることを指摘せんとするものである。此



の種情形は、幾省かの中既に直接革命の形勢を爲して居るものがある事實を證明するものである。

中國共產黨は、農民を農民協會の如き、戰鬥的組織の中に組織し、極力農民一切の闘争を援助し、城、郷の労働大衆の武装暴動を以て、ソウエート政府組織の主張を宣傳し、並びに大衆運動が或る階段にまで達した時には進んでソウエートを組織すべきものである。

中國共產黨は明かに認める、「農民の國民黨に對する幻影を速かに消滅するを要す」と。國民黨の民衆を欺騙する所謂「二割五分の減税」とか、「利息は年二割以内」等の主張は如何なる地方でも實行出來ず且つ土地問題を解決し得るものでない。中國共產黨は徹底的に、民衆を欺騙する國民黨の政策に反對せんとするものである。

各省の紅槍會等、農民組織の發現、並びに此種組織の奮起闘争は、農民が武装闘争の必要を認めて居ることを證明して居る。

中國共產黨は、努力して此種組織中の反動分子を肅清し、農民意識中の反動的遺毒を肅清し、此種組織を改變して眞の階級的なものとし、自己の解放の爲め奮闘し得るものに導くを要する。共產黨員は應に此種組織の中に進入して適當な活動を爲さねばならない。

中國共產黨は農民を組織し、「同盟抗租、罷税、不返債、拒絶無價值紙幣及軍用票」等を實行し、並びに全力を舉げて此の種の闘争を援助するを要す。

中國共產黨は、農民大衆を組織し、軍閥戦争に反對する闘争を導き、並びに農民の自發的な此の種闘争を援助

し、軍閥の拉夫食糧徵發等に反對するを要す。

中國共產黨は此種闘争の度び毎に、農民が武装暴動によつて農民の階級的仇敵に反抗する必要を宣傳すべきである。

### (一)

中國の農業經濟と土地關係は、現代の資本主義的歐米のそれと同じからざるのみならず、歐洲中世紀時代の土地關係とも同一でない。

此種相異の最も重要な前提は、實に、中國生産に對する自然界の環境と中國歴史發展の特殊條件とにある。

中國農業生産の方法に於ては、幾多の特異點があつて、農村經濟をして特殊の状態にあらしめて居る。中國本部の主要區域には、牧畜事業なく、農村經濟中、耕種の牲畜を用ゐるは比較的少く、多量の肥料の需用もなく、又絶對に若干時間土地を遊ばせると云つた法もない。只だ然し多量の徒手労働を消費して居る。然かもかゝる農業生産の方法に加ふるに、商業重利資本の比較的早くからの發展がある。遊牧民族の侵入及水災を防禦する巨大な工事（長城、大運河、黄河の堤防等）は天災に應じ、一方種々な組織を以て遊牧民族を征服し、彼等を農業民族にさせて居る。此の種情形を綜合して、即ち中國のかゝる社會經濟制度が、所謂マルクス並びにレーニンの「アジア式生産方法」であることを知る。

中國のかゝる多數の小農經濟は、實際上相關聯しない。然し、中國には、早くから、一種の統一的國家政權が



あり、そして此の政權の物質的基礎の一は即ち、人工灌溉であつた。中國官僚制度の作用は元來非常に大きいとその根源は實に此の點にある。

中國の官僚は、ひとり地主及商業重利資本の利益の爲めの政治的代表であつたに留まらず、直接重利盤剝と大商業を實行する本人であつた。諸侯制度の采邑、「閥閥専有土地」の制度(例へば貴族閥の土地専有等)は、中國では、既に其の昔崩壊してしまつた。(秦始皇の後、即ち約紀元前三世期に於て)其後非常に長い無政府状態を經過し、非常に残酷な階級闘争を經過して、終に「アジア」式生産方法を形成した。即ち中國の國家に於ては幾多諸侯采邑からアジア式專政制度に變成する間に於て、官僚制度が極度に發達した。

農業と農民の家族工業は相連結して、「アジア」式生産方法をして、「内部的安定状態」を形成せしめて居る。商業重利資本は、資本主義前期に於ける地方の市場及び相互の關聯の非常に微弱である地方の市場には、非常な權威をもつて居る。

諸侯采邑、閥閥式土地制度崩壊後に於ける土地關係は幾種類の變更を經過して居る。之れ等は凡て、歴史の形勢から由來して居るのであつて、或は征服等外來の影響からのもあり、或は非常に大きな民族運動の經過からのもあり、或は各地市場關係の擴大又は縮小からのもある。然し農業勞働の方法は根本に於て變更がない。

中國農村生活では、人工灌溉が一切の重要意義を決定し、官僚の作用非常に大にして、官僚と土地私有制及商業重利資本との間に、密接な關係があり、かくして歐洲中世に會つて見なかつた地主と商業資本との大規模な農民

の剝奪がある。そして土地の使用に於ては、非常に厘細に之れを分割し、(然かも同時に土地所有權の集中を妨げず)資本主義前期地方の市場の農民經濟に對する權威巨大にして、結局、新しい生産方法に轉移し全國の生産力を發達せしめ、農業技術の階段を高進せしめる等の事は、現在、凡て此の舊社會制度の遺毒の爲め妨礙されて居る。

## (一)

中國各省の土地關係は必ずしも一樣でない。本黨は、各地各省の土地關係を細心に研突し、各地の特殊情形に應じて本黨の黨綱實行を展開しなければならぬ。

南方各省農村中の中心人物が小作人及半小作人であることは決定的のものである。(廣東、廣西、湖北、湖南、福建、浙江等)北方では或る省はそれが自作農(山西、直隸)である。又殖民地域は更に特殊の土地關係をもつて居る。(吉林、黑龍江等)

中國共產黨は、内蒙の民族獨立より更にその分立的國家の承認を宣言し、且つその國民の自決に對する闘争を極力援助する。回族地域に對しても亦、該地の土地關係に順應する方法によつてその農民の解放を援助する。中國各省中に土着する苗黎各族に對しては、極力彼等に對する剝奪と闘争し、同時に彼等の文化的向上を援助する。

## (二)

農民を分けて、自作農、小作農、半小作農とする。又三種農民中貧農、小農、中農と富める農民とがある。農



民中の此種々類を分類し、農業生産方法………(以下二行印刷不明)

各種農民中、中國本部に於ける最大多数は貧農と小農とであり、貧農と小農とは共に毎年の収入、最少限度の一家の生活を維持するに足りない。(此の種農民は各省中或るものは五割、或るものは八割に達する)

富める農民は農村中の一小部分で、重利剝奪をやり、雇用労働者を搾取し、或は牛馬や農具を賃貸し、或は自作土地の餘分を貸與し、或は兼ねて農業の外に商業或は農村の副業を營んで居る。が又一方鄉村の官署と常に相聯絡するといふことも、此種富裕農民にとつては自由に爲し得る。随つて其數は少くとも、農村中の勢力は相當にある。然し之れを地主商人の勢力に比較すれば勿論弱小である。

中國の閥閥制度は既に早く消滅したが族長制度が非常な影響を與へて居る。地主の家族中分家ある毎に田地の分割あり、殊に現在では地價高漲のことであり、農村中の資本は都會の商業に流入して、重利剝奪の資本と變じて居る。かゝる事情は、地主階級中の中心を大地主とせず却つて中小地主とする。中小地主の貪慾、小作人に對する残酷な剝奪等は決して大地主に劣らず、甚だしきは寧ろ之れに過ぎる。

今日宗法社會の舊俗は小作人の地位をして些かも向上し得ざらしめ、寧ろ一層惡化せしめて居る。地主、商人一部分の富裕な農民、重利剝奪者の外に、中國農村中には、尙ほ土豪劣紳と云ふ同様に重要な剝奪者が居る。郷紳は、土地を有し、商業と重利剝奪とを兼營し、或は、官吏となつて居る者もあるとしても、一般的に云へば、彼等は鄉村に於ける知識階級であつて、専ら農民の剩餘生産物によつて生存して居る。彼等は租稅、課捐の法を以

て、或は、殆んど強迫的貢獻の法を以て、農民の剩餘生産物を剝奪して居る。彼等は官署と農民生産者の中介人である。

土豪は民團と同様、矢張り農村の労働平民を壓迫する寄生蟲的暴力機關である。之等の寄生蟲は、反動勢力が鄉村に於て最も信頼し得る所の根基である。

荒地、沙田等の官産は、凡て治者階級に獨占されて居り、祠田、族田、廟田等々の収入は、凡て郷紳に搾取されて居る。地主、商人、郷紳が經營する會社とか、或は各個軍閥郷紳の重利剝奪者は、極めて低廉な値段を以て官地を買収し、治者階級は官地を獨占し、且つ祠族廟宇の田産収入を侵呑し、益々自己の權力を増大して居る。

(四)

中國の所謂租佃制度には特殊の情形がある。地代の大半は穀物を以てし、且つ一般的習慣から云つて、大部分は小作人で、然かも永代小作權をもつて居る。租佃制度は一般的に云つて資本主義的性質はない。大多数は決して資本主義企業家の租戸ではない。地主の相手方は、凡て貧窮せる農民であつて、土地を借りて耕し、之れによつて生活して居るのである。只だ、廣東、浙江、江蘇の如き二三の沿海諸省の都會に接近して居る地方では極く少數の租戸があるのみ。地主の農民に對する無制限の剝奪は、一般的に云つて、實に空前の程度に達して居る。地主は獨り「絶對地租」、「收益地租」、水田に於ける灌漑設備に投じた資本の利息を、悉くもつて行くのみならず、小作人が土地に消費した資本の利息まで取り上げる。甚だしきに至つては、小作生産者及其家族が得る賃銀



の一部をすら持ち去る。

かゝる状態は、自然、小作人の収入をして、彼等の最少限度の生活維持額以下に低落せしめるが、然し右の如き舊式習慣的剝奪法の外に、新式な關係が亦發展して來て居る。

地主は極力、手段を盡して永代小作權を定期的小作制度に——出來る丈け短期の——變更しようとする。舊式な「穀物による納租」方法及び「毎年收穫の多寡を看て……」の方法は、凡て新しい方法に變更せんとし、所謂鐵租（毎年如何なる事情があらうとも、小作人は一定の租額を納める）の方法が漸次一般的となりつゝある。又押租（小作人は豫め一定の手付金を出して土地を借りる）の方法も亦、ぼつ／＼實現しつゝある。勿論此の種新しい方法の外に、舊式剝奪方法は依然として、行はれて居る。即ち小作人は必ず地主に替つて仕事をしなければならず、その報酬は非常に少ない。小作人は必ず、地主に種々物を贈らなければならず、又種々奇怪な名目の下に、地主或は地代の取立人を招待しなければならない。小作人が負債すれば、主人の奴隸とならねばならず（廣東、山東）、男を賣り女を賣つて尙ほ債務を清算し得ぬ時は、獄に投じられる。（廣東、浙江等）土豪や民團は自由に小作人に毒刑拷打を加へることが出来るのである。

殊に中國中部各省（江蘇、浙江、安徽、江西等）の小作關係中には、所謂「共有田地」と云ふのがある。地主は地の底を所有し小作人は地の表面を所有するといふのである。此の種の状態は、大半は重利剝奪から生れたもので、中には小作人が地主の荒地を開墾したことから生れたものもある。

中國永代小作權の存在及び「共有田地」の制度は、明かに中國農村中に資産階級の私有制度が優勢を占めて居ないことを證明して居る。最近に至つて、はじめて地主は全力を盡して、「共有田地」の所有權を獲得し、舊式な「共有田地」を完全な地主の所有田と變更せしめんとして居る。

地主は今や極力、剝奪を妨碍する舊式な「永代小作權」及收租時の舊式習慣（不作時は減租し、毎年只だ一回收穫の租を求め、貧民は自由に稻田に遺棄された稻穂を拾つても宜しい等）を廢止しようとして居る。地主は舊式土地所有制度を比較的現代的な資産階級的私有制度に改めんとして居る。而して農民の傾向は、反對に地主の土地を農民の所有たらしめんとして居る。

(五)

貧農、小農（時としては中農すらも）の土地所有は、僅かに形式的所有に留まる。形式上此の土地の生産資料を享有して居るに過ぎない。實際では治者階級が、課税、貿易、騙誑等種々の方法で「小作料」をとり上げるのみならず、土地の利益の最大部分、甚だしきは農民生産者及其家族の得る賃銀の大部分をまでも強奪する。自作農が多數を占めて居る省も、現在では急激な小作農への過程にある。（山西、河南）賦税の壓迫、不斷の軍閥の徵收は、根本的に農民の經濟を破壊し、軍閥戦争、匪亂の蔓延、商業交通の停頓等は、時に地價の大低落を誘起する。地主、軍閥、官僚、商人、豪紳は大規模にかゝる時土地を買収し、自作農を小作農に急激に變化せしめる。不斷の災害（直隸、山東、山西）や錢糧の豫徵、毎年數次の徵收等は、重利剝奪の現象を一層増加し、そして重利剝奪者



は農民を強壓して土地を抵當とさせる。

(六)

水利の使用上にも亦、激烈な階級闘争がある。地主は極力、灌漑水利の支配権を獲得しようとし、商人の會社豪紳地主の會社は、往々河流溪沼を奪つて農民をして、水を買はしめる。農民方面も亦自ら各個小農經濟では水利を改良する能力なきを知つて居る爲め、只だ彼等は國家政府が此の問題を解決せんことをのみ希望して居る。然し、之れは勞働者の政府のみ解決し得るものである。

農村中に於ける金錢貨幣の勢力日に増大し、之れに従つて、重利剝奪者の權威が強大となつて來る。農民中最も困窮せる分子(各省人口の五割乃至七割を占む)は、生活最低限度の維持すら出來ない。戰禍、天災、之れに伴ふ不斷の失業、及び舊習慣中に於ける各種禮節(婚喪節季等)等は、農民をして重利剝奪者から勢ひ金錢を借らざるを得ざらしめる。此の利息は二割から十割である。高利貸の中には、一種の穀物貸借の法を行ふのがある。此の法は、極端に苛酷なもので、寧ろ公開掠奪と云ひ得る。即ち、とり入れ前に一石を借り、とり入れ後一石半に或は二石にして返却する貸借である。收穫數ヶ月前の負債に對し、收穫後、殆んど一年の利息を付けて元金を返さなくてはならぬのだ。不作や、天災の時には、數十個村落の全農民が此高利貸から剝奪されることもある。

軍閥の統治は根本的に農民の經濟を破壊する。彼等の重税、雜捐、軍事徵發、封船、拉夫、拉馬等は完全に農民の經濟を破壊する。加ふるに地主はその税捐を小作人其他一般農民に轉嫁する。此種の税捐は一年に三回より

甚だしきは六回に及ぶ。商人はその課せられる一切の税捐を輸出入共に之を購買者たり又生産者たる農民に轉嫁する。軍閥制の下に於ける中國農村の困苦はかくの如く極端にして、然かも農村の破壊は匪亂を日に旺ならしめ、匪亂の蔓延は益々農村を破壊する。

外國工場生産品の輸入、機械工業の發展、資本主義的手工工場及家庭工業の發展は、帝國主義侵入地方の農民の舊式家庭工業をして、益々大きい打撃を被らしめ、同時に、農業と家庭工業の相聯合する中國舊經濟の基礎は根本を破壊される。そしてその破壊の速度は、工業の發展の速さに比して一層大きい。農村中の過剰な勞働者は之れが爲め吸收の餘地を失ひ、大多數の失業者は都會に押寄せて苦力となり、或は土匪と變じ、又軍閥の軍隊に入り、又南方各省の或る者は安南、シヤム、ヒリツピン、南洋群島に走り、北方各省の或る者は滿洲や蒙古に走る。

帝國主義の侵入は、農業の各種々植分配に大きい變動を與へた。例へば、茶の生産に於て、印度、ジャバ等の資本主義的大農場は勿論その競争能力甚だ強く、日本のも比較的強い。然るに中國自身のもものは、厘金、雜捐日に多く、益々その生産に衰退の影響を蒙りつゝある。砂糖黍の生産に於ても同様である。大農場的生産による外國砂糖の輸入により、中國の殖黍事業は衰退してしまつて居る。

又歐洲化學工業の發展は中國の土靛(藍)の生産を破壊した。帝國主義の侵凌及び中國自身の紡績織物工場の發達は、中國の殖棉殖黍區域を増大したが、戰後、中國の棉業は、米棉印棉との競争となつた。然し小農生産の中



國棉は勿論之れと匹敵し得ない。

中國小農は、依然高利貸の壓迫を受けて居る。これら重利剝奪者即ち資本家は、専ら商工業と關係ある農業へ主力を注いで侵入する。その爲めに、製油植物(菜、桐、落花生等)の栽培は非常に發展する。一方阿片及煙草の栽培が種々の意味で發展し、殊に軍閥は增收の目的から、強制的に罌粟を栽培させる爲め、良田は次ぎ／＼と此種の畑と化し去る。農民は水利の不便な其の餘の惡田、又灌漑設備の破壊された田を擁して、已むなく、米の代りに馬鈴薯等を作る。そして結果は、貧民の食料が一層惡化する。

一方商業は舊式方法の範圍に於て益々擴大し、貧農と小農は、收穫後、市價を顧みる餘裕もなく、村中の最低價格に準じて、即刻賣却し、地代、税捐、利息に替へることを餘儀なくされる。そして次の收穫を待つ間、彼等は高い値段で米を買ひ、或は米を借りて命をつなぐ。商業重利資本は、商工業と關係ある農産物(茶、絲、棉、豆、煙草、藍等)を完全に最も低廉な價を以て手中に收める。

かくて、商工業と關係ある農産品の利益の大部分は、外國の貿易商と中國の商業重利資本とが獲得し、鄉村中の貨物は都會に入る時、決して相當の代價を得ることが出來ず、同時に、中國の貨物は外國への輸出に於て、決して相當の價格を得ることが出來ない。

此の過程は、帝國主義の中國の鐵道、河川及沿海航路の霸占、商業の擴大並びに、資本主義の發展を前提として、一層烈しく現はれる。

同時に、不平等條約、協定關稅、軍閥統治、財政機關の混亂、商業重利資本の優勢等、これ等は凡て工業の發展を障碍し、頻發する經濟恐慌は、資本をして生産範圍に停滯せしめ、甚だしきは商業の上にすら週轉せしめぬ。其の結果、かゝる資本と、都會に蓄積された財貨は、田畑の購買と重利剝奪へ轉じ、小地主の數量を増加し、農民の「小作人」への轉移は更に急激となる。

帝國主義は、銀價低落を利用して全中國を掠奪する。中國銀行家、豪商、重利剝奪者は此種の損害を農民生産者に轉嫁する。一方、歐戰前、農村及都會の貧民に最も多く使用された銅元が漸次低落しつゝあつたが、戦後一層顯著となり、殊に銅元の購買力は軍閥の濫鑄で急激に下落した。同時に、軍閥の發行する紙幣、軍用票、國庫券等當初から不換紙幣に等しいものゝ爲めに、農民及都會の貧民は甚だしく損害を被つて居る。又銀行會社及獨立の商店等は自ら紙幣手形を發行して農民を剝奪して居る。中國の經濟は日々貨幣經濟の發展を爲しつゝあるに、鄉村、都會に流通する貨幣は依然として、資本主義前期の種々貨幣的特質をもつて居る。

中國農村中の土地を所有しない農民は、極めてその意義重要である。苦力、雇工、船頭、漁夫、運搬に従ふもの等非常に多い。彼等は、中國工業無産階級の祖先である。彼等は最も残酷な剝奪を受けて居る。彼等は數週間時には數ヶ月も職にありつけないことがある。

農民の失地と家庭工業の崩壊、殊に田地の零細分割は、苦力及農場労働者の數を増大せしめる。或る地方では地主が、農具、牛馬を貸與して、他人に耕やさせる。そして收穫時に一小部分の割前或は僅少な賃銀を與へる。



此の種の農民をも中國では小作人と稱して居るが、之れは小作人でなく「雇農」である。彼等の地位は「半農奴」に等しいもので、現代に於ける農業無産階級とは云ひ得ない。かうして日稼の雇農、一期定め雇農等は忙農期が過ぎれば最うなすべき求むべき仕事はないのである。

農村の剝奪には、此の外最近新式の方法が発生して居る。即ち、舊式の家庭工業は現に自然壊滅に赴き、新式家庭工業が発生したのである。

資本家から原料を受け家庭に於て織物を作り、帽子や扇や傘や花や、繡を作つたりする所謂新式家庭工業は、大部分商店が一手に製造せしめ一手に販賣するのであつて、その農民殊に農婦に對する剝奪頗る猛烈で、彼等が得る工賃は到底生活費に足らない。

中國既に國際貿易の環内に伍入し、帝國主義は中國經濟の最高權を獲得して居り、中國労働大衆は帝國主義及び中國地主、官僚、商業重利資本聯合の統治を受け、交通と工業に於ける資本主義の要素増大し、舊國家は亡びて軍閥制度擴大して居る。凡そこれ等の事實は、舊式生産方法に非常な打撃を加ふると共に、新しい生産方法にも幾多の困難と阻碍とを與へて居る。帝國主義が中國の發展を阻碍すると共に、地主及び商業重利資本家は、帝國主義及び舊官僚機關軍閥に依頼して中國の發展を阻碍して居る。帝國主義は中國労働大衆を剝奪する舊式方法を利用して、全中國を剝奪し、一方中國の支配階級は又、極力民衆を剝奪する舊式方法の安定に努める外、更に新しい方法をも運用して自己の權威と地位とを保たうとして居る。

以上の各種情形から結論して、中國農業の一般的衰退、收穫の減少、水利灌溉設備の破壊、天災、水害、饑饉の頻發、農村の破産、土匪の猖獗等は既に一般普通の現象と化し、重利剝奪の擴大と階級闘争は、右現象を背景として急激に展開しつつある。

舊社會制度崩壊し、新しい生産方法への過渡期に於て、これに二つの徑路がある。即ち資本主義的と非資本主義的とがそれである。

帝國主義時代に於ては、資本主義國家は巨大な生産機關を擁し最新の技術を應用して造り出す商品の爲め、互に極力世界市場を競争し、同時に其の原料を獲得せんとする。此の爲め、巨大な軍事機關とその技術を盡して殖民地及び半殖民地の奪掠を争ふ。此帝國主義と、加ふるに國內新舊軍閥の壓迫下にある中國は、非常に苦しい、而して遅々たる歩みの下のみ、資本主義への發展過程を進み得る。が同時に外國資本の輸入が急激に増大する。そして此の資本主義的發展の過程に於て、幾千百萬の農民苦力の苦死、幾千百萬の女工、少年労働者の苦死、流血掠奪の國內戦争、残酷な労働搾取、帝國主義侵略の深入、並びに彼等間に於ける中國利權の分割、之等の現象は免れ得ぬものである。

第二の路程、即ち非資本主義的路程は、労働大衆が中國支配階級と帝國主義の聯盟に反抗する最も困難な闘争行程であつて、大衆の武装闘争を以て、中國を統一し解放し、帝國主義を推翻し、一切の剝奪制度を破壊し、剝奪者を剝除し、労働大衆を帝國主義の壓迫下より解放し、世界の無産階級並に被壓迫民族と聯合し、而して此の



第一期の困難な過程を経たる後、無産階級の既に勝利を博した國家の援助を運用し、新式技術の生産方法を進展せしめ、一般民衆の文化を提高し、遂に無階級の世界、眞の社會主義的世界を建設せんとする行程である。

中國共產黨は勞働階級の先鋒隊である。須らく農民及都會の貧民と聯合して、無産階級の武装闘争を組織並に準備し、地主、土豪、劣紳、重利剝奪者及び之等の代表者軍閥官僚の政權を推翻し、勞農兵及び貧民のソウエト政權を建設し、以て第二の道程を實現しなくてはならない。

中國共產黨は、中國の土地制度を徹底的に變革する爲めには、混亂せる一切の舊社會關係を肅清せねばならぬと認める。随つて、農民問題と土地問題を解決する爲め、下記の辦法を實行すべきものであると認める。

一、一切の地主の土地は無償で沒收する。又、一切の私有地はソウエト國家勞働大衆組織の公有とする。

二、沒收せる一切の土地の實際使用權は農民に歸す。

三、農民ソウエトは鄉村の革命政權機關にして、彼等は土地の肥瘠、位置に應じて土地を分配し、舊小作人の富裕者をして富農となるを得せしめない。且つ、各革命軍隊の兵士及土地なき農民に土地を分與し、一方共產黨は極力革命的な土地改良を實行する。

四、寺院、教會、皇族旗地、官産公地等一切の土地は農民ソウエトに歸す。

五、祠産、旗産の土地亦農民ソウエトの支配に歸し、共產黨は一方、極力かゝる土地制度の廢滅を援助する。

六、官有の荒沙田、湖田等の土地亦農民ソウエトの支配に歸し、且つ極力之れが開墾を圖る。

七、一切の豪紳等反革革派の財産を沒收する。

八、農民ソウエトは基本金を準備し、無産にして勞働能力を失ひたるものゝ生活を保證する。

九、一切の森林、礦山はソウエト國家の所有とし、國家の中央及び地方政府は之等の保護並びに採掘に努む。

十、水利の整頓、灌漑の改良等の工事は、農民ソウエト之を行ひ、井泉、溪沼等は農民の所有とし、農民ソウエトを経て使用する。又、共產黨は水利の改良、灌漑の擴大等に新しい技術と機械、電氣等を採用するを以て自己の重大なる任務であると認める。

十一、共產黨は極力水旱災防止の事業を實行し、且つ飢饉の準備と豫防設備に努む。

十二、一切の苛酷な契約、重利債務を取消し、共產黨は低利資金貸與の機關、即ち農民銀行、農民貸借の協營組合等の組織に努める。

十三、共產黨は農産物及家庭手藝製産品の購買、農民の日用品、家庭手藝の原料の販賣等に就き農民の消費組合を組織し、又は之れを援助する。

又、共產黨は、工業を發展せしめて、農民に廉價な新式農具を供給し、肥料の販賣を農民消費組合のみに制限し、一方鄉村に於ける道路の修築等建設事業に努力する。

十四、軍閥政府の一切の賦税を廢除し、厘金を撤廢し、並びに税捐の請負制度を廢止する。革命政權は、別に單一な統一税制を定め、收入の一部を鄉村の公費に充當する。且つ收税は毎年度收穫後に行ひ、一方貨幣及度



量衡制を統一する。

十五、雇農、苦力保護法を公布する。又政府は公共的諸種工事を開始し、道路を修築し、農村の手藝を奨励し、苦力失業者の工作を保證する。」

註 五月二十一日夜、長沙三十三團長許克祥は、農民協會、總工會、黨校（勞農運動に従事する男女學生を收容講習して居たもので共產黨の完全なる一機關を形成して居た）を包圍し、武装糾察隊の武装を解除し、以後數日に亘つて男女青年の虐殺を行ひ、共產黨驅逐を高唱し、兵は白布を以て標とし、猛烈な反動振りを宣示した。當時、楊森及夏斗寅が南下して、漢口との交通絶して居たが、月末に至り交通恢復し、漢口より政府の調査員が出向いた。共產黨は嚴重なる處断を要求したが、然し國民軍長官中、湖南各地の所謂土地革命に於て直接間接共產黨員を含むもの多く、許の行動は、彼等の意思を代表するものとして却つて同情を受け政府は遂に彼を處分することが出來ず、却つて湖南農民運動者に行動の慎重を注意して事件を有耶無耶の裡に葬つた。

## 第四章 政權把握者と中國無産階級運動

### 第一節 總論

支那に於ける近代的無産階級運動が具體化したのは、日本に於けると同様、大戰後のことである。當時全世界に亘つて、財界の恐慌に伴ふ勞資の爭議が發展して居た。此の影響は勿論中國の各工業都市の勞働者に、大なり小なり波及し、資本家及政府に尠からぬ驚きを與へた。又ロシア革命の影響として、中國の青年知識階級が、自らの地

位を十九世紀後半に於けるロシア大學生のそれに對比して大に昂奮し、革命萌芽時代の一定の過程に於ける必然的任務に向つて勇敢なる進出を開始したことも、資本家なり政府なりに尠からぬ驚きを與へた。

だが、之等の驚きにも拘らず、該傾向が一定の指導の下に組織化し、擴大し、終に政權を握る軍閥の利害と直接衝突するに至るまでは、政府及軍閥當局の態度は徹底的政策實施の意思をもたなかつた。勿論幾多壓制極まる彈壓干渉の例はあつたが。（註一）

随つて、一九二〇年前後の各種工場の罷工風潮は、それが中國に於て從來にない事件の連続的發生であつたに拘らず、組織運動は全國を通じて好都合に、然かも案外平穩に發展して居る。ところが、此平穩(?)な發展時代は一九二三年二月の京漢線罷業の發生に及んで、忽ちアンダーグラウンド運動時代といふ試練期に轉移した。此の轉移はものの發展の順序から言ふならば、如何にも數階段を飛び越えたかの如き感がある。然し封建軍閥の專政的支配の下に於て、無産者運動の發展が最初にブツかる對手が誰であるかを思ふならば、此の飛躍は何等の不思議を示すものでなく、必然的な現象であつたことが明瞭となる。同時に、吾人は又此必然的現象の中に於て、爾後の運動の急激な發展の一切の理由をも發見し得るのである。

尙中國無産階級運動の初期の發展を考察するに當つて、右の關係以外、最う一つ記憶せねばならぬ重要點がある。即ち、

「最近に於ける中國勞働者及農民の政治的經濟的環境は自然發生的鬭争の發展に對し所有る條件を具備して居る。



戦後の世界的財界恐慌時代に於て、此の條件の下に幾多の闘争が行はれた。然し、當時彼等は、「自然發生」に應ずる指導精神の一般的发展徑路を経るには、餘りに過去の歴史が貧弱であつたし、又其環境が逼迫して居た。随つて彼等は、かゝる闘争の發展時代に於て、指導精神の公式的分化を経ず、突然、最左翼の指導者を迎へた譯である。」

之等の事情は、今日に於ける中國無産階級運動の特徴を形成するものである。そこで本題に戻ることとする。

無産階級運動の發展期に於ける指導任務は必然的にインテリゲンチヤにかゝつて居た。そして此のインテリゲンチヤの活動は當時學生に依つて代表された。然かも此運動の中心を爲したものは、當時の北京大學生である。彼等の運動は、五四運動を機會として生れた學生聯合會の發展と密接な關係の下に特に海港都會に於て行はれた。自然發生的な各地工場の經濟闘争進行の中に於て。

その中でも、最も組織的に行はれたのは北方に於けるそれである。蓋し、當時の指導者は組合運動の第一着手に於て、全国的な鐵道労働者を選定したからである。

北方に於ける無産階級の運動は當時非常な急速度を以て進行し、京奉、京漢、津浦等の幹線の組織並に唐山炭礦同機器廠の組織は最も有力に具體化した。だが、此の進行と共に指導者は、前者に於ては「軍閥との直接闘争」の難關にブツかり、又後者に於ては帝國主義と軍閥との聯合戦線に當面した。

一九二二年から二三年にかけての北方中國に於ける各種經濟闘争の外、揚子江沿岸諸都市及香港廣東に於ける同じ事件は、例外なしに彼等に同様な教訓を與へた。此の教訓は彼等をして、急激に經濟闘争から政治闘争へ展開せしめ、國民革命、即ち軍閥を打破し、帝國主義の壓迫を排除し、殖民地からの解放を全ふせんとする民族運動の上に、ナショナルブルジョア階級の革命的傾向を顯著にした。

無産階級がその闘争に於て軍閥と直接對立する此の間に在つても、上海の如き近代的都市に於ては、所謂資本家と労働者との正面衝突を見た。然し、中國の資本家は封建的支配者の下に立つて未だ資本家としての充分な地位を獲得して居ない。彼等は常に國內封建支配者と國外帝國主義者に依つてその發展を阻碍されて居る。随つて、中國無産階級の第一期發展期に於て、彼等は、階級闘争に對する相當の脅威を感じながらも、猶國民革命の運動に自ら參加し、労働者農民其他一般被壓迫階級大衆を糾合し、聯合戦線の形に於て積極的に進出すべき境遇に置かれて居た。

無産階級運動の開始から、國民革命軍の北京占領に至る約十年間、全國は群雄割據（勿論北方中國は中央政府の勢力下に比較的大きな統治區域を占めて居たが）の情勢下に政治的統一を缺き、私兵を擁した各軍隊の領袖は夫れ／＼その勢力地帯に専制政治を行つて居た。中國無産階級は實にかゝる支配階級の下に各地に於て闘ひつゝあつたのである。

但し、此の間孫文を中心とした國民黨が廣東を根據とし、ブルジョアデモクラシーの革命に苦闘し、被壓迫階級



の保護を宣言して居たが、常に地方軍閥との戦ひの爲め寸暇さへなく、廣東一市の安定すら期し得ない有様だつた爲め、口と筆以外、無産階級運動にこれぞといふ記録（第一次香港海員罷業に國民的後援の任を盡した以外）を留めて居ない。國民黨はその第一回大會及第二回大會に於て、労働者農民に對する政綱を發表した。然し、此の政綱を實際に行ひ得る力量を獲得した時には、既に所謂革命的ブルジョアデーの性質から脱却して居た。そして今までの封建軍閥とは異つた立場に於て、支配階級として無産階級運動に臨む地位に坐つて居た。

本章に於て吾人は無産階級に對する支配階級を、（一）封建軍閥及同政府、（二）國民黨の二つに區分したが、要するに無産階級と政權階級との對立は、後者との關係に於て、はじめて近代的の表現が示されて居る。此の點に於て、一九二五年國民軍在京當時の北方の狀勢及張作霖大元帥時代に於ける北方の狀勢は近代的の重要性の程度に於て遙かに後者に如かない。そこで本稿は主として後者との關係に力を注ぎ、前者との關係は大勢を諒解し得る程度に於て記述する。

## 第二節 封建軍閥並に同政府と無産階級運動

農民運動が現實の問題となつたのは、共國合作後、特に北伐開始後のことである。然かも、プロレタリアートの下に農民大衆を領導せんとする階級的運動として之れが現實の發展を見せたのは、共國分裂後共產黨が南昌に於て會議し、過去の機會主義的政策に嚴重な批評を下してから以後のことである。

随つて、舊封建軍閥と無産階級との對立を第一期時代（國民黨の第一次北伐開始まで）及第二期時代（共國分裂まで）に大別しても、其の期間は共に共產黨の方向轉換以前のことと屬する。此期間に於て、封建軍閥は無産階級運動として、労働者の運動に接しても、組織された農民からの具體的脅威を経験しては居ない。

但し前述第二期に至つて、労働運動の組織の擴大が、一九二七年三月上海で計畫された最も革命的な武装暴動にまで發展して居る如く、農民の運動及組織も非常に擴大し、時に革命軍のバルチザンの役割をすら演じて居る。然し、かゝる活躍は全國的運動として發展したものでなく、専ら北伐戦の前線に於てなされたものであるから、軍閥は此種農民の運動を只敵軍の一部の行動として取扱つて居る。

農民運動に對する階級的態度は農民の階級的發展が或る段階に達し、封建地主階級の武装を意味する軍閥（此時に於ける軍閥は、既に革命軍下の所謂新軍閥と改まつて居る）と直接對立するに及んで始めて具體化した。この具體化は、所謂前述第二期の終頃から、國民黨支配の内部に於て明瞭となり出したものである。

尙舊軍閥の支配に就ては、中央勢力の外、四川、貴州、雲南、廣西、江西等々各地に群雄割據して覇を争つて居たものの、無産階級運動に對する態度は彼等が封建地主階級の武装の表現であつた點に於て、必然的に共通して居る。假令或地方では特殊な環境の下に表面に現はれなかつたにせよ。

當時（即一九二〇年前後より一九二八年張作霖の没落まで）に於ける無産階級運動の實際よりみて、本稿の内容は寧ろ「封建軍閥と労働運動」なる題下に、



- 一、一九二五年まで。
- 二、國民軍時代。
- 三、張作霖時代。

に分つて之を叙述すべきであらう。

### 第一項 一九二五年まで

中國共產黨の組織された前後から一九二五年馮玉祥の北京支配に至るまでの間、中央及南方の政情は大要左記の如き變化を示して居る。

- 一、一九二〇年七月安直兩派交戦の結果、全盛を極めた段派並に安福政客没落し、徐世昌總統の下に、奉直兩軍閥が中央政界に對立して居た。
- 二、一九二二年六月には第一奉直戦の結果として、黎元洪再び總統に迎へられ、直隸派は湖北湖南をまで支配し一九二三年十月には曹錕大總統に就任した。
- 三、一九二四年九月第二回奉直戦開始され、馮玉祥は十月、クーデターにより曹錕を幽閉北京を占領し、次で段祺瑞が張作霖を背景として臨時執政に就任した。
- 四、次に南方の狀況を一瞥するに、孫文は軍政府の六總裁と合はず、一九一九年八月上海に去つたが、翌年十月

陳炯明が陸榮廷等を逐ふに及んで歸粵し、一九二二年四月總統となる。一九二二年四月、奉直戦を好機として孫文は廣西より北伐せんとしたが、陳のサボターヂユで成らず、一旦歸粵の上路を江西にとり、六月贛州を占領した。同月陳遂にクーデターを行ひ孫文身を以て上海に逃る。

一九二三年滇桂軍陳を追ひ一月孫再び歸粵、大元帥となり、軍官學校を創設し、新人物の養成に努め、一九二四年一月、終に國民黨の大改組を行ひ、新しい進出の準備を整ふ。

此の間に發生した事件の中、無産者運動と關係あるものと云へば、直接には労働組合運動であり、間接には青年學生の運動である。當時の封建支配者が無産者運動に如何に對して居たか？を示す爲め、前記運動の簡単な情勢を擧げて見よう。青年學生の運動に於ては先づ五四運動が發生して居る。

これは、日支軍事協定に反對した北京學生が示威運動を行ひ、曹汝霖の私宅を襲撃した事件であつて、近代中國に於ける政治的民衆運動の開始を意味する。此事件から一箇月を経ずして上海に全國學生聯合總會が組織され、其後に於ける學生の政治的大衆運動の基礎を建設した。然し之等の組織が、殖民地中國の革命、所謂國民革命運動に歴史的役割を具體的に演じ出したのは、數年の後、即ち社會主義青年團の基礎確立し、その運動が具體化した頃からである。青年インテリゲンチヤを主力とした、當時の無産運動指揮者は此の學生組織を最も有力に活動せしむべく不斷に努力した。彼等は實に、無産階級自身の力量が増大し、無産階級自ら一般被壓迫民衆を領導して革命を高唱する今日の階級に達する以前に於て、此の學生の組織を大衆運動の第一線に動員して居たのである。



此の立場に於て、學生の組織は一九二〇年前後から一九二三年に亘る各地の勞働爭議に非常な援助を與へた。又、所謂五四、五七、五九紀念日(註二)に於ける全國的示威運動に於て、年々大衆運動の基礎を擴大して行つた。

一九二二年秋には、全國的な裁兵運動を行ひ、次で廿一ヶ條廢棄、旅大回收の運動を開始し、猛烈な排日運動を約半年に亘つて繼續した。(註三) 然し、學生の此種運動は、當時に於ては、尙未だ一種の愛國運動たるに留まり意識的に無産者運動に参加せるは極めて少數であり、且つ此の少數分子の組織經驗薄弱にして充分な指導能力を備へて居なかつた。隨つて其の對外運動も未だ所謂反帝國主義の目標に達せず、「排日」の場合には英米の同情を受け「排英」「排米」の場合には日本の同情を蒙るといつた様な情勢であつた。

されば當局に於ても之れが取締意識の上に、何等脅威憎惡の感情を含まなかつた。即ち段祺瑞内閣は五四事件に先だち北京に於ける留日學生の運動に壓迫を加へ幾多の學生を檢束し、事件後北京大學を臨時獄舎とまでしたが結局「青年學生の愛國の情にかられたる……云々」で問題を片附けてしまつた。旅大運動に至つては殊に然りである。

青年學生運動のかゝる傾向は、然し、一九二三年の二七事件並に臨城事件に於て一轉した。即ち次に述ぶる勞働運動に與へた同事件の影響と相並んで。

勞働運動に於ては、第五章に詳述するであらう如く、中國勞働組合書記部が指導中心となり、一九二〇年來、勞働者の組織に活動した。書記部は當時本部を上海に置いて居たが、その闘士の主力は北平大學出身の青年であつて、鐵道特に京漢鐵道の組織を中心として北方地方に多く具體的な成績を挙げつゝあつた。

一九二二年五月、書記部の唱導の下に、第一回全國勞働大會が廣東に開かれ、前後して同じ廣東に催された社會主義青年團第一回全國大會と密接な連合戰線策略を決定して居る。

當時の組合運動は、各地罷業の續發時代であつたに拘はらず、半公開的に行はれた結果として、一九二一年春には唐山、開灤の各組合の基礎成り、翌年八月には京漢全線十六俱樂部は該線總會準備委員會を組織して第一回罷業を始めて居る。長江流域の組織も、一九二二年に入り非常に進展し、十月には廿八組合を指揮する湖北全省工團聯合會成り、粵漢鐵道總工會、漢冶萍總工會亦前後して成立した。殊に武漢の勞働者は旅大回收の國民運動に参加し或は自ら中心となつて國民外交後援會を組織する等、政治的活動に將來の地歩を進めつゝあつた。湖南全省工團聯合會も十四箇組合の中央機關として一九二二年秋成立した。湖南は由來サンチカリズムの中心地であつたが、此の頃より組合運動は漸次組合書記部の指導下に歸屬し出した。中華海員航業聯合總會は一九二三年末、中國に於ける最初の産業別的全國的組合としての組織を宣言した。斯の如き全國の組織運動は、第一回全國勞働會議の結果として特に急激に發展した。一九二三年二月京漢線第二次罷業は、然し少くも中央政府領域内に於ける一切の無産運動の進展を阻碍するに至つた。凡ての經濟闘争は強壓的に禁ぜられ組織運動は彈壓され、有力な指導者は逮捕追放投獄の憂目に遭ひ、かくて九分通りまで出來上つて居た全國鐵道汽船の産業別的組織による海陸交通機關の獲得、並びに一九二四年第二回全國勞働大會を召集して全國組合の中央機關を組織すること等々の急激な前進は、結局一時「足踏み」を餘儀なくされた。多少とも改造解放運動に従ふ急進青年の一切の運動と共に。



北方封建支配者の前述無産運動に對する態度を要約して見るに、既にも述べた通り各地の勞資爭議に於て幾多の彈壓(例へば一九二二年開深炭鑛罷業に於けるが如き)を加へて居るに拘らず、無産運動の組織が薄弱であり、大衆の獲得が具體化して居なかつた事の爲に其の壓迫はさまで徹底的でなかつたと云ひ得る。隨つて北京學生を中心とするソウエートロシヤ承認の運動、十月革命の紀念、レニンの追悼、メーデーの紀念(之等は孰れも民衆の示威運動にまで擴大することはなかつたが)等は公然と行はれ無産運動の宣傳誌例へば嚮導(一九二二年九月中國共產黨の中央機關誌として出刊)中國青年(共產主義青年團の機關誌で一九二三年十月出刊)工人週刊(一九二二年六月來組合書記部の機關誌として出刊され、全國鐵路總工會成立と共にその機關誌となる)勞工週刊(一九二二年來湖南勞工會の出刊に係る無政府主義系のもの)新青年(民國四年即一九一五年來發行されて居り、中國ルネサンス運動に歴史的役割を勤め後陳獨秀一派に依つて共產黨の理論雜誌となつた)先驅、青年週刊、黎明(以上一九二二年當時、北京、廣東、天津の各社會主義青年團に於て發行)廣東の共產黨月刊、血祭、星期評論(此兩者は漢口に於いて當時の共產黨幹部李人傑が出刊して居た)人民、今日(此兩者は一九二二年北京マルクス主義研究會の機關で前者は半月刊、後者は月刊)勞働界(新青年同人の戰闘雜誌)其他幾多の書籍パンフレットは自由に出版販賣されて居た。尤も勞働者農民の經濟及政治闘争を抑壓する法律として左の如き罷工禁止の明文が刑典にある。(暫行新刑律)

「第二百二十一條 文書、圖畫、演說其他の方法を以て公然他人の犯罪を煽動したる者は左の例に従つて處斷す。

一、其の罪の最重刑が死刑又は無期徒刑なる時は、三等(三年より五年)乃至五等(二月以上一年)の有期徒刑、又

は三十元以上三百元以下の罰金に處す。

二、其の罪の最重刑が有期徒刑なる時は、五等有期徒刑、又は拘役(一日以上二月)若しくは百元以下の罰金に處す。新聞紙其他定期刑行物又は他人の論説を編纂したる公刊書を以て本條の罪を犯したる場合に於ては編輯人も亦前項の例に依りて處斷す。

第二百廿三條 強暴脅迫、又は詐術を以て左記の行爲の一を爲したる者は四等(一年以上三年)以下の有期徒刑又は拘役若しくは二百元以下の罰金に處す。

一、穀類其他公共所要の飲食物の販運を妨碍したるとき。

二、種子、肥料、原料、其他農工業所要物品の販運を妨碍したるとき。

三、多數勞働者を使用する工場或は鑛坑の執業を妨碍したるとき。

第二百二十四條 同一業務に従事する勞働者が同盟罷工を爲したる時は、首謀は四等以下の有期徒刑又は拘役若しくは三百元以下の罰金、其他は拘役又は卅元以下の罰金に處す。

第二百五條 故なく現に他人の居住又は看守する邸宅、建築物若しくは艦船に入り、又は阻止を受くるも退去せざる者は四等以下の有期徒刑又は拘役、若しくは三百元以下の罰金に處す。」

然し多くの場合、此の法典によつて公式的處分取締を受けて居ない。支配者即ち封建軍閥が或る勞資の爭議に於て間接或は直接に利害を蒙る場合には、法律の明文によることなく、自己の所有する武力によつて自由な裁斷を加



ふるを常とした。そして此の場合には無雜作に同法騒擾罪が適用された。

「第六十四條 強暴又は脅迫を爲す目的を以て多衆聚合し既に官憲より解散の命令を受くるも仍ほ解散せざる時は四等以下の有期徒刑又は拘役若しくは三百元以下の罰金に處す。

附和隨行して單に助勢したるに止まる者は拘役又は五十元以下の罰金に處す。

第六十五條 多衆聚合して強暴又は脅迫を爲したる者は左の例に依りて處斷す。

- 一、首魁は無期又は二等以上の有期徒刑。
  - 二、重要な事務を執りたる者は一等乃至三等有期徒刑、又は一千元以下百元以上の罰金。
  - 三、附和隨行して單に助勢したるに止まる者は四等以下の有期徒刑又は拘役若しくは三百元以下の罰金。」
- といふのが即ちそれである。

京漢線の罷業は第一次香港海員罷業と共に、中國無産階級史上の最も重大な出来事の一である。後者は帝國主義に對する殖民地民族の反抗たる點に於て、前者は半殖民地に於ける労働階級と封建勢力との階級的正面衝突たる點に於て。

京漢線罷業は、全國鐵道の産業別組織の大成を目標とするものであつた。當時の指導者労働組合書記部の主力は此の鐵道の組織を中心として全國鐵道總工會を成立せしめ、之れを又中心として全國總工會の組織へ發展する、といふ方針に注がれて居た。罷業は前（一九二二年八月）後（一九二三年二月）二回行はれた。第一回は僅か二日で

解決した。結果は組合の承認以外、待遇改善に關するものは大部分認められて居る。

第一回の罷業は全線十六分段各工人俱樂部を完全に結合させた。彼等は二月一日鄭州で愈々京漢線組合の所謂總工會發會式を舉げることに一致した。當時奉天軍閥を關外に追ひ、直隸派の下に南北を統一せんとして居た吳佩孚は、「鐵道」と云ふ軍閥の生命を保護する立場から、嚴重な態度を表示した。かくて第二回の罷業は組合彈壓反抗の下に行はれた。軍隊と労働者の衝突は全線各處に行はれ、江岸では被捕者を奪回せんとする二千の労働者と軍隊の衝突に依り死者三十二、負傷者百三十餘を出した。其他或る者は從業を肯んぜずして殺され、或者は罷業破りを阻止せんとして捕はれ、徹底的な武力的壓迫の下に六日目即ち九日彼等労働者は復業した。此の罷業に於て動員された軍隊一萬二千、そして太沽造船所又は京奉津浦線より労働者を輸送し武装軍人監視の下に列車の運轉をはかつた。労働者側では死者四十二、負傷三百四十、逮捕者四十餘、失業者約千五百を出した。

此の罷業以後、當時の中國の大部分を支配して居た軍閥は、無産者運動に對し徹底的な暴壓を加へ出し、從來半公開的に行はれた組織運動はその發展を阻止され、一切の經濟闘争は彈壓され、急進青年の組織運動、その集會結社は嚴重な禁壓を蒙ることゝなつた。かくて、當時の指導者の主なる者は或は南方に走り、或は海外に走つた。豫定されて居た一九二三年五月の第二回全國労働大會の召集、全國總工會の組織等々は一切延期された。

以上は京漢線罷業による表面的な現象であつた。だが、一方に於て、労働者の組織運動は、突然彼等の上に加はつた大壓迫の下に却つて堅實な發展を開始したのである。労働者は此の闘争に於て、自己を保衛し發展せしむるも



のは、只だ自己の力、即自己の組織のみなることを痛烈に感じた。そして、彼等の單なる經濟的闘争は、何等の役に立たぬこと、之れを政治闘争に展開することによつてのみ、彼等の組織を擴大し發展せしめ得ることを痛感したのである。前にも述べた如く五十餘日に亘つた香港罷業の經驗に加ふるに以上の經驗を以てしたことは、五卅事件以後の運動の實踐的基礎の形成を物語るものであつた。

五卅事件より共國分裂に至る約二ケ年間は過去に於ける革命最高潮期であつた。此の期間に於ける無産階級運動は凡ゆる點に於て政治的な色彩下に發展して居たが、これ等の基礎は實に京漢線罷業後に於ける組織運動（即ちアングラグラウンドの）に在つた。

一九二四年第一回二七紀念日、書記部は秘密裡に北京に於て全國鐵道代表大會を召集し、參加した京漢、津浦、京綏、粵漢、膠濟、正太、瀧海、株萍の各代表によつて全國鐵路總工會の成立を宣言し、同年六月香港で開かれた太平洋運輸労働會議に代表を送り、更に八月ハンブルグの第四回國際運輸労働大會の參加を以て、その役割を國際労働者共同戦線へと擴大して居る。

かゝる新しい基礎の擴大、組織の展開に對する運動は着々と行はれ、彼等の宣傳——特に反軍閥の——は、益々巧妙に行はれつゝあつたに拘はらず、所謂第一回壓迫以來直隸派倒壊に至るまで殆んど犠牲者を出すことはなかつた。そのかはり又表面に現はれた闘争もなかつたのである。

尙ほ、此の期間に於ける政府の施設としては、一九二三年三月、即京漢線罷業の翌月、農商部で公布した「暫行

工場法」なるものがある。勿論政府に誠意あつてのものでなく、發布された日より既に死法として取扱はれ、以後の労働運動發展期、公開時代に於てすら、曾つて労働者側より此の法の存在を耳にしたものは無かつたであらう。然しあつたことはあつたのであるから左に之を擧げて見る。

「第一條 本法は左の工場に適用する。

一、職工百人以上を使用するもの

二、危険並に衛生上有害なるもの

本法適用外の工場に關しては別に部令を以て之を定む。

第二條 中國領内の外國工場にも本法を施行する。

第三條 工場主は十歳未滿の男子及十二歳未滿の女子を使用するを得ない。

第四條 十七歳未滿の男子、十八歳未滿の女子を幼年工とする。

第五條 幼年工は輕易な作業に従事せしめる。

第六條 幼年工の労働時間は休息時を除き八時間以内とする。成年工は同じく十時間以内とする。

第七條 幼年工を夜業（午後八時より翌午前四時に至る）に就かしむるを得ず。

第八條 成年工には少くも毎月二日、幼年工には三日の休日と與へる。已むを得ざる事情の爲め該規定の適用を停止せる時は三日内に行政官廳に届出るを要す。



第九條 如何なる勞働に在つても毎日一回一時間以上の休息を與へる。

第十條 晝夜交代制の工場に在つては毎十日に少くも交代するを要す。

第十一條 賃銀は全部通貨を以て支拂ひ、職工の同意なくして物品を之に代ふるを得ず。

第十二條 賃銀は少くも毎月一回交付する。

第十三條 特に勞働時間の延長を要する時は、時間外勞働に割増賃銀を支拂ふべきものとす。

第十四條 違約又は損害賠償に充つる爲め賃銀を豫め扣除するを得ず。

第十五條 職工の、貯蓄又ははその利益の爲め賃銀の一部を醸出せしめんとする時は、豫め職工の同意を得、且

つその方法に付き行政官廳の許可を得べし。

第十六條 解雇又は死亡の際は賃銀の全部を即時に支拂ひ、貯金ある者には同時に之を交付する。

第十七條 工場主は撫恤、奨勵、養老に關する規定を制定して官廳の許可を得べし。

第十八條 幼年工及無學者に對し、工場主の費用を以て工場内に補習教育機關を設ける。

此項補習時間は幼年工は一週十時間以上、無學者は六時間以上とす。

第十九條 職工の傷病に際してはその作業を停止或は制限し、且公傷病の時は工場主醫療費を負擔し、休業中の賃銀を支拂ふ。

第二十條 女工の産前後五週間休暇を與へ適當の扶助金を與ふ。

第二十一條 幼年工及女工を運轉中の機械、動力傳導装置の危險部分の掃除、注油、検査、修理、調帯のとりはづし其他危險なる作業に従事せしめるを得ない。

第二十二條 毒藥、劇藥、爆發物、其他有害な物品取扱に幼年工を使用するを得ない。

第二十三條 危險なる又は衛生上有害なる場所、塵埃、粉末其他有害氣體發散の甚だしき場所に幼年工を作業せしむるを得ない。

第二十四條 工場は職工の衛生及危險の防止に相當の設備をすべし。行政官廳は隨時員を派し之れを検査するを得  
第二十五條 官廳に於て、工場及其附屬建築物並にその設備に就き、危險發生の慮あり、或は衛生其他公益に害ありと認めたる時は、該工場は官廳の命により相當の改革を施すべし。

此の場合官廳に於て必要と認むる時は、全部又は一部の使用を禁じ得る。

第二十六條 工場主は工場管理人を選定し場内一切の事務を處理せしむるを得。此の選定は官廳に報告すべきものとす。

第二十七條 管理人は工場主に代り本法上の一切の責任を負ふ。

第二十八條 本法は公布の日より施行する。」

註一、當時に於ける罷業理由の大部分は賃銀値上、待遇改善であつた。資本家側の此の種要求に對する態度は、然し、極めて原始的であつた、「勞働者の癖に桶つく……？」が彼等の一切の態度を支配した意識であり、當局も亦大體この意識の上に壓迫權を行使し



て居た。例へば

上海開北の生糸工場罷業（一九二二年八月）の時、工場主の取締要求理由に曰く、「罷業者中、男女平等人權保障云々の小旗をもつて居たものすらあつた。……」又同年日華紡績の第二回罷業に於て會社は「組合は職工から會費を徴收した上に罷工をさせ、職工に二重の損害を與へるものである。……」とて組合の不承認を宣言して居る。彈壓の事例を擧げるならば、

A 三新紗廠罷業 中國資本經營最古の會社で罷業は一九一九年四月から二〇年二月の間に前後三回、いづれも賃銀増加を理由として行はれ悉く失敗して居る。其の因は當局の暴壓で、罷業の主謀者として捕はれた者は、例の騒擾罪で處斷されて居る。

B 黃龍事件 一九二二年一月長沙華實紗廠罷業に對し總司令趙恒惕は軍隊を動員し、且つ首謀者として捕へた湖南勞工會幹部の黃愛、龐人銓を軍法を以て斬殺した。此の斬殺は近代労働運動に於ける最初の犠牲者であつて、「一、一七」は「二七」と共に中國労働者の間に紀念されて居る。

C 開北女工罷業 上海開北二十四家の生糸工場の女工は一九二二年八月、時間短縮賃銀値上を要求して罷業した。此罷業は約十五萬に上る上海全女工に非常な衝動を與へ、女工組織の端となつたものである。然し闘争そのものは官憲の猛烈な防備で失敗した。官憲は終始工場を包圍して罷工破りを保護し、強硬者には軍法の適用を以て威嚇した。

D 日華紡績罷業 一九二二年四月より十一月に亘り三回行はれ、軍警は罷業者に對して治安警察法二十二條を以て禁壓し、護軍使は代表の逮捕令を發し徹頭徹尾會社の爲めに行動したものである。

E 漢口水電罷業 組合承認要求の罷業に對し（一九二二年九月）會社は軍隊の保護下に職工を補充し、軍隊と偵緝隊とは一切の集會を禁止し完全に罷業を失敗に終らせて居る。

F 粵漢鐵道罷業 一九二二年九月、待遇改善と當居の壓迫に對する反抗とで罷業し、督軍蕭耀南は沿線に軍隊を動員し、強硬な鐵道當局と聯合して徹底的に彈壓せんとした。日夜労働者と軍警の衝突あり、絶えず犠牲者を出したが、全國の輿論に訴ふる宣傳と、勇敢なる闘争とによつて此の罷業のみは大體に於て成切して居る。

G 開慶炭礦罷業 一九二二年十月賃銀値上、待遇改善で罷業は開始された。開慶地方の組織は、京漢線の組織と共に、最初に着手されたものであることと、該礦が英國資本の支配下に在るものたることは、此の罷業の性質を非常に重大なものとした。直隸軍閥の首腦は彈壓の爲め一千の保安隊と六千の軍隊を派遣し、労働者の組織した一千の糾察隊を鎮壓し、一切の集會を禁止し、軍法を以て罷業者を威嚇し、會社をして安心して強硬政策を維持させた。

註二、五四は、五月四日（一九一九年）の示威運動事件の日であり、五七、五九は、一九一五年大隈内閣が所謂二十一ヶ條要求に關し最後の通牒を提出した日、及中國政府が屈辱的回答を與へた日である。

註三、五四、五七、五九等の紀念日は一九二〇年以來毎年排日示威の形を以て行はれて居る。

然しそれが即ち所謂「排日」が最も全國的に、そして最も熱切に行はれたのは一九二三年春の旅順大連租借期満了を前にしてのものであつた。此運動は同年の五四紀念日以後に至つて極端にまで發展するだらうと内外に豫想されて居たが、實際に於ては、直隸派の「大總統」野望と臨城事件の發生の爲め、そこまでは至らなかつた。

此の運動の動機は、最初一九二二年秋

「旅大の租借は日本が露西亞から、その儘繼承したもので期限は廿五ヶ年である。二十一ヶ條々約は日本の脅迫によつて成立したものであるから認められぬ。隨つて旅大は一九二三年三月廿六日を以て回收すべきである。」

との主張に基く示威運動が漸次全國に擴大し、衆議院も、同年十一月廿一ヶ條々約無効を決議し、翌年一月參議院も同様の決議を行つた。

一九二三年三月、外交部は大要左の條約修改を日本政府に申込んだ。

「民國四年の條約及交換公文は日支親善の最大障礙である。支那は調印後、それが壓迫に依り已むなくされたものであることを聲明し、巴里會議でも華府會議でも、その廢止を要求し、參衆兩院は民意を代表して本年一月、該約無効を決議して居る。今や旅大租借の期限も迫つて居るから、此際該約廢棄の交渉を開始したいと思ふ。期日の指定を乞ふ。云々」



之れに對し、日本外務省は、直ちに左の内容の回答を送つて明瞭に之を拒絶した。

「該條約は兩國元首が正式に批准したもので之れが廢棄は國際通義に反する。日本は常に親善の誠意を有するから、既に或は一部を改修し或は拋棄し或は留保を撤回して居る。随つて今回の申出には應じられない。云々」

## 第二項 國民軍時代

これは一九二四年十月、馮玉祥によつてクーデターが行はれ、直隸派が没落し、北京の軍政兩權が馮の手に移つてからのことである。そして一九二六年四月奉天軍の北京入りまでの間である。

此の間約一年半、然かも第一期革命高調に際して居る。此の間に於ける北方中央政局の動きは、

一、直隸派の没落と奉天軍關内進出、段祺瑞執政の下に安福系諸政客の復活。

二、江蘇、安徽、山東を結ぶ奉天軍閥の北支縦斷に對する河南、直隸、陝西、綏遠を保持する國民三軍の對峙。

三、段、張の妥協によつて南北統一問題を國民會議にまで漕ぎつけようとする孫文の上京、並に國民黨一派の北京に於ける諸活動。

四、國民革命氣運の高調を代表する青年學生の新しい大衆的運動の開始。之れを指導せんとする中國共產黨の公然たる活動。

等々の錯綜したものであつた。

「最も聰明なる機會主義者」と稱されて居る馮玉祥は、奉天軍との對峙に於て、前途を豫約する國民革命の高調に

逆ふことを絶対に避けた。此の點に於て最も正直に舊軍閥意識を發露した奉天軍は全國の新興的氣分のあらゆる反抗を招いて居た。

馮玉祥軍が京津を支配して居た限りに於て、國民黨を中心とする革命的な總ての行爲は、前例なき迄に自由に行はれた。一切の民衆運動は公然と行はれた。勞働組合は凡て恢復し且つ北京にも天津にも新たに組織され、指導者は旗を押立てて農村に宣傳した。從來毒物爆發物の如く取扱はれた各種書籍雜誌は、自由にそして盛んに市場を賑はした。勞働者は一切の反帝國主義運動に直接參加した。

然し、これ等は合法的にさうであつた意味でなく、唯だ時の實力者が自ら公認した意味に於ての現象であつた。随つて此の自由であつた一年半の間に、無産階級運動は勿論、民衆の一般的權利自由に就いて如何なる法規が定められたか？又如何なる施設が爲されたか？と云へばそれは一つも無いのである。

吾人は本節の題目に關して此の時代を記述する時、政權者側に就ては只次の如くに言ふことが出来る。

「元首は段祺瑞であつた。然し周圍の軍權は馮玉祥によつて把握されて居た爲め、段は何等の警察行政權をもたなかつた。馮は段の友でなく敵であつた。馮は國民革命の高調を觀察することに於て、自己の新しい地盤を發見した。そこで彼は、此の高調の現れとも見らるゝ一切の大衆運動に對立又は關涉することを極力避けた。かくて民衆の利益に對する如何なる政府の施設もなかつた代りに、所謂解放運動は最も自由に行はれ、革命意識の大衆的宣傳は最も有効に行はれた。此の點に於ける國民軍の無産運動に對する功績は偉大なものがある。」



尤も五卅事件當時、勞働組合法制定に關する要求が非常に盛んとなり、上海方面の各種團體中代表を派して運動するもの尠からず、段政府も輿論に迫られ、之れが制定を聲明し、先づ草案を發表した。此草案は法制院の修正に回付されたきりで終に本物にならなかつた。が、その主要な點を擧ぐれば、

「第一條 同一職業に従事する勞働者は、同業の公共利益を維持増進する爲本法によつて組合を組織し得る。但し同一地方行政區域内に於ては一組合に限る。尤も他行政區域の同種組合と聯合會を組織し得る。」

即ちこれによつて、完全に産業別組合組織を妨碍して居る。次に組合の目的に就き、其第三條に、

「會員の職業紹介其他互助事項

待遇改善に關する事項

勞働情況の調査報告等の事項

組合員の貯蓄勞働保險等の事項

同消費組合及合宿舍等の事項

關係者の請求による勞資爭議の調停

勞働者の利益に關する政府への請願又は意見の陳述

衛生並知識技能増進」

只單に之れ丈けを並べて居るだけで、何のことだか一寸諒解が出来兼ねる。而かも第四條に於て、組合組織には

五十人以上の勞働者發起人となつて出願すべきを規定し、且つ發起人は(一)卅歳以上たること(二)三年以上現職業に従事して居ること(三)大體字を知つて居ること、の三制限を加へて居る。而して最後の第二十二條に於ては、

「工會法を犯し公安を擾亂した場合には、又或は公益を妨碍し且つ禁鎮の命に服しない場合には、會務を停止し之れを解散せしむるを得。」

として一切の罷業を無雜作に封じて居る。

此の草案は段政府當局者の新しい傾向に對して如何なる程度の理解をもつて居たかを示すに止まるものである。

尙此の間北方に於て注目すべき勞働者の闘争が二ヶ所に於て發生して居る。一は第一次上海紗廠罷業に續いて發生した青島紡績會社のゼネラルストライキであり、一は五卅事件後發生した、天津裕源紗廠の罷業である。前者も後者も奉天派勢力下に行はれ、罷業は軍警の共通せる彈壓下に終熄し、特に前者に於ては、職工の工場占領、軍警の包圍、發砲と六名の死者の發生にまで事件は擴大して居る。此の事件は、國民軍勢力下に於ては、民衆の反帝國主義反軍閥の示威運動の形に於て、大きな反響を表現して居る。一切公認の環境下に於て。

かくの如く、無産階級運動は、それ自身の組織に就ても、又國民革命運動に關する、所謂、被壓迫階級の聯合戦線を進展せしむる大衆運動の上に於ても、國民軍管下に關する限り、非常に活潑であつた。青年運動に於ては殊に然りであつた。

今此の期間の末期に發生した「三二八」事件を左に記述しよう。



・孫文北京に客死して後、國民黨員の主要なる幹部は廣東に引上げ獨立の計畫樹立に着手した。國民會議云々は完全に過去のものとなり、北京に残されたものは、(一)非廣東派の國民黨員(所謂西山派)の活動、(二)張作霖の勢力を引入れて國民軍を追はふとする段祺瑞一派の活動、(三)關稅會議を中心として動員された青年前衛分子の猛烈な反帝國主義運動、(四)國民軍特に馮玉祥並に國民黨員の革命的風潮に不安を感じた列國の聯合ボイコット、(五)郭松齡失敗後に於ける帝國主義者及軍閥(奉天)に對する民衆運動の激烈化等々であつた。

一九二六年三月十六日、辛丑條約關係の八國公使は聯名を以て、自河航行權保障に就き、

- 一、大沽バーより天津に至る航路に於て戰鬪行爲をせぬこと。
  - 二、水雷地雷其他一切の障礙物を除去すること。
  - 三、一切の航路標識を恢復し且つ將來何等の妨礙行爲を爲さざるを保障すること。
  - 四、一切の軍艦は大沽バーの外に停泊し、外國船に干渉するを得ざること。
  - 五、海關官吏以外、外國船舶に對する一切の検査は停止すべきこと。
- を通告し、四十四時間内の回答を要求した。

北京各界代表會議の流れ約六十名は十七日執政府外交部に赴いて責任者との會見を申込んで得ず、執政府前では學生六人衛兵の爲め重傷を負ふた。反帝國主義、反軍閥熱に昂奮した青年各團體は、回答日たる十八日の午後一時、天安門に於て國民大會を開催した。そして大要、

#### 一、反對八國通牒

#### 二、辛丑條約及一切不平等條約の廢棄

#### 三、京津一帶外國武力の即時撤退

の決議を爲し、散會後約二萬の示威行列を以て再び執政府に押よせた。此日の示威運動は、「國民革命」の高調を最も具體的に現出した。そして最も有力になされた民衆運動であつて、一九二七年夏以後今日に至る間、國民黨勢力下に終に再び見ることの出来なかつた光景を呈した。

衛隊は然し示威運動の先頭に發砲した。そして、民衆運動に於ける最も悲愴な一幕を演じ去つた。武装されざる青年學生及勞働者四十七人死し、百六十四名(内百十四は學生)は負傷した。

段政府は此の慘劇を演ずると共に、一方「正當防衛」の辯解を試みつゝ、他方では左の如き命令を發し、疑心暗鬼の外國に向つて彼等の立場を明かにした。即ち命令に曰く、

「近年來、徐謙、李大釗、李煜瀛、易培基、顧兆熊等共產學說に假借して群衆を嘯聚し、屢々事端を肇く。本日徐謙共產黨執行委員會の名義を以て傳單を散布し、暴徒數百人を率領、國務院に闖襲し、潑灌石油、抛擲炸彈、小銃棍棒を以て軍警を叢撃す。各軍警亦正當防衛に出で、終に雙方の死傷を致す。衆を聚めて亂を擾し、國家を害す、實に法規を無視せりと云ふべく痛恨に堪えず。査するに、該暴徒は各省區に於て幾度か陰謀を企む。國家の秩序岌々として危し。今次の變亂は、京師軍警をして極力防衛せしむるは勿論、各省區長官亦嚴重査及、以て



亂源を杜し、地方を安んずべきものとす。徐謙等京外一帯に嚴拿し盡法懲辦せしむ。」  
次で段政府は左の如き共產黨取締令を公布した。

- 「一、共產主義を鼓吹し現社會を破壊せんとするものは五年以上十年以下の徒刑に處す。
- 二、治安を擾亂し煽動鼓吹する者亦同じ。
- 三、共產主義を宣傳し、暴行々爲ある者は十年以上十五年以下の徒刑に處す。
- 四、共產主義を利用する者は三年以上五年以下の徒刑に處す。
- 五、金錢にて共產主義を煽動鼓吹せる者亦同じ。」

そして同時に、全國郵便局に對し、嚮導、工人週刊、漢文京津タイムス、國民通訊、國會議員通訊、勸告軍人同志、二七慘劇一週年特刊、平民旬刊、平民週刊、青年工人、自治旬刊、陳獨秀講演集、上海工會通告、勞働旬刊、勞工週刊、中國青年、新建設、等々二十種の雜誌刊行物の發送差止を命じた。

此の事件に對し、國民軍責任者は極力民衆の怨を買ふことを避けた。隨つて段政府の嚴令は、何等の實効をも奏せず、民衆の反段、反張、並に反帝國主義氣勢は益々昂騰した。然し同時に國民軍そのものは完全に外國勢力の同情を失ひ、これ以上北京に留まり得る望を失つた。

此の頃に至つて國民軍の主力は南口に退去し、北京が再び舊軍閥の支配下に歸せんとすることは唯時間の問題に過ぎなかつた。而も此の時間は約一ヶ月の後に到來した。民衆運動の指導者は既に險惡なる次の幕開きを豫想し、

過去一年半の間に擴大した北方に於ける革命的運動を如何に進展せしむべきか？の用意に着手した。

國民黨北方の本部は何時しかその所在をくりました。民衆運動の總指揮部であつた中國共產黨の闘士達は忽ちに其姿を表面から消した。各種團體の活動は一齊に中止の状態となつた。

かゝる空氣の中に新しい支配者として奉天軍閥が入城したのである。

### 第三項 張作霖時代

一九二六年四月以來、中央政府は張作霖の支配下に置かれることになつた。

張作霖は舊軍閥を代表して、最後に、一時の政權を獲得した。勿論、國民政府が曲りなりに天下を統一した今日に於ても、國民政府そのものが、ナショナルブルジョアヂーと封建地主階級の武裝的表現である諸種の軍隊の首領との合成であり、此の對立關係から、黨及政府が不安定なる動搖状態にある以上、再び中央の政權が軍閥によつて把握せられぬとは限らぬが、張作霖の代表する軍閥は、少くも國民政府内に存在する軍閥即ち所謂新軍閥とは、異つた立場にあり、前者は特に最も原始的な形に於ける封建地主の代表者である。

此の原始的軍閥は、孫傳芳の擧事を導火線として、國民軍と戰爭を開始し、終に中原占領の目的を達すると共に豫期された反動政治を實行した。然し彼の反動政治は、以前の軍閥直隸派の反動政治とは左の如き環境上の差異をもつて居た。



一、殖民地の國民革命に充分の諒解をもつて居らぬ列國、隨つて、國民革命中に於けるナショナルブルジョアの性質と革命進行の過程に於けるその必然的進路とを諒解して居ない列國は、事實の發展によつて自然と諒解するに至るまで、國民革命なるものを、極端に恐怖し、それが發展は中國に於ける彼等の勢力を根底より覆すものであり、その歸趨は、ソウエート・ロシヤの擴大であるとし、馮玉祥の勢力に非常なる憎惡と恐怖をもつて居た。馮が既にあらゆる妥協を列國に求め、自身の本體を正確に暗示しつゝあつたに拘らず、此の形勢に乗じて、張作霖は頭から「討赤」を以て看板として北京に乗り込んだのである。

二、國民革命の空氣は、一九二四年の國民黨改組織に於て實行上の基礎を確立し、國民軍の北京支配の間、孫文の入京の間、五卅事件を中心として高調期に入り、所謂「廢督裁兵」時代の反軍閥運動とは全く異つた意味の反軍閥運動が、その目前の敵として張作霖を指し、民衆運動から、又國民革命軍の實力から、深刻に彼に肉薄しつゝあつた。

三、奉天軍の入京と共に、一切の民衆運動は禁壓せられ、革命分子は全然姿を表面より消したに拘らず、張作霖の膝元は、彼を倒さんとする新勢力の陰然たる策源地であり、ここでは全國から參集して居る青年インテリゲンチヤの凡てが、新しい立場から彼の倒壊を準備しつゝあつたのである。

かくして彼の反動政策は、吳佩孚が單に自己の利益と直接衝突するの故を以て、京漢鐵道労働者に加へた彈壓及びそれに引續く無産階級運動に對する壓迫とは、可なり徑庭があるものである。然し、それは飽迄も大小の程度の差異であつて、階級的意識に基づく本質的差異ではない。後者の差異は、ナショナルブルジョアが政權を獲得するに及んではじめて現實化したものである。彼は中原の支配者たる地位を擁護する必要上、他の反動武人に對すると同じ意味で、管下の無産者にも反動彈壓を加へたのである。

一九二六年四月、國民軍の撤退と同時に、先づ王懷慶が衛戍總司令となり、五月、「凡そ赤化を宣傳し共產黨を唱ふる者は死刑に處す」といふ簡單痛快な命令を出し、反動政策の宣言を爲したが、當時に於ては尙ほ、奉天軍閥に直接反對を表示した個人が此の犠牲となつたに過ぎない。例へば京報主筆邵振青や、社會日報の林白水が「通敵」の二字で審問も受けず銃殺されたが如きそれである。然し、張作霖が天津より入京する頃に至つて、南方國民革命軍既に武漢を占領し南昌を陥れ、之れと順應して北方に於ける國民黨系の活動が積極的となつたので、彼の反動政策は漸く原始的軍閥の本領を發揮し、幾多の青年學生が或は國民黨員として或は共產黨員として捕縛處斷され出した。

一九二七年春、國民黨が左右に分裂し、ナショナルブルジョアが既に列國との諒解を遂げ、從來の共同者に反動的政策を以て對するに及んで、列國の支持と同情とは、必然的滅亡性を持つた原始的軍閥を見限つて、必然的發展性をもつ新興勢力ナショナルブルジョアの上に移り去つた。そして後者は列國との諒解によつて有形無形の支持を受くることになり、有力なる北伐を開始し出した。

そこで張作霖は一面益々國民黨員の活動を彈壓すると共に、列國に對する誠意の披瀝として、列國の最も恐るゝ共產黨員の大彈壓を開始した。



一九二七年四月、彼は暗々裏に列國の諒解を得てロシヤ大使館構内の強行捜索を行ひ、李大釗以下共產黨員、國民黨員合せて三十二名を捕へ、重なる者二十名に對し「外國政府と結托し、政府の顛覆及治安の擾亂を企圖する者」として銃刑を宣告したが、それより、此種彈壓を益々擴大し、一九二八年六月愈々彼が北京を引揚ぐるまで不斷の行事として、逮捕、銃殺は毎日の如く行はれた。

かかる状態として、張作霖管下に於ける無産者運動は、京漢線罷業後のそれとは比較にならぬまでに抑壓されて居た。随つて奉天政府の下に於ては原始的な虐殺、擄取、彈壓があつた以外に、無産階級、農民其他一般大衆に對する、施設といつたものは、全然なされて居らず、又此種の問題に對する合法的運動すら許されて居なかつた。

張作霖の此の時代に於て、漢口の吳佩孚の方策並びにその管下の環境も、前者と大差なく、唯だ孫傳芳が、奉軍を江蘇より逐つて以來、民衆運動に比較的自由な態度を示して居たが、農民、及び労働者の組織が、孫自身を國民革命前進の障碍として、その倒壊運動に有力な参加を試み（例へば上海労働者の暫々繰返せるゼネラルストライキ等）るに及び、總工會の封塞、全國學生聯合會の封塞、一切の民衆運動に對する武力抑壓等を開始し、此處でも完全なる反動時代を現出して居たのである。

此の時代は、南京では一九二六年九月から一九二七年四月までに次の時代に移り、北方では一九二八年の六月に次の時代に移つて居る。無産階級運動は此間、前者に在つては約半年の公開活動の時代を経過して來たが、後者に在つては原始的な反動から直ちに近代的階級的な反動に轉移して居る。

### 第三節 國民黨と無産階級運動

#### 第一項 國民黨と國民革命

前清專制政治倒壊運動の中心勢力であつた中國ブルジョアデーは、然し當時に於ては餘りにその力が微弱であつた。彼等は清朝の倒壊と共に代つてその政權を把握する力量も計畫も準備もあり得なかつた。彼等は半殖民地から中國及中國人を解放すべき第一歩の戦ひとして、倒満運動に精力を集中し、且つ此の戦ひに勝利を得たが、政權そのものは、實力階級であつた官僚と軍閥とによつて横奪されたのである。

政權を獲得した官僚軍閥は、その政權を統一し鞏固にする爲め、爾來所有る矛盾を暴露し來つた。群雄割據の内亂と陰謀術數によつて全國は不斷の不統一状態を呈し、産業の發展は益々阻碍され、外國勢力は益々深刻に喰ひ入り、殖民地的環境は益々中國及中國人の解放を困難ならしめた。

滿清を倒した中國ブルジョアデーは、それと同じ目的の爲め、此の新しい政權者を倒壊する爲めの戦争を開始しなればならなかつた。聰明なる彼等は、此の戦ひに對し必然的な政策を直ちに開始した。

孫文の三民主義は、革命階段に於ける中國資産階級の哲學を代表するものであつた。五四運動以後具體化した中國ルネサンス運動中にみらるる一般青年の新興氣運は、「自由、民權、平等」への昂奮を以てブルジョア革命運動の第一線に動員された。



然し、中國そのものは既に完全に列國の半殖民地として保持されて居る。無限の消費量と無限の原料生産量とを有する中國人は、殖民地として列國支配下に安置されて居る。此の環境の下に、中國の革命は、只「國民革命」としてのみ發展し得る。辛亥革命に失敗した、中國ブルジョア——正しく云へば所謂ナショナルブルジョア——は事實此の「國民革命」の闘争下にその實力を擴大して來たのである。此の闘争の下に、必然的に、「全被壓迫階級の聯合」といふことが絶叫された。彼等は、全人口の八十%を占むる貧困な農民と、極端な搾取を受けつゝある戰闘的な勞働大衆を此の戦線に引入れることによつて、革命戦線の基礎をはじめて形成し得た。

そこで「國民革命」とは何であるか。

殖民地としての中國の民族的解放運動が少くも所謂國民革命の重點となる。その意味に於て國民革命は、南京條約以來の不平等條約から解放され、商業資本より産業資本への發展のあらゆる障碍を爲す國內封建官僚軍閥の政治から解放されることを意味する。ところが、舊軍閥官僚の利益と、殖民地「中國」を賞美する外國資本主義の利益とは密接に入り組んで居る。随つて國民革命は反帝國主義運動と倒壞軍閥運動を前提とするものであつて、且つその二つの運動の上のみ展開し得るのである。

これは獨りナショナルブルジョアの運動のみならず、亦無産階級の發展にも必然的なものである。

中國のブルジョアは辛亥革命失敗後の數年間、種々の新しい方面に向つて努力を試みた。然しそれは孰れも悲惨なる失敗に終つた。此の數多のそして悲惨な失敗の結果、彼等はその方策に就き内部からの運動を外部からの

革命的進政策にと轉換した。

廣東に於ける孫文並にその一派の團結は此の傾向を具體化したものであつて、彼等はそれによつて急激に革命的勢力を増大した。

一九二四年一月、革命的ナショナルブルジョアは、無産階級と共同戦線を形成し、これによつて、革命黨としての組織をはじめて獲得し、此の組織の下に、全被壓迫民衆の戦闘を統一し、國民革命への急激な前進を開始した。兩階級の聯合闘争の下に、全國に於ける革命的氣運は五卅事件（一九二五年）を中心として高潮期に達し、一九二六年夏より一九二七年春に亘る數ヶ月の間に、國民革命軍は揚子江以南を完全に征服し、中國金融の中心地上海を占領した。此の段階に於て、國民革命の二大前提は最も正しく實踐されて居た。

だが、ナショナルブルジョアが上海を獲得し、政治の中心を揚子江に移した時、彼等は、自己の共同者に偉大なる敵を發見した。彼等は「國民革命の指導者は誰であるか？」の問題が如何に重要なものであるかを發見することにより、無産階級に偉大なる恐怖を感じた。同時に彼等自身の間にも、封建勢力の少からぬ殘影と、其の武裝的表現である所謂新軍閥の存在を發見した。同時に又、彼等は自己の發展に關して、中國を四方より包圍する世界資本主義との妥協の偉力を發見した。

此の段階に至つて、ナショナルブルジョアの一部分は所謂「革命的」といふ三字を棄てて別な發展段階へと進んで行つた。そして外國との聰明な妥協によつて、封建勢力と、又今尙ほ第一期時代の國民革命戦の支持を主張する



革命的ブルジョアチーと、そして最う一つは彼の無産階級との三つに對し一大プロックを形成した。彼等は今尙ほ、「革命」の二字を全然放棄しないのみならず、一切の行動を「革命」の二字に訴へて演じつゝある。然し、「國民革命」は既に彼等のプロックの下に變形してしまつて居る。此のプロックの下に於ては、國民革命は萬事妥協によつて達せられるであらう。然らば昔日の意味の國民革命は何うなるか？僅かに残つた革命的ナショナルブルジョアチーの一團にか？それとも無産階級にか？

一九二七年夏以後に於ける所謂「國民革命」は、實に此の最後の問題の上に懸つて居る。

## 第二項 共國の合作から北伐まで

共產黨と國民黨との合作は一九二四年一月に具體化し、北伐は一九二六年七月より開始されて居る。此の間の記述は、(一)合作成立まで、(二)第二回國民黨大會まで、(三)北伐軍出征まで、の三段に分けるを便利とする。

### 第一款 合作成立まで

孫文は近代中國に於ける革命的ナショナルブルジョアチーの代表者である。辛亥革命失敗後に於けるブルジョアチー革命の形勢を知る爲めには、彼並びに彼の一派の鬭争を顧みることが捷徑であらう。次に簡単にその記述を試みよう。

「辛亥革命に失敗したブルジョア革命黨は、自己の偉大なる組織力量によつて、政權を得ようとし、從來の同盟

會を國民黨と改稱し、門戸を解放した。結果は雜色政客の爲め益々不統一なものとなつたので、更に改組して中華革命黨と改めた。

袁世凱の帝政に反對し西南各地に激烈な運動を起したが、然し政權に接近することは出来なかつた。後一九一七年黎元洪國會を解散するや、ナショナルブルジョアチーの議員は廣東に集合し、孫文を迎へ軍政府を組織し、黨名を今日の國民黨と稱するに至つた。

當時の軍政府は、中央政府と對立して居る他の封建諸軍閥のグループによつて把握されて居り、此處でもブルジョアチーは不遇に惱んで居た。一九二〇年孫文は遂に上海に去つた。一九二〇年秋陳炯明が陸榮廷等の軍閥を逐つて廣東を恢復するや、孫文入粵し、翌年四月總統となり、昨年發表した建國大綱に基づき、六月より北伐を開始し、九月に至り大體廣西の獲得に成功した。

一九二二年奉直戰開始さるるや、孫文は廣西から更に北伐を進展せしめようとした。然し陳のサボターヂユで成らず、一旦廣東に歸つて路を江西にとり北伐軍を動かして居る間に、六月陳のクーデターを受け上海に走つた。一九二三年一月滇桂兩軍陳を逐ふに及んで再び孫は迎へられて大元帥となり、銳意國民黨内部の改組に努力した。

以上によつても明瞭である如く、廣東に根據を定めた後も、ナショナルブルジョアチーは、不斷に内部の封建分子の爲めに壓迫され、且つ自己の組織を確立することが出来なかつた。幾度びかの失敗の内に、然し、彼等は國民



革命の發展は一般無産大衆を味方にするによつてのみ、實現し得ることを發見し、それが爲め、「吾人は全被壓迫階級を代表するものである」との標語を極力提唱するに至つた。

陳炯明が、陸榮廷等廣東の政權にかちり着いて居た舊軍閥政客を逐ひ孫文を上海より迎へた時、ナショナルブルジョアデーは、彼等自身の政策を始めて具體化した。彼等は此の期間に於て、所謂無産階級運動に極めて自由な態度を以て應じ、その反帝國主義及反軍閥の運動には積極的に後援した。

第一回全國勞働大會、第一回中國社會主義青年團全國大會等いづれも此の間、彼等の好意の下に行はれた。殊に一九二二年、香港海員罷業に在つては當時の廣東政府は一切の誠意を以て、英國政府に對峙し、罷業勞働者を援助した。彼等はいかゝる勞働者其他無産大衆との接近の間に、今までの如何なる共同者にも見出し得なかつたところの、眞面目なる闘争意識と偉大なる闘争力とを大衆中に發見した。同時に「組織」なるものなかつた自己の過去を發見した。廖仲愷が熱海にヨッフエと會見したこと、マリーンが孫文を廣西に訪ねて、國民黨の改組を商議したこと、ボローヂンが廣東政府の顧問となつたこと等々、以上の重大なる發見が齎らした結果である。

廣東に於けるナショナルブルジョアデー自身の政治は一九二二年末から一九二三年末までの一ケ年間に過ぎない。彼等は此の間に於て、無産階級の爲め最も好意ある態度を示した。例へば香港罷業に於けるが如く、暫行新刑律第二百廿一條以下の廢止に於けるが如く、又あらゆる反帝國主義民衆運動の援助に於けるが如く、又勞働者農民の一切の組織運動に對する中立に於けるが如く。

然し、それは一方、彼等自身の組織をもたなかつた時代であり、新しい共同者の發見による新しい政策への準備の時代であつた。随つて彼等自身、所謂政權者支配者として、無産階級に對する何等の施設をも具體化した事實はなかつた。此の點に於ては、以上一年間の國民政府時代は、馮玉祥北京支配時代の一年間と完全に一致する。

#### 第二款 第二回國民黨大會まで

吾人は國民黨の歴史を述べんとするものではない。然し、必要上先づ一九二四年一月から一九二六年一月までの大事記を擧げて見る。

「一九二四年一月、一切の準備成り茲に國民黨第一回大會を開き、共產黨員は三民主義を奉ずることに於て國民黨に加入し得ることゝなつた。

軍官學校設立され、革命軍の組織運動着手された。

一九二四年末孫文は國民會議召集を條件として北方段政府の招待に應じ北京に向つたが、翌年三月何事をも爲し得ずして客死した。

此時養成された軍官學校の新將校は陳軍討伐に参加し偉大なる功績を擧げ、次いで多年の懸案であつた廣東内の客軍を完全に掃討し、廣東政府自身の軍隊組織の基礎を建設した。

孫文死後、一部封建分子を代表する黨員は西山に團結して分離し、革命的黨員は廣東に歸つて結束した。國民黨の國民革命運動は全國に擴大し、五卅運動を中心として益々激烈となつた。馮玉祥と張作霖との對立は、廣東



國民政府の北伐氣運を一層刺戟する一面、民衆運動の擴大によつて、反軍閥反帝國主義は、全國民衆一致の要求として國民革命を刺戟した。かゝる間に左翼國民黨は一切の妥協的分子を排除して孫文死後の黨を「デモクラシ」的に基礎づけるべく第二回黨大會を開いたのである。」

革命的ナショナルブルジョアデーの代表者孫文は國民革命の最も有力なる聯合者として無産階級と提携した。同時に彼は無産階級の偉大なる組織に驚嘆し、それに倣つて國民黨を組織化すべく決心した。

一方、無産階級は別な意味に於て國民革命戦に國民黨と合作した。彼等は半殖民地に於ける國民革命はその第一段階に於て、革命的ブルジョアデーが必然的に重要な歴史的役割を果たすものであるとし、此の段階に於て、無産階級は革命的ブルジョアデーと共働すべきものであるとし、只此間に於て無産階級が全戦線に於て全被壓迫階級を指導すべきものであるとした。その結果彼等は國民黨と合作し、此の共同戦線中に自己の組織を擴大せんとしたのである。此の意味に於て、第三インターナショナルは中國共產黨の國民黨加入を指揮したのである。

當時、國民黨員の尠からぬ數は兩黨合作が所謂「庇を貸して母屋を奪られる」結果に陥るべしとして反對した。然し、共產黨が最初から公然と「國民黨」を解剖して、「如何なる立場に於て吾人は、國民革命戦上に聯合すべきか？」を宣示して居ることによつて明かである如く、かゝる心配は毫も無かつたのである。國民黨の構成基礎と共產黨の構成基礎は根底から異つて居る。兩黨は異つた「階級」の上に立つて居るのである。随つて國民黨が共產黨を乗り奪るとか、又後者が前者を乗り取るといふ様な事は、理論的には、殆んど問題にならない。

ところが、實際に於ては、此の問題を中心として、合作實現のその日から黨内の争ひは具體化し、日を追つて激しくなり、北伐開始前に至つて極端化するに至つた。そして一九二七年夏に至つて終に最後の決算が爲されたのである。

それは國民革命の進展につれ、又ナショナルブルジョアデー自身の組織が擴大するにつれ、共同戦線上に對立する兩階級の矛盾が益々増大した結果に外ならぬ。

ともあれ、此の共同戦線に於て、雙方とも種々利害を受取つては居るが、特にナショナルブルジョアデーは、無産階級によつて、はじめて組織を學び、具體的政策を學び、且つ彼等との共同、彼等の積極的な援助によつて、第一段階の革命に成功し、廣大なる地域に亘る政權を獲得した。

第一回大會より第二回大會に至る間は、廣東政府に在つては、ナショナルブルジョアデーが最も熱心に無産階級から一切の訓育を受けつゝあつた時代であつた。随つて國民黨の無産階級に對する態度は此の間に於て最も共働的であつた。

最初の具體的表示は、第一回大會宣言並に勞働者農民に對する大會の決議である。第一回大會の一切の宣言決議の準備は、共產黨によつて爲され、國民黨員（汪精衛等）は革命的な態度を以てこれに參與したに過ぎなかつた。現共產黨中央委員翟秋白が實に此の起草に當つて居たのである。

客觀的に觀て、當時共產黨は國民黨の黨組織顧問の立場にあつた。全然無組織な集合體に對し戰闘的な組織を與



へつゝあつた顧問であつた。随つて第一回改組と共に、李大釗譚平山等共產黨の有力な幹部が、國民黨中央幹部の三分の一を占め、その上、重要な責任地位に共產黨の人々が座して多忙な事務を處理しつゝあつた。此の事は、同盟會以來の國民黨員としての多年の歴史を自信する人々にとつては餘り愉快な現象ではなく、且つ國民黨そのものの根本的性質を明かにせぬ人々にとつて、少くとも共產黨の「乗取り」が憂慮されたのである。此の派の人々は最初から兩黨の合作に反對した。一九二五年二月未だ孫文存命中、章炳麟、馮自由、馬君武等々所謂、極右派と稱せらるる人々は、國民黨同志俱樂部を北京で組織し、共產黨員の除名を宣言すると共に左派黨員に宣戰を布告し、黨より排除された。繼いで孫文死後、居正、鄒魯、張繼、林森等の右派幹部は、西山に會議し、中央執行委員の名議を以て共產黨系幹部全體の除名を宣言した。此の派の行動に對し、一方、革命的ナショナルブルジョアデーは、北方政府との妥協に見切りをつけ、再び最初の非妥協政策に戻ることを決議し、廣東に引上げ、「孫文の國民黨」をブルジョアデモクラシーの完全なる政黨形態としての國民黨たらしめんが爲の新組織に着手し、一九二六年七月第一回改組より一層革命的な委員制構成を實施した。そして所謂西山派の人々に對し或は除名或は譴責等それ〴〵處分を宣告した。それは國民黨の國民革命過程に於ける第一回分化を示した出來事である。

要するに西山派とは、ナショナルブルジョアデーの陣營に於ける非革命的分子を代表するものだったに他ならない。此の派の除外を行つた後の國民黨の構成内容は少くとも革命的ナショナルブルジョアデーの絶對優勢を物語るものであつて、プロレタリアートに對する最も進歩的な政策と精神の所持者であつた。此の間に於ける彼等の立

場——即ち國民革命に對する左派國民黨の態度、プロレタリアートとの協同に對する左派國民黨の態度、更に換言すれば殖民地ナショナルブルジョアデーの革命時代の態度——は、第一回及第二回大會に於ける宣言が最も明瞭に之を説明する。

第一回大會の宣言は、先づ中國の現状を略述し、中國が軍閥及列國の爲半殖民地の境遇に陥つて居る目下の苦みから解放される爲には、三民主義の實行以外に途なきことを力説し、三民主義の略解を試み、最後に大要左の如き對内外政策を宣言した。

#### 對 外 政 策

- 一、一切の不平等條約の撤廢と相互平等の國交設定
- 二、外債に對する制限的保證と庚子賠款の教育費充當

#### 對 内 政 策

- 一、中央地方の均權主義、省以下の自治、普選
- 二、政治的一切の自由、徵兵制度、稅制整理、農村の改良、勞働法の制定、男女の平等、教育の普及、土地法の制定、大企業に對する制限（消極的國家資本主義）

又第二回大會宣言（一九二六年一月）は、世界帝國主義の現状と全殖民地の環境を述べて被壓迫民族の立場を説明し、その結論として、



一、被壓迫民族の革命運動は既に武装闘争にまで展開して居る。そして殖民地半殖民地の産業發達から生れた無産階級は既に殖民地の帝國主義との闘争過程に於て、第一線に在つて民族革命運動指導の歴史的役割を演じてつある。

二、民族革命の成功には廣大なる農民労働者大衆の参加を必須條件とする。過去の失敗はそれが知職階級に限られたからである。

三、民族革命運動に當つて共同の敵を的確に了解し、世界被壓迫民族の運動と協同するを要する。

四、狹義の國家主義思想を排除し、先進のソウエートロシヤ及一切の被壓迫民族と共同奮闘し、民族革命の成功より更に進んで世界大同に達する。

五、帝國主義自身の矛盾の一切を利用して民族革命の進行を圖る。

六、帝國主義の一切の陰謀を暴露すると共に、一方帝國主義國內の被壓迫階級及世界被壓迫階級と聯合し共同の敵帝國主義打倒に猛進する。

そして中國の現状と、黨の過去に於ける奮闘の經過を述べたる後、

「吾人は第一回大會以後に於て單に主義と綱領の實行を準備したに過ぎない。吾人は本大會後に於て一層嚴肅なる紀律の下に之が實行に努力しなければならぬ。」と結論して居る。

思ふに三民主義は國民黨の根本基礎を爲すものであるが、其民生主義（節制資本、平均地權）民族主義（民族の解放と獨立）民權主義（直接自治に於ける選舉、罷免、創設 Initiative 復決 Referendum 間接政府を通じての司法、立法、行政、考試、監察）何れもナショナルブルジョアチーのブルジョアデモクラシーの特質を代表するものであるが、彼等が此の根本政策の下にプロレタリアートとの合作を行つて居た革命第一段過程は特に第二回大會の宣言に於て明瞭である。

然し全然階級的立場を異にした國民黨と共產黨とは、共同戦線の發展の間に急激な階級對立の矛盾を顯示し、結局第二回大會から半年を出でずして根本的な分裂傾向が具體化して來たのである。随つて共產黨は國民政府内に於て最も重要な實際的地位を獲得して居たにも拘はらず、一九二四年に發布した勞働法及び暫行新刑律第二百一十條以下（本章第二節第一項参照）の廢止並びに農民協會法（第六章参照）を除いては、何等の施設も無産階級及びその運動に對して行はれては居ない。唯だ此間に示された最も革命的な態度は、對外民衆運動の積極的支持であつて、それは特に、五卅事件の翌月から開始された香港ゼネラルストライキに對して顯著に且つ有力に行はれて居る。少くも、第二回大會に至る七箇月に亘る闘争に於て、ナショナルブルジョアチーは最も革命的に英國との闘争を繼續したのであつた。此の闘争は北伐に對する實際的必要から、其後に至つて政府は已むを得ざる妥協行動に出たが、然し、其際と雖も彼等は革命的精神と態度とを失はなかつたのである。當時に於けるナショナルブルジョアチーの帝國主義に對する態度は、香港罷業解決談判の第一回會議に於ける國民政府代表陳友仁の演説中に最もよく物



語られて居る。(註一)

### 第三款 北伐軍出征まで

兩黨合作發展の中に、無産階級の組織は日に著しい發展を示し、それと同時にブルジョアデー及び地主階級との實際衝突は益々擴大して行つた。随つて、國民黨構成の一部を爲す封建地主及び之が武裝的表現たる軍閥並びにブルジョアデーとの合作は漸次困難となつて來た。これは第二回大會後に於て急激に具體化し、黨最高機關に於ても、又黨の下層建築たる小組即ち細胞に於ても、所在に兩派の對立闘争が演ぜられ、殊に黄埔軍官學校内に於ては代表的な對立闘争を示して居た。

一九二六年三月廿日、終に此の傾向は、兩派の直接闘争、分裂の開始となつて現はれた。此の日の事件は「三月廿日事件」として知られて居る。此の事件は、「革命的」ナショナルブルジョアデーの陣營から、はじめて發せられた反動宣言を物語るものであつて、中國無産階級運動史上の一重大事件を爲すものである。即ちその大要を示すならば、

「蔣介石は三月十八日夜、中山艦が突然黄埔沖に現はれ砲を學校に向けて居るとの報告を受取り、同時に、黄埔の共產派學生及其他の共產派は、國民黨に對するクーデターを行はんとして居るとの報告を受取つた。そこで彼は廿日突然、黄埔軍官學校を包圍すると共に、全共產黨員にクーデターを行ひ、ボローヂン首め十八名のロシア顧問を廣東から追放した。然し之は或る反對派が蔣介石の偽命令書を海軍代理局長に示して中山艦を黄埔に派した

もので共產黨の陰謀云々は誤報だつたこと明瞭となり直ちに事件は解決し、露西亞顧問も間もなく引返した。」

事件は單に之れだけであるが、責任者の調査はそれ限り不問に附せられた。之は國民黨内の左右兩派の對立の激化を示したものであつて、これより汪精衛一派の所謂左派と、蔣介石を中心とする所謂右派との對立は、革命第一段過程に於ける現實の事態を示すに至つた。會つて除名され又は其他の處分を受けた西山派の人々は、これよりどしどし黨籍を回復し、黨内に於ける右派勢力の擴大に參與した。同時に黨そのものから無産階級の勢力を驅逐せんとする實際運動が非常な勢ひで擡頭した。かくて一般ではしきりに國民黨の分裂を傳へ出したのである。

無産階級の發展に伴ひ國民黨内に於ける革命的ブルジョアデーに對立した反動派の全勢力を代表して、蔣介石は一九二六年五月、所謂黨務整理案を提出し、「國民革命の發展に當り、現在黨内に醗酵する一切の疑雲を一掃し、兩黨の合作を愈々堅實にしたい」旨を共產黨に通告した。此案は中央全體會議の結果として、

「一、兩黨の關係を改善し、兩黨合作を妨碍する行動及言論を糾正し、國民黨の統一と權威とを保障し、且つ共產黨員の國民黨内に於ける地位と意義とを明かにする爲共國聯席會議を組織する。

二、聯席會議は國民黨五名共產黨三名を以て組織し、第三國際代表を顧問とする。

三、黨員は總理及三民主義に懷疑又は批評を加ふるを得ない。そして他黨より加入して居る黨員(以下共產黨員と略稱)は高級黨部(中央、省、特別各黨部とも)執行委員の各三分の一を越えてはならぬ。

三、又黨の中央部長となり得ない。且つ國民黨籍に在る者は最高級黨部の許可なくして政治關係の組織及行動を



してはならぬ。

四、共產黨員は該黨の一切の訓令を聯席會議に提出しなくてはならぬ。本黨より共產黨に加入したものは今後復黨し得ない。且つ國民黨は全黨員に對し再登記を三箇月内に行ふ。」

等々の決議と爲り、此に共產黨員は永久的に國民政府下の在野黨となつた。之れに對し當時の共產黨は次の如く回答して居る。(六月四日)

「中國國民黨中央委員會鑒

中國は今や、帝國主義軍閥の壓迫下に坐し、國民革命の必要急迫して居る。中國社會一切の革命分子は此際宜しく最も有力な聯合戦線を建設すべきである。本黨は中國無産階級を代表し、早くより此の世界社會革命の時期に於て殖民及半殖民地の無産階級並びに一般勞働市民唯一の職責は、國民革命の聯合戦線を實行して國際帝國主義に巨大なる打撃を與へ、一面中國民族を解放すると共に、他面世界革命を完成する、といふことに在ると認定して居た。本黨の此種政策は、中國社會發展の階段及世界政治の趨勢に適合するものであつて、或る一定の歴史段階に於ける根本工作であり、固より臨時的な或は利用手段的なものではない。

貴黨は中國歴史の上に偉大なる革命の功績をもつて居る。辛亥革命失敗後、依然、被壓迫民衆の爲めに奮闘を續けて居るが、本黨は、此種の目的を以て、辛亥革命を完成し、徹底的に中國を帝國主義及軍閥の下より解放するに在りと認めて居る。もとより之れは獨り貴黨現在の歴史的使命であるのみならず、中國無産階級を代表する

本黨の職責でもある。

故に貴黨と本黨との合作の政策は、最初から明白に決定して居る譯である。蓋し、是即ち聯合戦線の具體的表現だからである。唯だ、合作の方法、即ち黨内合作か黨外合作かに至つては元來固定するの必要がなかつた。要するに該政策の精神は、革命勢力を團結して帝國主義に抗するに在るのだから、凡そ此の目的を達するに足るものは、即ちこれ適當な方法といふべきであり、何等形式に拘泥する必要はない。

本黨は合作政策を決定するに當り、先づ貴黨總理孫中山先生に商議した。孫先生は黨内合作が兩黨の關係を更に密接にするものとされ、本黨も、中國社會各階級力量の相互關係は、現に此の種合作形式を適用し得るものと認められたので、毅然として決定し、本黨々員をして貴黨に加入し得せしめ、同時に、本黨と貴黨とは政治上の聯盟を結んだのである。爾後、兩黨革命聯盟は三年に亘つて中國民衆を指導し努力奮闘し來つた。此の間五卅運動の蹶起、國民政府の成立、國民軍の形成等、これ等は皆革命勢力を非常に發展せしめ、帝國主義軍閥及び一切の反動勢力は、吾人の聯合戦線に恐懼戦慄した。然し、彼等は國民革命戦線の破裂を利用して中國民衆の革命力量を減殺せんとし、不斷に其の造謠離間、反赤挑撥の策を講じて居る。

五卅運動より今日に亘つて、帝國主義は、反動軍閥を利用して國民軍を征服し、中國の政權を奪取し、民衆に嚴重な壓迫と屠殺とを以て對し、しかも今や湖南より始めて貴黨執政の廣東國民政府を包圍攻撃し、徹底的に革命勢力を消滅せしめんと謀つて居る。勿論一方では、國民革命の聯合戦線を破壊せんと陰謀から、革命政府所



在地の内奸と勾結し、内部より貴黨を摧毁せんとして居る。彼等は卑劣手段を以て反動分子を利用し、廣東政權を獲得せんと意向から、かくの如く、内攻外應以て中國の革命を摧殘して居るのである。かくて現下中國の革命勢力は實に極端な危険に直面して居る。兩黨の共同職責は、隨つて、革命戦線の鞏固に努力し、内部を肅清し、帝國主義軍閥の統治に反抗して之を推翻するに在る。英日吳張戦勝して反動統治を形成し、且つ不斷に所謂北赤南赤の討伐を謀つて居る今日に於て、吾人は全力を集注して、革命勢力及民衆の爲に抗争し、一般黨外の民衆を領導して、國民革命の戦線に集合せしめなければならぬ。貴黨本年五月十五日の中央委員會全體會議の報告も亦此點に及んで居る。

帝國主義者は之を見て、或るものは貴黨は既に其の奸計に中りて自ら革命戦線を破壊し、右傾を表現したものと爲し、私かに欣然たるものあり、機を俟つて動かんとして居る。然し、貴黨の此に出たるは寧ろ本黨との合作方式が此數年來迭々黨内一人の疑惑猜忌を惹起し、それが反動派の乗ずる所となつて革命戦線を攪亂せられたるが故に先づ合作方式の上に幾多の改變を行ひ、一般の謂れなき疑惑を除去したる後、決然として内部を肅清し反動派を打撃してこそ始めて革命戦線を整備し、全力を以て帝國主義軍閥の統治と壓迫に對し得ると考へて居るのであるまいか？ 果して然りとするならば、是は本黨の合作政策にとつて何等所謂根本的衝突を意味しない。蓋し、合作の原則は、革命勢力を團結して帝國主義に抗するものであつて、其の團結及び合作の方式の何たるかを問はないからである。即ち果して然りとするならば、兩黨聯盟の根本精神は反動派の分裂政策によつて少しも

動搖せず、帝國主義の欣然たるは要するに自ら其の奸と愚とを露はしたものに過ぎないであらう。

貴黨「黨務整理案」の貴黨の内部問題に關するものは、如何に決定されようと他黨に贊否の權はない。凡そ貴黨々員たるものは勿論遵守の義務あるも、貴黨外の團體は何等關係はない。「黨務整理案」中の、兩黨今後の合作方式に關する問題に就ては、兩黨は革命聯盟中の友軍として、各自其黨の議決に根據して相協商すべきもので書面の會議孰れも可である。之を要するに、帝國主義及反動勢力が中國を征服し、民衆を壓迫するに際して、又革命勢力現に正しく醗酵磅礴の時に當り、吾人雙方俱に歴史上重大且困難な使命と責任とを負ふものである。惟ふに、貴黨が「黨務整理」の後、一層努力奮闘反動分子を肅清し、内部を鞏固にし、吾人及一般民衆と偉大廣汎なる革命聯合戦線を結成し、明確なる政策と積極的行動とにより、帝國主義者をして乗ずる所なからしめんか、即ち之中國革命の幸である。」

これより、黨内に於ける左右兩派の對立と相俟つて共產黨と反動勢力との對立は益々尖鋭化した。そして此の對立の間に反動勢力は、會つて黨外に驅逐された人々をも悉く召集して其のプロククの擴大をはかる一面、軍隊を現實に獲得しつゝあつた。かくて客觀的情勢はプロレタリアートの公開的運動の非樂觀的形勢と、その階級的獨立性の明確なる表示と、それに根據せる實際運動の急務とを示しつゝあつた。

國民政府の北伐問題は實にかゝる環境の中に實際問題として現はれたのである。即ち、當時、國民軍に對する奉直聯合軍の勝利に繼いで、吳佩孚の長江に於ける活動擴大し、趙恒惕を逐つた湖南の唐生智は吳の進攻に對し急を



しきりと國民政府に求めて來たのであつた。軍官學校出を基礎とした精銳軍隊を背景とし、國民政府内に其の英雄主義の鋭鋒を現はしつゝあつた蔣介石は、終に國民革命軍總司令となり、七月北伐の途に就いた。

北伐の實施の爲め、無産階級は「革命の爲め」を名として一切の經濟的闘争を停止し、僅かに獲得した政治的自由をも停止しなければならなかつた。同時に、既に持久一箇年に亘り、中國無産階級運動史上に最大の記録を示しつゝあつた香港罷業の妥協にも應ずべく餘儀なくされた。それにも拘はらず、或る者は軍に従ひ、或る者はバルチザンとして、無産階級は北伐に對し積極的な活動を開始したのである。だが、「北伐」そのものに對する共產黨のそのまでの態度は、當時積極、消極の二派があり、それ／＼の表示をして居たが、大體に於て消極的であつた。それは左れに示す陳獨秀の論文によつて代表的に物語られて居る。

「北伐の意義は、南方革命勢力の北方への發展であり、北洋軍閥を討伐する一種の軍事行動であつて、中國民族革命の全部的意義を代表するものではない。(中略)」

中國民族革命の全部的意義は、各階級の革命的民衆が起ち上つて帝國主義及軍閥を推翻し、以て自己の解放、全民族の解放、殊に一般勞農平民の困苦を解除するに在る。北伐は只だ、北洋軍閥を討伐する一種の軍事的行動である。此種軍事行動は軍閥を推翻する爲めの一種重要な方法ではあるが、それは文字通り「一種重要な方法」に止まるものであつて、決して唯一無二の方法ではない。(中略)

北伐が眞實、革命勢力の外に對する發展であつてこそ、北伐は革命的軍事行動たり得る。若し此の中に、投機

的軍人政客の個人的權勢慾が介在して居るならば、假令相當の成功を見てもそれは軍事投機の勝利であつて、革命の勝利ではない。北伐の爲めに戦費を増籌して平民を搜刮し、北伐の爲めに人民の自由を剝奪するが如きことあらば、それこそ革命の目的を犠牲とするもので、弔民伐罪の意義すら無い。

現在廣東國民政府の北伐は如何？

第一に、勿論それは帝國主義との直接の武裝衝突ではない。第二に、廣東省以外の人民は、皆坐して北伐軍の到來を待つといつた幻想をもつて居る。第三に、吾人は敢て言ふが、現國民政府の北伐は、革命勢力が膨脹した結果、外に發展するものでは無く、吳佩孚が湖南を進攻した爲め、已むを得ず自衛の爲め、出兵せざるを得なかつたのである。第四に、國民政府の北伐戦費は當然軍事公債を發行して、富紳から募らなくてはならぬ。然らずして、北伐の爲め勞農大衆を搜刮する様では、國民政府の對農民政策は唐生智にも如かぬこととなる。蓋し、曾つて中山先生は北伐の爲めに平民を搜刮しなかつたのみならず、現に唐生智は湖南に在つて其財政廣東とは比較にならぬ程餘裕なきに拘らず、只公債を發行するのみで、未だに農民に向つて誅求しては居らぬ。

(中略) 近來國民政府の對農民態度は、早くも農民に疑を抱せて居る。北伐の爲めに租税を前納せしめ賭捐を抽收し、更に進んで廣東の革命的民衆が、護法政府以來獲得した僅小の自由をすら剝奪し、却つて反革命的な買辦土豪、貪官、奸商に充分な自由を與へて居るが如き、吾人は在野黨として嚴重に警告しなくてはならない。北伐と民衆の利益の双方を顧みてこそ、國民政府ははじめて鞏固なものたり得るのである。



以上の事情からして、所謂、革命軍行動の北伐は今尙ほ問題とならぬ。國民政府内部の状況から、國民政府の實力から、國民政府所屬軍隊の戰鬥力及び革命の意識から云つて、革命的北伐の時期は尙ほ成熟して居ない。現在の實際問題は、如何に北伐するかではなく、如何に防禦するか？即ち、如何に吳佩孚の南伐を防禦するか？如何に反赤軍勢力の廣東擾害を防禦するか？如何に廣東内部の買辦、土豪、官僚、右派の反赤響應を防禦するか？に在る。(中略)

だから、國民政府現下の職責は、北伐に非ずして「防禦戦争」に在る。廣東民衆の標語も、矢張り北伐でなく「防禦戦争」にある。又全國民衆の標語も、北伐響應ではなく、「革命の根據地廣東を擁護せよ」に在る。

將に四面から包圍せんとする國民政府とその領袖は、宜しく和衷共濟、特に人民の自由と權利(革命軍は正しく此の爲めに軍閥と戦ふのであつて、これが革命軍と軍閥の相異なる點である)を尊重し、人民をして心より國民政府と協同せしめ、以て此の困難に打ち勝たなければならぬ。又此困難をして、國民政府を覆滅し得ざらしめるに留まらず、轉じて、國民政府の領袖、軍隊及一切の民衆の革命意志と戰鬥力との鍛錬に充て、かくて後全國民衆の革命勢力と結合し、進んで北伐せんか、此に、始めて、革命的北伐の力量を以て國民革命は完成され得るのである。(七月)

黨務整理案提出後、共產黨は完全な在野黨となり、同時に、反動化したナショナルブルジョアデーと無産階級との對立は一層意識的となり、一層階級的となつた。三月廿日事件後、革命的ナショナルブルジョアデーを代表する汪兆銘等は海外に去つて、所謂左派幹部の勢力減退し、政府當局の無産階級に對する態度は、壓迫的となつた。之れは北伐の開始と共に一層極端となり、前にも述べた如く労働者農民は、強制的に其の獲得した權利と自由とを制約されたのみならず、一方政府は從來の敵であつた、封建地主を中心とする勢力並びに外國資本と妥協し、巧みな方法で労働者農民に對する攻勢を開始したのである。特に労働者に對しては、廣東に於ける組合相互間の對立を利用する一面、次に示す如き勞資調停法を制定し、爭議に際し一方が此の法の適用を要求した場合は、一方は絶対に之に反對し得ないことを規定して、一切の經濟闘争の發展を制限したのである。

#### 解決僱主僱工争執仲裁會條令

「第一條 勞資間の爭議は仲裁會を設立して之を解決す。

第二條 仲裁會は政府代表一名、關係各側代表各二名の共同を以て組織する。若し關係者其他に互る時は、前記各派外に其他の關係者より一名或は數名を参加せしむることを得。

第三條 仲裁會は勞資の爭議例へば賃銀問題、損害賠償問題、労働時間問題、待遇問題其他一切に就いて雙方が解決し得ざるものを解決する。

第四條 主僱雙方自ら解決し得ざる時、雙方又は一方は農工廳に仲裁會の組織を請求するものとす。尙一方が之を請求したる場合、他の一方は當然之に従ふべきものとする。

第五條 仲裁會成立後は關係僱人の生活狀況、當該地の經濟狀況、當該商工業の經濟狀況を調査の上、公平に



解決する。

第六條 公共事業又は政府經營事業に爭議發生の場合、若し雙方の一方が仲裁者の判決に不満の時は上訴することを得、但し此の最後の判決には關係各方は當然服従すべきものとする。

第七條 勞資爭議既に仲裁を請求したる以上、直接行動例へば罷工、工場閉塞の舉に出づることを得ず。」(一九二六年八月)

註一、香港ゼネラルストライキに對する和平談判第一回會議に於て國民政府代表陳友仁が試みた演説は、殖民地に於けるナショナルブルジョアチーの列國帝國主義に對する態度を最も明瞭に表示したものである。そして此の態度は、單り現在の政府に於ても完全に踏襲されて居るばかりでなく、今後と雖も、少くも中國ナショナルブルジョアが國民革命の過程に在る限りに於て、永く支持されるべき根本的外交政策である。此の意味に於て其の重なる部分を左に掲げて見る。(前略)「現時我國に於ける社會的經濟的並に政治的狀態に顯著且つ實質的な變革の發生を見つゝあるは明白な事實である。其變化とは換言すれば、組織、構成、整理上の必然的結果であるところの新均勢に外ならない。即ち一個の社會集團として組織されて居る支那民衆、及び彼等が、近代世界といふより大なる組織系統への決定的參加に依つて影響せられる新環境の間に、意識的及無意識的に築かれる成立過程中の新均勢である。

是等の變革が支那民衆にとつての良否如何の問題は、主として彼等が眞に獨立國民として待遇され、國際管理下に置かるるが如き國民に非ざることの承認されるか否かによつて決せられる。最少限度に於て「今や支那民族は其れ自身の救済を完成する爲めに、自由を得なければならぬ時に際して居る。」といふ命題は支那の國民運動の根本方針にして、これこそは新均勢を基礎づけ、且つ支持しつゝある最大の力である。而して、今日國內の大部分は、不幸にして、中世的權力者達の反動の態様と手段の支配下にあるとは雖も、國民中の無産有知識群、學生團體、勞働者及新興農工商團體によつて代表せらるる覺醒部分は、歐洲戰後、支那に發

現した諸現象によつて確乎たる政治上の勢力を形成する階級となり、廣東に於ける國民政府と共に、この國家的獨立の權利確證に努力しつゝある。

支那に於ける諸問題の進行が如何になり行くにもせよ、支那民族主義運動によつて點せられた炬火の消滅するものでないことは疑ふべくもない。故に是こそは我國現下の國內及國際的政策の永續的實體と認めらるべきものである。

上述事情の下に、一國家例へば英國の如きが、此の新中國に對する態度の果して如何なるものなるべきか？を考ふる場合、一部には、現に英國が支那に於て享有せるものは徹頭徹尾之を永遠に保持しなくてはならぬと主張するものがあるだらう。だが、かゝる主張こそは、所謂英國式頑迷保守派の態度であつて、過去の事實と今日の生々しき經驗の凡ては、それが變革に對する妨礙となり、争闘軋轢を醸成し、遂に戰禍にまで進展さすものであることを示して居る。勿論戰爭に訴へたにしても、それが決して現狀解決の眞實の道でないことは明かである。

既に死滅し或は死滅に瀕しつゝある過去に深く根ざした此の種の態度に反し、此の國の自然的富源の量るべからざる可能性と、能率的組織下に致された支那民衆の人力の本質的實力とを自覺せる新興階級の政治的活動を含む「變革支那」の觀念がある。此の觀念は友邦各國に於ける實際的結論として、支那の背景に對する新しい見解と、そして支那對列國關係を確立する新しい政策——一八四二年當時の戰敗國として支那を遇する舊い歴史的基礎に於ては無しに、今日の世界組織中に於ける如何なる大國如何なる小國たるを問はず、獨立の國家主權國間に共通する平等の原則により國家關係を基礎づける政策を要求する。

吾人はかく信ずる。所謂「支那問題」に關する此のステートメントは支那に於ける純然たる通商國の何れもの實際的利益に對し何等根本的不利を與ふるものに非ざること、隨つて英國が他の獨立國家に對して爲すと同様な純然たる通商—單に貨物の販賣、原料の購入の如き—に従事する限り、支那の國家主義、並に其の權力及成就の手段としての國民政府の存在は、必ずしも我國に在る英國人にとつて何等の危懼を示すものでない。

本問題に對する上述の見解が正しいとするならば、單なる威信又は所謂「面目」問題の爲めに、眞に一個の實際問題の實際的解



決が妨げられてはならない。古來歴史上に此の種の問題は、屢々人間の忍耐、良心並に常識が試みられるかの如く、アイロニツクの妖精につかまつて閉口させられたものである。」

### 第三項 北伐軍の長江進出より兩黨の分裂まで

先づ順序として、簡単な北伐の經過を述べて見る。(長江進出迄)

一、一九二六年七月、唐生智國民革命軍の來援により反攻し、長沙を陥れ、八月二十二日岳州をとる。それより南下。

二、九月七日、北伐軍漢陽をとり、更に漢口を陥れ十月十日武昌占領。

三、一方、北伐軍は九月孫傳芳軍と江西に戦ひを開始し、十一月八日南昌に入る。此月馮軍又西安を陥れ函谷關に進出。

四、他方、何應欽軍は九月福建に攻入、十二月福州を占領。

五、十二月、北伐軍江西福建兩省より浙江に迫り、一九二七年二月十八日杭州を取る。

六、一方、三月、安慶を突破して、上海南京を中斷し、三月二十三日、南京を陥れ、續いて上海を占領し、これにて北伐第一期戦を終る。

北伐進行と共に、國民政府は、九月英國當局に對し、「對英罷業は罷業委員會と協議の上、十月限り中止する。そ

の代り普通輸出入品に二分五厘、奢侈品に五分の附加稅徵收を實施する」旨を通告し、各國の凡ゆる反對にも拘らず平然と實施したが、一方、廣東の勞働者に對しては、一切の罷業を禁止し、「北伐中罷業を爲すものは反革命と認む」べきを宣言し、間接には公債の強制によつて地方農民の負擔を激増した。

又、國民政府は北伐に當り北伐軍進行の範圍に於ける一切の軍政兩權を總司令の下に集注せしめた。之れが爲め總司令は、北伐軍進行の範圍に於て完全なる專政を行つたのみならず、根據地たる廣東に總司令代理を置き廣東の政權をその手裏に把握し、事實上、國民黨中央執行委員會並びに國民政府なるものを、有名無實のものたらしむるに至つた。それにも拘らず、尙ほ此の當時に於ては、總司令部管下の諸機關は革命的青年の多くによつて活動しつゝあつた爲め、占領地帯に於ける、農民、勞働者等の組織運動は曾つて無き程度に急激な發展を遂げつゝあつた。即ち、江西、廣西、福建、湖南、湖北の各地に於ける、農民組合勞働組合の組織は、北伐軍一過と同時に組織の急激な發展が行はれ、然かも最も急進的な指導の下に最も急進的な戦闘が開始されたのである。此の傾向は特に湖南及湖北に於て甚しいものがあつた。

然し、北伐軍は、それが一度び長江に出づるや否や忽ち「列國」といふ厄介な障礙に直面した。「反帝國主義」に對するナショナルブルジョアヂーの革命性は、北伐軍が廣東から長江に乗り出すに及んで、此に、ブルジョアヂーの革命性なるものが如何なる程度のものであるかを説明しなければならなくなつたのである。

ナショナルブルジョアヂーは、既に北伐前に於て「革命的」「反動的」の具體的分化を宣示して居たが、第一期北伐



といふ大切な戦争の進行中に在つては、無産階級の急激な發展が到る處に於て彼等の陣營と衝突し、兩者の相反する立場を鮮明にしつゝあつたに拘はらず、「革命性」を僅かに保持して聯合戦線放棄の宣告を敢えてしなかつた。だが、彼等は一度び長江に出ずるに及んで、世界の列國が、中國無産階級の發展に最大の脅威をもち、之れが阻止抑壓に凡ゆる手段を動員せんとし、國民革命軍が、無産階級と、ナショナルブルジョアデーとの連合戦線を表示するものである限りに於て、彼等の中國無産階級に對する一切の脅威と手段とを該革命軍の發展の上に適用せんとしつゝあるを見たのである。即ちナショナルブルジョアデーは、辛亥革命の失敗をとり返さうとする彼等の目的、換言すれば彼等のデモクラシーを獲得するブルジョア革命の目的を達する爲めには、列國が懐く前述の如き「脅威」に對し釋明しない限り、より以上の發展の不可能であることを見たのである。ところが之れと同時に、彼等自身の戦線内の恐るべき敵——急激な組織と闘争力の發展の下にナショナルブルジョアデーの陣營の顛覆へと進軍しつゝある無産階級そのものとの闘争に於て、その唯一の勝利手段は、列國との新しい共同戦線の形成であることを知つたのである。

その結果、國民黨の所謂右派は、革命軍の武漢占領以來一層急激に顯明化した。無産階級を代表して國民黨と合作して來た中國共產黨は、此の間、依然たる連合戦線の支持者として、不斷に帝國主義の陰謀、並びに反動的傾向の國民革命破壊の危険、勞農大衆を基礎とする被壓迫民族の徹底的戦闘の繼續等々を主張し警告し、同時に未だ反動化しないナショナルブルジョアデーとの一層密接な關係の保持に、極力努力しつゝあつた。勿論かゝる努力はナシ

ヨナルブルジョアデーの必然的傾向に對し何等の効力を齎らさなかつたが。

中國共產黨のかゝる無駄な努力は、然し、一時的だつたと云へ、蔣介石を中心とする南京派と、汪精衛を中心とする武漢派の、勢力争ひの利用に於て、一九二七年四月から七月に亘る三ヶ月間の「革命的」國民政府の存在を現出し得た。同時に、此間に於ける湖南、湖北各地の農民運動及上海に於ける労働運動に於ては、共產黨が一九二二年八月以後即ち國民黨との完全なる決裂が實現してから後、採用した新しい戦術の具體的な兆を示しつゝあつた。

國民革命軍が、武漢より、南昌をとり、上海南京を占むるに及んで、既述した諸傾向は、具體的な事實となつて現はれた。廣東、上海を首め蔣介石一派の地盤に於て、四月一齊に労働者農民運動に對する彈壓が開始され、未曾有の残忍なクーデターが行はれた。殊にそれは上海の労働者群に對して極端に行はれた。南京派政府は同時の労働農民運動の停止を命じ、從來の組合を解散したる後、自ら産婆役となつて右翼組合を各地に組織した。その一切結果、各地の左翼組合の闘士は一時大部分武漢に難を避け、從來廣東にあつた中華全國總工會も四月陸路武漢への移轉を行ふに至つた。

蔣介石一派との勢力争ひを中心として形成されて居た武漢政府は、然し、蔣派のかゝる態度に對し反動的な左傾を示し、共產黨系の運動は、完全なる自由を以て許されて居た。此處では、一九二六年五月の黨務整理案は全然取消され、譚平山は農工部長として、又、蘇兆徴は勞工部長として、中央政府の行政に當り、太平洋労働會議、第四回全國労働大會、第五回共產黨大會は、國民政府の表面的歡迎裡に行はれ、労働者の示威運動、メーデー祝賀、



其他の民衆運動は、一見、勞働者農民の政府の下に行はれて居るかの如き觀を呈した位であつた。

だが、一方に於て湖南、湖北の各地に於ける激烈な農民と地主との鬭争、土地沒收、所謂土豪劣紳の懲辦等々は武漢政府を構成するナショナルブルジョア及び軍隊の首領と、無産階級との直接鬭争以外の何ものでもなかつた。随つて、勞農諸機關と軍隊の首領との空氣は地方に於ける勞農運動の發展の程度に随つて益々險惡となり、所謂左派幹部の右派との妥協は漸次顯著になつて來た。然かも此の傾向は武漢政府の財政が、四方からの經濟封塞に會つて逼迫の度を加ふるにつれ、急激化して行つたが、其の具體的現はれの導火線を爲したものは五月廿一日事件であつた。

五月廿一日事件とは、農民と地主との鬭争が極度にまで尖鋭化して居た湖南に於て、地主の武裝を代表した、長沙守備隊長許克祥が勞農各團體に行つたクーデターを指すものである。右五月廿一日事件は、四川の楊森が南下して武漢に迫り、夏斗寅の兵が武漢と長沙との間を切斷した後に行はれたものである。三日間に亘るクーデターによつて約三百の農民勞働者學生が殺されて居る。楊森等の驅逐が實現した後、政府から調査委員が派遣せられたが、いづれもが、軍隊側に同情し、許克祥の處分を云々して居ない。此の事件は共國分裂の明白な宣言であつて、國民黨の所謂左派は此事件後に至つて内藏して居た本心を表面に現はし出したのである。六月十四日國民黨は共產黨に公開狀を與へて勞農運動に對する不滿を表示したが、之れは前記本心を宣言した第一聲である。國民黨と共產黨との合作史の最後の物語を形成する興味深いものとして左に之を譯出して見る。

#### 中國々民黨中央執行委員會より共產黨に致すの書

一 本月四日附貴翰を拜見した。農工政策は本黨總理の主張せる所であり、農工大衆は本黨の根本基礎を爲すものである。民國十三年の本黨改組後、此義は一層明かになつて居る。過去に於て、廣東で奮闘して居る時でも北伐出師の時でも凡て民衆の利益の爲めに吾人は奮闘して來た。凡て總理の主義に基いて奮闘して來た。

中國々民革命は人民特に貧苦農民の解放を要求する革命である。第二回全國代表大會より本年三月の第三回執行委員全體會議に至る間、本黨同志は全力を以て農民問題の解決に奮闘した。土地問題に關しても長期深切な討論を行つて居る。蓋し土地問題が解決しなければ農民問題は解決し得ず、農民問題が解決しなければ革命は成功に到らないからである。

たゞ、蔣中正叛變の後、各地の反動勢力が此の叛變に伴ふて到る處に蔓延し、然かも長江流域は本來長く軍閥の支配下にあつて革命勢力充分ならざる結果、蔣中正の叛變と共に少からぬ反動の事實を發生して居り、吾人最善の努力も未だ完全に之れを鎮定し得ないで居る。勿論、かゝる事實は革命史上避けがたいものであつて、本黨は決して之れが爲め總理及本黨の政策を變更するものではない。否な一層の努力を之れに致さんとするものである。だが一方、吾人は吾人の幾多の同志の過去に於ける行動中、少からぬ小兒病的行動と觀察の錯誤あり、本黨の農工運動の指導同志が往々本黨の決議に基かず、或は本黨決議を誤解して民衆を指導して居たことを認める。かゝる指導の錯誤はひとり本黨の組織を鬆懈するのみならず、全體勞農の利益を妨碍するものである。本黨は革



命の正しい前途を顧み、許多同志既往の小兒病的傾向を認めて嚴重なる矯正を加へざるを得ない。

本黨十三年の改組以來、本黨は不斷の努力を以て國民革命に参加して居り、一方一部の同志は本黨に加入して國民革命に共同の努力を致して居る。此の重大なる時期に當り、貴黨が一方では前述小兒病的傾向の矯正を援助し、一方では貴黨の同志を嚴重に訓戒し、此の危険時期に共に重大責任を負ひ得る様せられたい。湖南事件に就ては本黨は既に二度同志を派して嚴重なる査辦を爲さしめて居る。尤も今尙詳細なる報告に接しないが、然し左の二つの原則だけは先づ貴黨に御知らせする。

一、武人の越軌行動には制裁を加へる。

二、農民協會の小兒病的行動には糾正を加へる。」

國民黨のかゝる態度に次いで、軍隊の首領は一層決定的な表示を試み、三箇月に亘る兩黨合作政府の崩壊に最後の宣告をした。その代表的なものは、湖南事件の解決に就いて全權を托された唐生智が六月廿六日長沙から送つた左の報告である。

「廿六日湘垣に至り直ちに各方の事實を調査す。各縣よりの報告に據るに工農運動の領導人を失し、横流潰決迭々恐怖を呈す。軍人家族の保護に關する中央の命令にも拘らず、到る處に抽捐罰款、肆に侮辱し甚だしきは殺害を加ふ。日に農工商學兵の大聯合を云ひつゝ日に聯合戦線を破壊す。階級闘争を提唱し相互を相容れざらしむ。投機分子更に推波助瀾、仇を尋ねて報復し、眞の農工をして備に痛苦を感じしめざるなし。留省の軍人日に悪化

を睹、身に壓迫を受け自衛自決の謀を爲し、加へて救人救世を想ふ。かの事變はかくて發生したり。失意の政客、閑散の軍人機いたれりと爲し事件を一層擴大し、救黨に藉りて利を謀り、種々流言を行ひ、敵の勾煽を受く。

此の事實に基き、努めて公平なる裁斷を爲さんとす。黨部及各民衆團體は指導既に人を失し、舉動常軌を逸す故に中央の命令を執行して之れが活動の中止を命じ改組をまたしむ。政客の救黨に藉名するもの皆意投機に在り故に黨籍を除く。許克祥義憤に激すと雖も、實は誤つて紀律に觸る。情掬すべきものあり。宜しく營に留めて功を効さしむべし。其餘は本案と甚だしき關係なきをもつて究議を免ずるを可とす。(中略)尙各方の報告に據るに少數の黨團、中央命令を犯すに慣れ、活動を停止せざるのみならず、反抗の企圖あり。反革命の罪を以て嚴重に處斷して可なりや否や。」

思ふに國民黨の農民運動及労働運動の指導者として實際運動に従つて居たものは、各地とも悉く殆んど例外なしに共產黨員であつたから、前掲文中の本黨同志云々はいづれも共產黨員を指すものである。

殊に、當時湖南一省は、省政府より下級諸機關に至るまで壓倒的な共產黨の勢力を示して居ただけに、妥協によつてのみ僅かに聯合の形態を支持して居た武漢の状態とは非常な差異があり、一切が革命的であり、階級間の闘争は政府自身の戰闘的政策の下に激化されつゝあつたのである。

五月廿一日事件後、江西の軍隊の首領李品仙も、省内勞農運動者の武漢への引きあけを命じ、武漢に於ける勞農團體と軍隊との小衝突——例へば湖北總工會の糾察隊武装解除の如き——は瀕々として發生し、終に七月クーデタ



一の空氣濃厚なる間に、國民黨は共產黨に對し完全なる絶縁を申渡したのである。

北伐の開始から此に至るまで僅かに一ヶ年間。其の間に於て、共產黨は、殖民地のナショナル革命の必然的歴史階段——即ち革命の或る過程に於ける、ブルジョアデーと無産階級との共同闘争階段——を經過して來た。然かも此の間同一戦線の内部に於て不斷の階級的矛盾を現出しつゝ、又此の矛盾の不斷の擴大を直視しつゝ、共產黨は、妥協政策によつて自己の陣營の獨立性を失ひ、常に後手の立場に於て活動して居た。尤も武漢に於て約三ヶ月の黄金時代を現出したが、之れは、國民黨内部の勢力争ひを利用することによつて、ナショナルブルジョアデーの陣營の上層と妥協し、共同戦線の抜けがらを保持して居た形に過ぎない。随つて此の間政治上、經濟上何等の具體的な無産階級的權利を獲得しては居ない。勞働法案の發表すら實現しなかつた。かゝる次第であるから一般的に、此の期間即約一ヶ年間に於て無産階級は、所謂政府なるものからは何等の合法的權利を獲得して居ないのである。だが彼等は、その政策や戰術や觀念の上に錯誤と失敗とを批評されて居るにも拘らず、一方、農民勞働者の廣大なる組織、政治經濟上の實際闘争の經驗、殊に反動勢力との武装闘争の反覆的經驗——特に湖南農民運動と、上海勞働者のゼネラルストライキに於て——の上に、其後彼等が採用した新戰術の一切の基礎を獲得したことは事實である。

#### 第四項 兩黨分裂以後

##### 第一款 國民政府對無産階級の現状

國民政府は、一九二四年の第一回改組と一九二六年の第二回全國大會とに於て、革命進行の基礎を確立し、一九二七年八月の南京武漢兩政府の合併を以て辛亥革命の失敗以來十七年間、ひたすら待ち望んで居たブルジョア政權を獲得することが出來た。勿論不安定な状態に於てはあがあるが。

そして又、一九二八年六月、北京から奉天軍を驅逐し、一九二九年末、奉天と妥協するに及んで國民政府は事實上、全中國を統一したところのものとなつた。不安定な状態は依然として存在するとは云へ。

だが、國民黨のナショナルブルジョアデーは、之れを以て、辛亥革命失敗以後の彼等の望みを凡て達成した譯ではない。彼等の眞の目的、即ちナショナルブルジョアデーによる確乎たる政府の建設、中國の平等的獨立の獲得——を達成する爲めには、彼等は未だ「國民革命」の一小部分を爲したに過ぎぬことを認めなくてはならない。彼等は更に第二段の活動に着手しなければならぬ。それが爲めには、彼等は先づ第一に黨内の對建勢力と決戦しなくてはならぬ。一と度び此の戦ひに挫折するならば、彼等ブルジョアデーは、從來と比較にもならぬ困難な窮境に陥らなければならぬ。現に國民政府内のかゝる状態は、蔣介石一派と、廣西派並に之れに附隨する西山派との對立に現はれて居る。だが、ナショナルブルジョアデーの此の目前の任務の前には次の様な困難が控へて居るのである。

一、黨内の封建勢力に對する、ナショナルブルジョアデーの力量が未だ充分に結成されて居らず、中央に於て、又地方に於て、常に前者から壓迫されて居る。



二、革命的ブルジョアデーの大部分が既に必然的な分化を行ひ、無産階級と對立状態を呈現し、列國との妥協を以て自己の保衛を爲しつゝあるに對し、封建勢力の壓迫と、外國資本主義の侵略が中國及中國人を陥れつゝあるところの「殖民地状態」は更に改善されたところがない。かゝる環境の下に、國民黨、否な、ナショナルブルジョアデーの組織の根本を爲して居る、青年インテリゲンチヤの傾向は、依然として昔日の「革命的」性質を保持して居り、隨つて到る處に於て下層の「革命的」と上層の「反動的」とが衝突を演じて居る。

三、一方無産階級は、共同戦線の崩壊と共に、階級的立場を鮮明にし、國民黨とは全然異なる立場に於て、新しい戦術——即ち農民及労働者自身の力量を以て、武装闘争を以て、直接彼等自身の政權、即ちソウエート政權の獲得に向つて急激な前進を開始しつゝある。

第一の點に於て、吾人は、奉天軍閥の勢力、西山派の勢力、廣西派の勢力、並びに此の間を右往し左往する諸封建勢力が、全國に亘つて、ナショナルブルジョアデーと對立し、天津及び北京に於ける最近の市黨部の改組に見らるるが如き衝突が一般化して居ることを見、又第二の點に於ては、國民政府の革命政策を再び第一回大會第二回大會當時の精神と態度とに立ち戻らさなくてはならぬと主張する革命的ナショナルブルジョアデーの國民黨再組織運動、所謂第三黨運動が起り、然かも此の過渡期に於て其の走路に迷つて居た多くの青年インテリゲンチヤが之れに傾きつゝある事情を見る。更に第三點に於ては、湖南、湖北に於ける不斷の農民暴動の發現、廣東の陸豐、海豐に於けるソウエートの持続、葉、賀軍の廣東占領運動、更に發展しては廣東ソウエートの建設等々に見らるゝ分裂後に於

ける最初の戦術、並びにソウエート政權獲得、國民黨との徹底的闘争、絶對的な土地政策等に對する勞農大衆の自覺と一般に對する有力な其理論教育とにより、來るべき第二の革命高調期の闘争を準備せんとする今日の戦術の深刻なる發展を見るのである。

だが、現國民政府は、尙ほ、封建勢力と、ナショナルブルジョアデーとの結合の形に於て、國民黨の政府としての初めての實際政策を一九二七年八月以來行ひつゝある。隨つて無産階級運動に對する一切の政策は、多分に封建勢力の利益を代表する反動的形式の下に行はれつゝあるのである。

一九二七年夏の第四回執監委員全體會議に於て、國民黨は全國に於ける一切の民衆運動を禁止し、比較的急進的な、即ち革命的ナショナルブルジョアデーの戦闘的部分を代表する國民黨下層黨員を抑壓すると共に、各地に於ける清黨運動を擴大して、急進分子の掃除を行つた。そして、國民黨は、依然たる全被壓迫民衆の利益を代表する政黨だといふ主張の下に、農工政策の支持を宣言し、農民組合及労働組合を國民政府直接の指導下に新たに組織した。然し、労働者農民が此の組織の下に經濟的闘争を開始するや、初めは仲裁者の立場に於て調停的態度をとつて居たが、結局或は之れを彈壓し、又は指導者に自ら疑をかけて改組又は運動の停止を命じたりし、自ら此の間に於ける黨と勞農の利益との矛盾を暴露した。此の傾向は、勞農間の自發的闘争の傾向が擴大するに隨つて甚だしくなり、結局一切の勞農の闘争は、即ち共產黨の闘争の反影であるとの解釋の下に、極端に抑壓された。

南京政府成立以來今日まで殆んど二箇年になるが、此間黨内部の衝突の爲め、無産階級に對する政府としての組



織的弾壓も、組織的施設もない。弾壓の場合は、昔日の軍閥時代と同じ形式と状態の下に専制的に行はれ、(註)施設の方では、一九二四年の勞働法、農民協會法の有効を宣言して居るに拘はらず、之れによる一切の運動は阻礙され、勞資協調法(一九二七年廣東にて公布)の下に罷業の自由をも奪取されて居る。又政府は暫行反革命治罪法(一九二八年春)を公布し、

「第二條 國民黨及國民政府を顛覆し、或は三民主義を破壊せんとして暴動せるものは、

一、首魁は死刑

二、重要事務に當つたものは死刑又は無期徒刑

三、附和隨行した者は二等乃至四等有期徒刑

前項の犯罪者で未だ暴動に至らずして自首せる者は減刑又は免除

第三條 國民黨及國民政府を顛覆し、或は三民主義を破壊せんとし、外國と勾結し、國家の主権利益を損し又は土地の協定を爲したるものは死刑

第四條 外力外資を利用し又は外國軍隊と勾結して國民革命を破壊するものは死刑

等々で共產黨取締を行つて居る。又各地方で所謂共產黨自首條令なるものを發布して、嚴重なる清黨を行つて居る。然しそれにも拘はらず、實際に於ては、全國各地の黨部に於ける内部の矛盾衝突の爲め、共產黨の取締は廣東事件の如き表面上の問題に對する以外、極めて非組織的である。一口に云へば、國民政府は、内部に於けるナシヨナ

ルブルヂョアチーと封建勢力との絶對的闘争、及びナシヨナルブルヂョアチー自身の陣營内に於ける相對的闘争の向を決算といふ當面の問題の爲め無産階級に對するブルヂョアチーとしての政策を確立して居ない。唯だ、抑壓と弾壓の中に、そして又、半殖民地のブルヂョアチーとしての境遇の中に、彼等自身の「ファスシスト」化の傾向を鮮明に表示して居るに過ぎない。

註 濟難會の調査によれば一九二七年三月より八月に至る間の犠牲者統計左の如し。

	殺 害	負 傷	逮 捕	逃 亡
江 蘇	一、五〇〇	二、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇
浙 江	九〇〇	五〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
福 建	五〇〇	二〇〇	一、二〇〇	一、四〇〇
廣 東	二、〇〇〇	三、〇〇〇	五、〇〇〇	八、〇〇〇
廣 西	五〇〇	三〇〇	四〇〇	五〇〇
湖 南	二〇、〇〇〇	二五、〇〇〇	五、〇〇〇	一〇、〇〇〇
湖 北	一、二〇〇	一〇、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
江 西	五〇〇	四〇〇	五〇〇	一、〇〇〇
安 徽	二〇〇	一〇〇	三〇〇	一、〇〇〇
四 川	一、二〇〇	一、五〇〇	二、〇〇〇	三〇〇
雲 南	八〇	一	三〇〇	一〇〇



貴州	五〇	一	一〇〇
山東	三〇〇	一	四〇〇
直隸	二〇〇	一	四〇〇
河南	五〇	一	八〇〇
山西	五〇	一	一〇〇
陝西	五〇	一	一五〇
甘肅	五〇	一	一
東三省	一〇〇	一	一
計	二九、四三〇	四三、〇〇〇	三三、二〇〇

第二款 分裂後の共產黨の戰術

分裂以後の共產黨の戰術は、大體に於て、南昌會議以後廣東暴動の發展に至る間のものと、第六回共產黨大會以後のものに別けることが出来る。だが之れは大體の區別であつて、從來の所謂合作時代の政策を根本より改め、無産階級の獨立性を鮮明にし、一切の妥協を棄て、労働者農民自身が國民革命の完全なる指揮者となり、労働大衆自身の力量を以て、労働ソウエートの政權獲得を目指す武装闘争に進出する根本政策には、何等の變化もないのである。

分裂後に於ける最初の全體會議は南昌に於て行はれて居る。此の會議の内容は、此の年の終の中央會議に於て一層

決定的なものとして居るが、要するに、一九二〇年以來の中國無産階級運動の政策の根本的改變を宣言したものである。非常に重大な意義をもつ。

南昌會議に於ける「中國共產黨の政治任務と策略の議案」は、國民革命の過程に於けるナショナルブルジョアデールの役割と其の必然的歸趨とを詳細に述べ、過去に於ける共產黨の機會主義的政策が労働運動の發展を非常に阻碍したことを嚴重に批判し、労働者農民自身の政府建設、プロレタリアートの獨裁への前進を高唱し、此の前進によつてのみ、中國現在の環境の解放、即ち、

一、外國資本の壓迫よりの完全なる解放、例へば一切の不平等條約、帝國主義特權の廢止、關稅自主、外債取消、外國人の占有する生産資料及交通機關の國有等々。

二、全國的市場の建立—例へば一切の封建遺毒の肅清、土豪劣紳の私有地の沒收、土地國有、一切の上下國家機關を破棄して革命的民權的新政府を建設すること等々。

三、労働者の政治的、經濟的、法律的地位の急激なる改善。

等が解決されることを説明し、更に工農兵のソウエートは革命的政權の形式であり、勞工民權獨裁制を保證するものであり、中國の非資本主義的發展の唯一の方法であることを述べたる後、現在の形勢に於て、資産階級民權主義革命と社會主義革命との間に、何等明確なる階段的境界線なく、又民權革命が社會革命に變移する前途は、只無産階級の組織力量の程度如何によつて決定され、隨つて黨は労働大衆の中にソウエートの意義宣傳を切實に開始し、



ソウエート組織の準備を行はねばならぬと切言して居る。

そして實際戰術として勞農の武装暴動に言及し、各地に於ける武装暴動を指導する爲め、各地に革命委員會を設け、臨時革命政府の性質を保持し、暴動勝利の後、即ちソウエート代表會議組織と共に、政權を之れに引繼ぐ過程の詳細なる説明を試み、最後に目前の勞働運動及び農民運動の方針を明示して居る。

尙ほ右八月七日の會議の重要意義に就て共產黨は左の如く説明して居る。

「一、過去の指導機關に機會主義の傾向あり、第五回大會以前には民族資産階級の作用を、又第五回大會以後は小資産階級の作用を了解せず、國民黨との合作の爲め常に一步を譲るつもりで居たのみならず、客觀的指導權すら放棄して居た。即ち大衆闘争の力量に依らず、上層領袖の聯合を注重して居た。

二、今は土地革命を中樞とすべき時期である。之れは工農貧民の聯合によつてのみ展開するものであるが、中央機關内の岐論は遂に此の運動の總退却を行はしめた。

三、無産階級はブルジョアデモクラシーの唯一の指導者であるといふ、ブルジョアデモクラシー中に於ける職分を充分に了解しなかつた。現在の土地革命は民權革命の最高形式の表現であつて、無産階級は農民と同盟し、之れを指導し、土地革命の障碍―地主、劣紳、軍閥、反動資本家―を除去しなければならなかつた。然るに當時の政策は共產黨指導下に純左派の政府を樹立することをせず、階級闘争の緩和にのみ腐心して居た。以上の過失を嚴重に批判し、新しい運動に移動したことが取りも直さず八七會議の内容である。」

要するに武漢に於ける形勢に鑑み、第三インターナショナルは、七月中國共產黨の國民黨脱退を命じ、その結果、七月十三日、中國共產黨は「對時局宣言」を發して、新しい態度を表明し、次いで正式緊急會議を開いて政策を決定したのが即ち所謂南昌會議であつた。此の間の形勢に對する第三インターナショナルの左の決議案は、特に重大なるものである。

#### 第三インターナショナルの中國問題決議案

「一、嚴格冷靜に、マルクス及レーニン主義により、革命形式の或る一時期の特性を理解したる後はじめて共產黨の特別任務を規定し、適切なる標語を提出して無産階級前衛の策略を決定し得る。

二、一九二六年の第三インターナショナル第七回擴大會議は、中國の革命の特質をブルジョアデモクラシーの革命であり、且つ目前の階段に於ける其主要任務は、猛烈なる反帝國主義運動なりと定義した。又第三國際は曾て、中國革命は、漸次社會主義革命に移る傾向あるを指示して、中國各階級の闘争の地位と量とを確定し、又同第七回大會は、階級分化と階級闘争の必然性と、民族統一運動戰線の漸次分散することを指示したが、今年四月以後の形勢は、かゝる豫言的中(即ち革命の部分的失敗)せること、及び革命が一層高い階段に進んだことを示して居る。

三、又第三國際執行委員會最近五月の擴大會議は、資産階級進出の事實に根據し、蔣介石叛變後の局面の具體的特點を定め、中國共產黨の新しい進路は、大衆に注重し、土地革命の發展、工農の武装、革命中に於ける無産



階級の領導權の規畫にあることを示し、更に獨立せる中國共產黨と左派國民黨の武漢政府中に於ける工作の必須要件を示した。結局土地革命は各派の政治測量の限界となり、軍閥及國民黨上層領袖は反革命に走り、武漢政府の完全なる反革命化を現出したが、之れは中國に於ける目前の特殊の闘争形態を示す。

四、レーニン主義に基き、第三國際は、曾つて或る階段中に於ける殖民地資産階級との聯合は、彼等が反帝國主義闘争を爲し得る限りに於て認められ、且つ其闘争を支持すべきであることを示したが、之れは未だ彼等が工農に反對せぬ時、即ち未だ彼等が殖民地ブルジョアヂーの歴史的任務の解決を願つて居る時に於てのみ爲さるべきものである。

五、或る階段に於て、中國共產黨が武漢政府を援けることは必要であつた。今日尙之れを支持することは、共產黨を亡ぼし、機會主義に陥るものである。國民黨の上層幹部は土地革命を爲さず、革命の敵に随つて労働者の武装解除に賛成し、明かに武漢政府を反革命の力量と變ぜしめた。「急進派」の知識階級及資産階級は、要するに「假革命」の表示であつて其の階級性を變ぜしめ得るものでない。

六、中國共產黨は土地革命の前線に於て、公開的に武漢政府及國民黨を批評し、暴露すべきであつたが、實際に於ては却つて土地革命を阻碍し、機會主義的標語「擴大後再深入革命」「先南京後土革」等に據つて居る第三國際の指示に従はざるのみならず、甚だしきは労働者の武装解除に同意し、譚平山の如きは政府反動の後尙ほ「請示給假」で斷然たる退出を爲した。第三國際は曾つて「中國共產黨は自己の錯誤を自ら批判しなければ將に公

開の批判を受けるだらう」と警告したが、今や第三國際執行委員會は公開的に、「中國共產黨は中央の主義と闘ふべきものである。」と認めて居るのである。

七、速かに中央指導の錯誤を糾正する爲めに中國共產黨は、先づ、

- 一 武漢政府より退出する。
- 二 退出の時政治宣言を發して武漢政府の本體を暴露する。
- 三 退出せざる者は國民黨の下層と結び、國民黨の中央決議に反對し、黨指導機關の換撤、此基礎に於ける國民黨大會の準備を要求する。
- 四 無産階級運動に全力を盡し、大衆的労働者の組織を建設し、日常闘争指導の準備をする。
- 五 土地革命を發展せしめ、徹底的ブルジョアデモクラシーを完成する。無産階級の指導下に勞農、都會の貧民の聯合勢力を動員し、且つ武装することに依つて。
- 六 屠殺と壓迫とに對抗する秘密機關を設ける。
- 七 共產黨中央の錯誤を糾正する。」

これ等の新しい戰術の下に共產黨の無産階級運動は、湖南の農民暴動、南昌の暴動、廣東及湖北各地に於ける農民暴動等となり、急激に展開したが、かゝる闘争の展開の間に、共產黨が尙ほ幾分の望をもつて居た國民黨左派との提携は、完全に其の可能性を暴露した。之れに關し、中國共產黨は九月の會議に於て左の如き決議を行つて居



「最近數月の經驗（南昌、兩湖、廣東の革命的農民暴動等）は國民黨左派との提携の不可能を示した。國民黨は現に分化墮落の過程にあり、その腐敗の死骸中から軍閥專政が生れて居る。中國共產黨は秘密裡に革命的國民黨の再組織を計畫し、左派と提携したが今日尙その成績を見ない。

國民黨旗昔日の威信は今や完全に地に墜ち、民衆は之れを目して反革命、白色恐怖の象徴として居る。土地革命の急激な發展は又、動搖する一切の上層小資産階級を戦線から脱離せしめ、徹底的民權革命—封建制度を撤去する土地革命—は國民黨の旗下より除去されてしまつた。共產黨中央は、此の點から、八月の決議に於て爲せる「左派國民黨と、其旗幟下に於ける暴動云々」の一項は取消さるべきものと認める。そして若し國民黨中に單獨的革命的一派が発生した時は、之れを導いて革命闘争の路上を歩ましめ、それと國民黨の上層分子との關係を絶たしめるべきものと認める。

要するにこの種工作は黨の主要任務（組織暴動）に比較する時は第二次に位するもので、以後組織大衆の暴動に關しては國民黨の旗下に之を行はない。若し別に國民黨再組織の可能性ある時は其の力量は主要な決定的成敗の力量を意味するものではなく、革命の臨時的なもの、あてにならぬもの、不確實な同行者であることを知悉しなければならぬ。つまり今後の對國民黨政策の原則は、凡そ次の如くである。

「一、武漢、南京各派領袖は反革命の叛徒、民衆の仇敵として之に積極的に反對する。

二、其他の國民黨左派は、革命的な臨時的同行者として、各闘争中に於て、吾人及び革命民衆を援助せしめる。」尙ほ此の問題に就て、八月末の共產黨中央執行委員會の通告は、武漢の末期に於ける兩黨合作の實情を極めて詳細に批評し、

「中國共產黨は無産階級の最も徹底せる、最も革命的な組織であつて、常に自己の旗幟下に大衆を動員し、自己を束縛してはならない。常に革命的資産階級の民權派の動搖不安定に對する批評を放棄してはならぬ。（中略）所謂左派との聯絡は革命的小ブルジョアとの聯合であるが、之れには下層大衆例へば知識階級、手工業者、店員等注意し、その經濟的要求を明かにし、小ブルジョア上層との聯合は全然あてにならぬものなることを記憶して居なければならぬ。」

上述の基礎的決議の下に、新戦術は國民政府管下の各地に於て展開し、農民暴動は一時、湖南、湖北、江西、廣東に於て六十餘ヶ所のソウエートを出現せしむるに至つた。だが此の戦術は、該戦術の實行數月に亘る様々な經驗と國民黨其後に於ける一般的動搖との環境下に、更に精練されたものとして現はれた。之れが具體的表現は一九二七年十一月に於ける中央大會の決議である。それは南昌會議に於て出發した中國共產黨の新戦術の第一段完成を意味するものとして非常に重大なものである。故に特に之れを全譯して見る。

尙ほ此の會議の最う一つの重要性は、中國共產黨が、過去の失敗を徹底的に清算し、黨内分子に對する根本的處斷と改組とを行つた點に在る。



## 中國の現状と黨の任務決議案

## 一、中央最近の策略及客觀的革命形勢

「八月、中央が決定した政治任務決議案は、既に武漢七月の反動後の中國政治狀況を考察し、資本家階級軍閥反動の安定は、中國今日の社會、政治、經濟の基礎に於ては全く不可能のことだと斷定した。中央は當時、一般的政治軍事經濟の大危機が、資産階級軍閥の反革命の結果、必然的に、大々的に發展擴大することを指摘した。これは如何なることがあらうとも避け得ない事實である。又中央は曾て、中國革命は二回の大失敗を受けて居ると雖も、(即ち四月に於ける上海廣東の反動、七月に於ける武漢の反動)、中國革命は決して之れが爲め長期に亘つて消沈することはない。随つて中央は、かゝる悲觀的觀念を以て絶対に不正確と認むる旨を指摘した。中央は當時須く革命闘争を繼續擴大し、且つ確乎として勞農武装暴動組織の政策を採用すべきものとした。此後の政局は完全に、中央此種の考察で正しかつたことを證明して居る。

中央の示せる方針は正しかつた。勿論、南昌暴動は失敗し、潮仙でも失敗して居り、又、廣東兩湖の農民暴動は一ヶ所として確實な大勝利を博したところはない。然し、革命がかゝる部分的失敗に遭つても、此の三ヶ月來の一般的闘争の經驗は、本黨の政策の完全に正しかつたことを證明して居る。

最近の時期に於て、各地勞農の闘争は再び猛烈に爆發を開始して居り、一般政治狀況及各階級の相互關係は非常な變化を経過して居る。中國共產黨の任務は、即ち、此現時の新時機を考察し、這種客觀的時機に適應する策

略を決定するに在る。

## 二、中國社會の全體的危機と農業經濟

中國資産階級軍閥の反動の勝利は、依然として偉大な中國革命を產生する社會經濟政治關係中に存する。上海廣東、武漢の反革命は、中國社會關係中のかゝる矛盾を解決し得ざるのみならず、此種の矛盾を一層劇しからしめる。これ即ち、勝利を得た反動勢力が懸命に之れが鞏固に努めて居る舊制度そのものが、政治上にも經濟上にも悉く陳腐腐朽落伍野蠻的な制度であるが爲めである。

此に於て、かゝる狀況の背景中に彼の一般的な總危機が大々的に展開する。同時に無産階級、都會の貧民、特に廣大なる農民大衆の革命闘争の高調を誘導する。

農業經濟の衰落破敗は日一日と天地崩陥の爆烈性を加へて來る。今年(一九二七年)は比較的豊年である。(直隸山東兩省が完全に天災及戦争の爲め蹂躪されて居る以外、其他の各省は相當に天候に恵まれてゐた。然し、事實上全國は過去の荒災と戦禍の結果として、相變らぬ餓死殺死累積の状態であり、僅かに直隸山東に比較して稍々ましだといふ程度に過ぎない。)然し、所謂豊年は、農民經濟の崩壊を少しも阻止し得ないのみならず、農民經濟崩壊の過程を一層増進せしめる。豊年の結果として人民は却つて多くの米錢を地主及政府に納めなくてはならぬ。例へば浙江では、今年豊年を口實として過去の滞納を追徴されて居る。地主や高利貸は農民の舊債を追徴するし、買辦や商人は農産品の價額を引下げ、又軍閥は豊年を口實として税を二倍三倍にする。例へば江蘇では



今年は地租を増徴して居る。

所謂豊年は、荒年に比較して一層農民を破産せしめないまでも、少くも荒年と同じ程度に於て破産せしめる。地主の剝奪、軍閥の掠奪、豪紳官僚の壓迫は既に極點にまで到達して居り、農民をして自己の生産能力を恢復せしめ得ざるのみならず、甚しきに至つてはその生命の保存をすら不可能ならしめて居る。各省五割乃至八割の農民は既にかゝる有産階級の剝奪によつて、最早やこれ以上を忍び得ない狀況に到達して居る。農業經濟に於ける重復生産は、極小範圍に於てすら殆んど不可能となつて居る。地主、商人、高利貸の直接的剝奪以外、軍閥はその上に掠奪せんとして居る。彼等によつて糧食、家畜、人夫を徵發されるのみならず、農民は、連年の戰禍によつて、水利灌漑、防旱防水の工事等凡て非常な防碍を被り、且つ國家秩序の混亂、天災の頻生（これ等の天災亦其の大半は中國社會制度に基因する）、金融の紊亂の爲め郷村中より都會に流入する生産品は相當の價額を保持し得ず、商業と市場の停滞紛擾によつて農業經濟上の技術的方面の準備も日に破壊され、郷村中には益々土匪の蜂起を見る。凡そ、かゝる事態は凡て農業經濟を衰落せしめ、農業經濟の危機は之れが爲め、日一日と天地崩陥に似た暴落趨勢を増加する。這種危機の唯一の出口は農勞革命の徹底的勝利と、激烈なる土地關係の變更である。

### 三、工業の危機

中國工商業及金融上の危機は特に明かに示されて居る。中國革命の客觀的主要任務の一は、即ち、全國々内市場の統一を造成するに在る。全國々内市場の統一がなければ工業の發展は不可能である。此の一革命任務は、革命的ブルジョアデーの民權革命の段階中に於て解決さるべきものである。但し、國民黨の反革命は、此の解決に毫も接近しないのみならず、一層此の任務の解決に遠ざかる。國民黨のブルジョアデー軍閥の反動は、中國を分離裂析するのみならず、新しい幾多の混亂を發生せしめる。各省に戰事あり、現在中國は全體として混戰中に在る。商業交通は各省の間に、自然常に絶斷し、省内に於てすら往々東阻西隔し、各省の金融紊亂し、原料機器の運輸減少し、或る地方では完全に斷絶して居る。又反革命屢次の政變後には、外國資本家の競争勢力幾倍かに増大する。更に中國農民の家庭工業、手藝等の事業は益々破滅し、國內國外の貿易日一日と衰退（一九二七年上半年の輸入は五〇％を減少して居る）し、外國資本は銀價の低落、財政の紊亂及國民黨の屈服を利用し、一層中國に於て多量の富を搜奪する。全國の破産、窮困、經濟的衰退は一落千丈、幾千萬の農民幾百萬の勞働者店員は凡て失業する。これ等のことは、凡て、商業及び一般生産過程の中に聳出する。ブルジョアデー、軍閥の國民黨の反動は、即ち、かくの如く中國の經濟問題を解決する。

### 四、帝國主義侵略の急進

ブルジョアデー軍閥の反革命は、國際的關係に於て完全に外國資本主義に降服し、帝國主義侵略を増加する。英國帝國主義者は、既に實際上に於て、漢口の英租界を奪回し且つ完全に上海を統治して居る。日本帝國主義は北方に於て絶大の勝利を博し、滿洲内蒙古は正に完全なる日本の殖民地と變成して居る。中國民族のブルジョア



チーは完全に外國資本に降服し、既に全く一切の不平等條約廢棄に對する闘争を放抛し、敢へて租界收回を再びしようとはしない。關稅自主問題に就ても完全に屈服し、且つ絶對的に民族解放運動を隠蔽して居る。

現時國民黨の所謂反帝國主義の宣傳に於て、忽ち反英となり或は忽ち反日となる。これは要するに民族資産階級を掩飾するものに過ぎず、實は帝國主義の走狗となつた無恥な奴隸的政策なのである。民族資産階級は、只だ帝國主義者間の矛盾衝突を利用せんことをのみ想つて、實際では、其中の最強者の走狗となつて居るに過ぎぬ。革命開始より今日に至る間、外國資本家の中國統治力の今日程強大且偉大になつたことは無い。中國の被壓迫的半殖民地的地位は、以前も治者階級が帝國主義に向つて買辦的投機事業をする對象であつたが、現在の資産階級軍閥の反動（國民黨）治下程に厲しいものではなかつた。

#### 五、民族資産階級と國民黨

國內政策方面に於て、資産階級軍閥の反動は、只ファシスト主義及アジア式野蠻專斷の手段を採用する以外に無い。白色恐怖、窮兇惡極の鎮壓、時には勞働民衆を屠殺する。此種反革命政策は國民黨治下に於て空前の野蠻さにまで達した。中國舊式の野蠻な毒刑で革命黨員に對する一方では、政治的には黄色組合建設の芝居を演ずる。そして警察と密偵とで組織した工賊的組合を以て勞働運動に参加する。

民族資産階級は日に増しその反動を増長するが、同時に彼自身の内部に於ける分化崩壞の過程も亦急轉直下の進展する。中國資産階級は、勿論絶對に帝國主義及地主階級の反動に對する反抗を實行する能力はなく、大衆運

動高調の最初に於て早くも革命に叛いて居る。又中國資産階級は反動勢力の團結安定に就いても何等其能力を有しない。中國民族資産階級が資産階級の基礎の上に中國を統一し、集權的國家を確立するとか、或は、ブルジョアチーと地主階級の聯合的基礎の上に中國を統一する等のことには彼等は完全に實行能力を有しない。これは彼等の歴史上の運命である。

民族資産階級と地主、軍閥の聯合が、結果として中國を一層分離崩壊せしめ、一層割據互争の局面を紛糾せしめることは勿論避け得ないことであり、そして繼續不斷、循環息まざる軍閥混戦の屠殺戦争を造成する。中國各階級中、民族資産階級は最も不成熟な最も無能力な階級であり、歴史上の社會制度改造に於て最も責任を負ひ得ぬ階級である。

國民黨は曾ては各階級の革命聯盟であつた。然し今や、急速に腐化墮落し、完全に無主義無目的な帝國主義の走狗として農民勞働者を屠殺する政黨となり了つて居る。貪贓、舞弊、殺人、兇犯、投機、奸商的官僚黨となり了つて居る。これは事實に於て、資産階級の反動の全部を顯著に反映して居る腐化崩壊の現象である。

中國共產黨中央は八月會議後則ち左の如く豫言した。

「國民黨は資産階級の反動的政府黨となり終るだらう。」

之れは正確な豫言であつた。今回の會議は、中央が此の九月中爲せる國民黨再組織計畫の取消決議及びソウエート決議に完全に賛成する。國民黨左派組織の失敗經驗は、國民黨の旗幟が既に白色恐怖の旗幟に變つたことを



證明するものであり、一切の眞正革命分子は、共產黨の旗幟の下に團結するある耳。

本黨は一切の革命分子の國民黨退出を號召すると共に、國民黨の民衆欺瞞壓迫の罪惡を暴露し民衆を領導して國民黨を推翻することに努力する。中國資産階級は歴史上に流産して居る。彼等は自己の政黨を造成する力さへ無い。彼等は一定の政綱を有する黨を造出し得ない。勿論、政治的意識ある政綱の造成など更に出來様筈はない。

#### 六、中國革命の前途

中國資産階級の此の特種作用は、資産階級軍閥の反動を完全に安定可能ならしめない。三回の革命の失敗を経て、反動はあたかも安定し得るか如く見えた。然し、それには中國社會經濟及政治制度が改良主義的方法によつて少しでも解決し得ることを必要とするし、又同時に、今日の國際及國內關係に於て、漸進的社會改變が可能であることを必要とする。だが實際上、今日の中國にはかゝる條件が存しない。中國には、一箇階級を以て責任を負ひ改良主義的方法で中國社會制度を改變し得るものはない。中國民族資産階級の民族改良主義は、革命の領導權を奪取し、小資産階級を朦蔽する一手段に過ぎない。彼等はその領導權を手にした後、直ちにそれを豪紳地主階級の手に移さざるを得ない。それは決して民族資産階級の手に、例へば汪精衛等の政客の手には無い。「改良土地關係」—例へば二割五分の減租等—此種政策は數日中に完全に破壊されてしまふ。此一例のみでも、改良政策が公開的欺騙に過ぎないことが證明される。

一方、世界の客觀的形勢は極めて革命的である。國際帝國主義の中國に對する侵略は甚だ急である。かゝる状

形も亦中國の改良主義が外國資本主義の援助を以て資本主義的に發展する可能性を無からしめる。帝國主義の援助を以て中國が完全なる資本主義的發展を爲すには、必ず次の二つの條件を要する。即ち、

一、中國をして完全に、列國帝國主義の永久殖民地たらしめること。

二、帝國主義が世界無産階級に戰勝すること、殊に第一に、ソウエート聯合に戰勝すること。

この外にも、尙中國が改良主義的方法で資本主義的發展を遂げられない理由がある。それは「革命は屢々大きな失敗をして居るが、中國勞働大衆の革命運動の力量の大部分は用ひ盡されないうで居るのみならず、今や將に革命闘争の高潮を盛り返へさんとして居る」ことである。

最近半月の經驗は最も明確に此の事實を證明して居る。中國の偉大な革命は既に、かゝる廣大な勞農苦力大衆を喚起した。彼等は悉く起つて獨立的政治闘争を實行して居る。民衆の憤然たる革命力量は、決して目的なき資産階級軍閥の反動によつて完全に撲滅され得るものでない。

一切の這うした事情は、中國共產黨中央臨時政治局擴大會議をして、現在の全中國の狀況が直接革命的勢力であることを認めさせる。

政治局擴大會議の、この觀察は、決して「革命は最短期間に必ず完全に勝利を得る」といふ幻想を伴つては居らぬ。中國の客觀的状況を云ふならば、直接革命形勢の時期は決して幾週間とか幾ヶ月のものでなく幾年もの問題である。中國革命は長期の性質を有するも然し間斷なき戦である。中國革命をその性質に照して云へば、マル



クスの所謂「間斷なき生命」である。中國革命の間斷なき性質の癩らすところは、

一、革命の性質上、中國資産階級には封建軍閥を推翻する民権革命を實行する能力がないから、中國革命の發展過程に於て「民権」はあり得ない。革命一段落の局勢から革命は急轉直下、必然的に、社會主義的革命に進展する。

二、革命の速度上、中國革命の進展は幾度かの挫折を経て居るが、而かも終始不斷の發展を隊けて居る。支配階級間の衝突矛盾が非常に激烈である爲め、彼等の支配は安定せず、民衆の革命闘争、殊に農民暴動は自發的に到る處で爆發し、勞農民衆の一般的暴動となつて、軍閥、豪紳、資産階級支配の勢力を顛覆させる趨勢を促がして居る。かゝる不斷の革命爆發は明かに中國革命の「無間斷」性を證明する。

それをするに、中國革命は民権主義任務の解決を殆んど爲して居らぬが、現在の革命闘争は既に、民権主義の範圍を超えて居り、又當然急激に發展中の中國革命の過程に於て、民権主義解決の任務から急轉して社會主義過程に進むべきものである。

#### 七、革命高調と低落の傾向

中國革命の永久性は最近各重要省に於ける農民暴動風潮に依つて證明される。九月中、農民暴動は廣東、湖北湖南に普及された。かく相隔つた地方に自發的に起つた農民暴動は、絶えず失敗したが、農民の革命運動的暴動は依然として繼續し、ある地方(湖北)では一層はけしくなつた。十月中農民暴動は江蘇、直隸、熱河、山東で開

始され、又同時に重要な無産階級地方、例へば上海、廣東、武漢等では、一時減退の形勢を示したがやがて勞働運動は一層猛烈に革命的となり出した。農民運動の風潮は、既に勞働者階級の闘争の爆發を誘起したが、唯だ暫時尚比較的弱かつた。南京武漢の軍閥が其地盤に對する屠殺戦争、強盜戦争を開始した後、勞働大衆の痛苦は一層甚だしくなり、廣大な勞農大衆は一段と憤激した。資産階級軍閥の反動は大衆の革命運動に對し、非常に嚴重な鎮壓、屠殺、逮捕を加へたが、大衆の革命闘争は、今失敗した許りの地方に陸續と起つた。大衆は自己の失敗の上に革命闘争を學んで居るのである。

勿論、革命の高調及大衆の革命力量、組織力量を過大に見て、之れによつて大きな範圍に即刻勝利を得べしと考へるのは誤りである。だが、三次の革命失敗後、そして現在の反動局面下に於て、大衆の革命闘争は終始繰返し爆發して居る。若し此の状況を過小に看るならば、それは取返しのかね大錯誤である。

革命風潮の低落は少くも (一)、資産階級軍閥支配の安定 (二)、改良主義の漸次の實行 (三)、革命大衆の潰散と消沈とでなければならぬ。然し敵の屠殺進攻は、唯に革命の潰散で無いのみならず、革命風潮の高漲が、敵をして驚愕措く能はず懸命に鎮壓せしめることを意味する。だが若し無産階級にボルセヴィキ黨がなく、積極的に大衆に發動して革命風潮の發展を指導すること無く、然も、自然的革命の高調が來て自ら勝利を得ると考へるならば、それは取も直さず機會主義的錯誤である。

#### 八、今日の總策略



現在の形勢に於て、中國共產黨の總策略は、即ち、

- 一、大衆の自發的革命闘争をして最高限度の組織性を有せしめる様努力する。
- 二、相互に隔離散亂せる農民暴動をして、出来る丈け大きな範圍の農民總暴動に變成せしむる様努力する。
- 三、労働階級の爆發と、農民暴動を互に援助し互に聯絡する様に努力する。

中國共產黨は勿論、早過ぎた、そして希望なきことの知れた武装暴動の爆發を避けなくてはならぬ。然し黨は當然一切の大衆の自發的革命闘争の發動を領導しなくてはならぬ。即ち共產主義者は必ずや一切の農民暴動の指導者とならなければならぬ。

若し農民暴動の發動が、事實上、種々な準備の爲め延期することが出来ず、又事實上、此の種暴動が比較的大範圍の勝利を得る見込みなき時は、黨は此種暴動をして遊撃式戦争（縣城又は大きな地域を占領せば、大規模な軍隊を設ける等の骨折りをせず、人数は少くもその團結を堅固にし、不斷に政府軍及地主の武装を襲撃する）を採用せしむべきである。

此種遊撃戦争は従つて非常に容易に發展し、巨大な農民暴動と成り得るし、更に進んでは、暴動は比較的大規模に政權奪取にまで展開する。勿論、遊撃戦開始後、農民は一般に都市特に小縣城を攻撃する傾向をもつものであるが、黨は當然、此種闘争を指導し戦術上の目的に適合せしめ、不備を襲つて武装を奪取し、土豪を殺戮し、各種の權力機關を破壊しなくてはならぬ。但し農民暴動の後、若し、縣城の佔據に専らとなり、鄉村に於ける土

地革命の根本工作を粗略にし、一層廣大なる大衆に働きかけることをせず、大衆をして自ら土地を奪取し自ら政權を獲得せしめないならば、これは要するに軍事投機に過ぎない。

城市に於ては、遊撃戦争の策略は、比較的に行し難いことが多い。随つて屢々城市に於ては此策略の實行を適用せぬ時がある。城市に於て既に暴動決定せられ、既に暴動開始せられた時に於て黨は初めて此遊撃戦争の策略を運用し得る。現在一切の工業區域に於ては、先づ、労働者の武装隊、自衛隊、訓練隊の組織に努力し、彼等を利用して、常に黄色組合との抗争に向はせるべきである、

城市労働者の暴動發動は非常に重要である。城市の労働者を輕視し、單に農民に響應する一種の力量と見做すことは大なる錯誤である。黨の責任は極力労働者の日常闘争を廣大な大衆的革命高調に發展せしめ武装暴動を組織し城市をして自發的に農民暴動の指導者と成り得る様に指導することである。

城市労働者の暴動は革命の勝利である。巨大な範圍に鞏固に發生するを先決條件とする。

次に、武装暴動の總策略の下に、兩種の不正確な傾向が發生し得る。一は軍事的投機傾向である。疑はしい希望のない發動は軍事投機主義である。然しこれは尙ほ主要な危険ではない。主要な危険は、大衆發動を根本と爲さず、大衆の力量を信賴せず、只軍事的力量のみを信賴し、そして軍事的佈置のみを知つて攻守進退の規畫を準備することである。これだと、暴動中に於て、軍事的行動或は充分に發展しない大衆闘争の工作があるのみである。最う一つのは、準備不充分に藉口し或は、等待政策を採つて大衆に發動せず、甚だしきに至つては大衆が既に發



動して暴動せるに、此種の暴動の指導に對して依然動搖すると云つた傾向である。這種傾向は大衆の力量を信頼せず、大衆に發動せず甚だしきは大衆の自發的闘争を阻止し、黨をして大衆中にその政治的生命を喪はしめるものである。

黨は此兩種の傾向に對し、其の危険性を暴露し之れを掃除することに努力せねばならぬ。

中國共產黨の、民衆暴動に對する責任は、勿論出来る丈の最大限度に大衆を組織するにある。但し、一切の大衆の自發的闘争は若し早過ぎると認めても黨は起つて指導する責任をもつ。

最後に、勞農武装暴動の策略に於て特に注意すべきは、即ち「豪紳工賊及び一切の反革命派に對し寸毫も假藉せず、一般貧民苦力大衆（小資産階級大衆）に對しては、極力彼等を勞農の闘争に参加せしめる。そして此種小資産階級（殊に店主商人等）に對しては猶豫動搖の心理に拘泥してはならぬ。若し彼等の安寧秩序の擾亂を懼れ革命的大衆の獨裁制を發展せしめずんば、時として、大衆の激烈な革命行動を阻止するに至るのである。現在は武装暴動の時期に未だ到らないが、然し黨の任務は、極力各地城郷革命の高調に努力し、總暴動の局面を創造するに在る。

之れを要するに、黨は極力農民の自發的暴動を組織し、貧苦農民を指導し、暴動の機を待たねばならぬ。遊撃戦争の發動は、勞働者の階級闘争を鼓動し、彼等を武装暴動に指導し、彼等を聯絡して總暴動とし、そして出来る限り大規模な勝利を獲得しなければならぬ。

#### 九、ソウエートの標語と勞農政綱

今日の革命階段に於ける黨の標語は、即ち「ソウエート」である。無産階級指導下に於ける勞農の民主獨裁的政權は只ソウエート制度の形式に於てのみ建設し得る。黨は當然文字及口頭の宣傳上、最も廣汎なる大衆に對し「勞働者農民、兵士、手工業勞働者、都會の貧民の代表會議の政府を建設する爲め革命闘争を實行する必要」及び「一切の政權を勞農兵貧民の代表會議に移す必要」を力説しなければならぬ。但し、確實に大衆の革命運動の巨大なる高調と、暴動の安固なる勝利に、既に保證がある場合に於てのみ、始めてソウエートは組織され、革命の政權機關と爲し得る。此の「暴動の安固なる勝利の保證」とは「暴動が一定の区域内に於て比較的長く固守し得られる」ことを意味する。

かゝる可能性ありて、農民代表會議（ソウエート）は組織さるべく、かくて暴動は眞に大衆的に發動し得る。暴動勝利の時は、事實上、此の種任務は勿論執行せざるを得なくなるが一方遊撃的農民暴動が尙襲撃移動の時代に在る間は、暴動を組織する當該地の革命委員會は、引續き臨時政權の性質を以て暴動の指導機關とならなくてはならぬ。

要するに、各地農民暴動の發動は、當然該地農民の秘密團體（農民協會等）の推薦した革命委員會之れを指導して、一層廣大なる大衆参加を誘導し、自動的土地沒收、豪紳工賊の殺戮を實行し、中國一切の舊關係を破壊して遊撃的戰闘を實行し、敵の武装を解除し、勞農革命軍を組織する。此種暴動は一定の區域に於て勝利を得、且つ



之れを支持し得る見込あらば、當然、ソウエート農民代表會議を建設しなくてはならない。

既に城市、一縣或は數縣を占領し、更に進んで一省に達し、勞農暴動が勝利を獲得したとするならば、尙更ソウエート建設の必要がある。都會の勞農兵代表會議は、特に廣大なる手工業労働者、店員大衆を吸収しなければならぬ。都會の暴動一度び開始されるれば、否その開始前に於ても、大衆闘争組織の形體例へば、總同盟罷工委員會、革命委員會等の存在するを要し、積極的に之等大衆闘争機關を指導して、革命暴動の中心機關とし、且つ革命を實行する大衆の獨裁機關としなければならぬ。

暴動の勝利は只ソウエート建設の過程中に於てのみ、能く勞農大衆をして自ら政權を獲得せしめ、更に一層の努力を以て革命を發展させ、革命の勝利を鞏固にする。従つて、ソウエートの組織は勝利未だ確立しない時には開始出来ない。蓋し、これは軍事闘争を粗略にし、小資産階級の民主々義意識に専ら選舉傾向を與へ、之れが爲めに革命的獨裁制を弱め黨の指導權に危険を及ぼすからである。だが、ソウエート組織は一軍事尙ほ未だ終了せず基礎未だ安定せず」の一事に藉口して遅延するを許さない。

蓋し之れは、一層暴動中に軍事投機主義を増大し、勞農暴動を完全に軍事行動に變ぜしめるからである。攻城奪地は、只軍事上の計畫に過ぎない。「一切の政權を勞農兵貧民の代表會議に」とは武装暴動の總標語である。而して城市の貧民は勿論、手工業職人、親方、其他一般被搾取小資産階級すべてを包括する。

黨は、勿論闘争の過程に於て、農民を農民協會農民委員會等々に組織しなくてはならぬ。(これは各地の狀況、農

民大衆の信仰其他で決定する。)這種組織は必ず貧農大衆(破産せる自作農、小作農、雇農、失業農民)の階級闘争的組織であらねばならぬ。同時に又暴動の組織(類似組合の經濟的組織と同一視してはならぬ)であらねばならぬ。そして黨は勿論、暴動勝利の時、農民協會を農民代表會議(ソウエート)と改稱せしめなくてはならぬ。現在に於ては、ソウエートの標語及農民協會の過渡的作用を宣傳すべきである。随つて、ソウエートの標語は決して農民協會組織と衝突しない。然し鄉村の政權は農民協會に歸すとの標語は取消さなくてはならぬ。ソウエートの標語以外に尙ほ農民を土地革命の旗下に團結させなくてはならぬ。農民暴動の尙發動しない地方には秘密農民團體が必要である。本黨は當然彼等を指導して抗税、抗還債の闘争より進んで武装暴動土地没收にまで向はせなくてはならぬ。本黨の土地問題に對する總方針は、既に土地問題草案中に登載して居る。黨は宜しく斷然として、一切の機會主義分子の猶豫圓滑な修改或は土地問題に於ける黨の主張の謬解に反對しなくてはならぬ。土地革命の主要標語は「完全に一切の地主の土地を沒收し、農民代表會議に於て貧農に分配する。」其他「耕者有田」「貸貸借制度の廢止」「抗租抗税の同盟」「一切の苛約高利の債務の取消」「豪紳、高利貸の財産沒收」「豪紳、地主、及一切の反革命派の殲滅」等々である。本黨は斷然として、「減租、沒收大地主、打倒劣紳惡地主」等の改良主義的標語に反對し、之れに替ふるに上述の標語を以てする。本黨は極力、農民暴動を最も平民式な性質たらしめ、寸分の顧慮もなく豪紳反革命派を殺盡する。即ち非常に小さな遊撃戰の中に於ても、かくする。城市に於てはソウエートの標語以外、尙労働問題のそれがある。即ち、「八時間労働」「絶對的賃銀の増加」「休息日の規



定」「社會保險制定」「生産の監督權」等々。

更に、勞働大衆及城市の貧民に對し之れを解釋すると共に暴動勝利の時には次の事を實行する。例へば、

「反革命派一切の財産の沒收」「中外大資本家の大工場、大商店、銀行、鑛山、鐵道等の沒收とその國有」「工場は勞働者の管理に歸し勞働法を制定する。若し小工場主が工場閉塞をせば、之れを沒收し、一切の反革命派工賊を織滅する。」「有産階級の財産徵發」「貧民生活の改良(勞働者貧民の住宅建築等)等々。かゝる革命的標語の下に本黨ははじめて被壓迫大衆の暴動を組織し、勝利を得ることが出来る。

#### 十、軍閥戦争に對する反對と軍事問題

軍閥間の一切の戦争に反對する問題は、中國の今日に於ける重要な政治上の問題である。中國共產黨中央臨時政治局擴大會議は、中央が最近發せる「反對軍閥戦争」の宣言に賛成する。そして軍閥戦争に對して採用する革命的「失敗主義」策略を以て正しいものと認める。「失敗主義」は即ち戦争中の双方軍閥を孰れも失敗させることを必要とする。軍閥の失敗崩潰は大衆革命運動の環境を展開せしめ、勞農暴動をして容易に勝利を得せしめる。

張作霖、孫傳芳、張宗昌の統治と白崇禧、唐生智、汪精衛の統治は同じ性質のものである。北方軍閥の大半は自ら大地主、高利盤剝者であり、最大の官僚、買辦、資本家の代表である。即ち商業資本と高利資本及官僚地主の政權である。南方軍閥は豪紳地主(高利盤剝者)とナショナルブルジョアチーとの聯盟である。彼等は双方現在同じからざる地位に居るも、勞働階級及農民階級の彼等に對する態度は同じである。本黨の任務は、一切の軍

閥戦争中に於て、此種軍閥戦争を革命戦争に導く様努力し、かゝる屠殺掠奪の戦争を、勞働民衆の富豪軍閥に對する國內戦争と變ぜしめるにある。本黨は宜しく勞農民衆に「軍閥の屠殺戦争に對する唯一の方法は各地の勞農兵大衆が起つて、各地に於ける軍閥地主資産階級に對する革命暴動を實行するにある」ことを説明しなくてはならぬ。又、本黨は大衆を組織し、暴動有利の形勢にある時、彼等を暴動に指導し、勞農大衆を率ゐて混戦殃民の軍閥からその武器を奪取する備へをしなくてはならぬ。中央は一層廣大なる大衆の間に反軍閥の宣傳を爲すべきであることを認むる。又中央は「反對軍閥戦争」の標語は正しいと認める。但し此の標語を宣傳する時には「永久にかゝる戦争を消滅する爲めには、暴動貧民の革命が勝利を博しソウエート政權を確立するの一事があるのみ」といふ事を解釋しなくてはならぬ。

軍閥の中の革命工作は、戦争の關係から一層重要である。一層烈しく軍閥軍隊の工作を破壊しなくてはならぬ。中央政治局は屢々這種工作を提出したが、然し之れは到る處で殘摧され、ある者は全然實行しない。農民暴動が屢々失敗する主要な原因は、以上の工作が何等の成績なき爲めであると中央は認める。本次の會議は、今や、各級黨部に對し、即刻兵士及下級士官中の秘密工作を開始すべきを特に命令する。主要な革命標語の宣傳以外に軍閥中に於ては、次の要求を加へるを可とする。「兵士の手當増加」「未拂手當の要求」「兵士に好い衣服住居を供給する」「體刑の廢止、軍官の兵士侮辱に反對する」「兵士は軍官の財政を監督する」

本黨は兵士を暴動に参加せしめ、軍閥の財産を沒收し、兵士の代表をソウエートに参加せしめなければならぬ。



同時に、中央は特に左のことを指示する必要を認める。即ち、

中國革命の全経験、特に屢次失敗の経験は、中國現在の僱傭軍隊を革命闘争の信頼し得る工具となすこと不可能を證明する。随つて暴動勝利の後正式革命軍隊を組織し得る地方、例へば廣東其他の各處では、本黨は、完全に僱傭軍隊とは異なる勞農軍を組織しなくてはならぬ。勞農革命軍組織上の主要原則は、志願兵制度にある。勞農革命軍の成分は、勿論階級意識ある革命的勞農でなければならぬ。黨代表政治部の制度は宜しく新軍隊の各級組織の中に建設しなくてはならぬ。新軍隊中には又、集權的軍需機關がなくてはならぬ。新軍隊は勞農革命軍と名づける。

#### 十一、反帝國主義の闘争

八七緊急會議以後の一時期は中國歴史上の空前の階級闘争激烈時代であつた。此の狀況の必然的結果として本黨はその全力を無産階級農民の闘争指導に用ゐた。此の困苦艱難な條件下に本黨は國際帝國主義反對の國民運動に注意を向け得なかつたが、此の時期に於て、中國資産階級及其代表たる軍閥は一步步屈服し、その賣國的親帝國主義的使命を實行した。一九二七年一月三日武漢勞働者苦力大衆は赤手空拳を以て英國租界を奪回したが國民黨は遂に之れを英國に返還した。何たる恥辱ぞ、九月一日關稅自主を實行したが之れも遂に取消された。所謂國民政府は外國の自己に服従すべきことを宣言したが英國領事の抗議によつて威嚇し去られてしまつた。又日本帝國主義の滿洲侵略に對し、國民政府は一言の硬強な抗議を爲し得ない。之等は、無産階級のみが徹底的な眞の

民族解放運動の領袖であり、無産階級は反帝國主義闘争を指導し、進んで廣大な農民及都市の貧民大衆を誘導するものであることを證明するものである。

中國共產黨—無産階級の先鋒であり、随つて中國勞働大衆の民族解放運動の指導者—は嚴重に支配階級の賣國的行爲を、並に國民黨の虚偽な「反帝國主義」の口頭禪を暴露しなければならぬ。又本黨は無産階級及廣大な被壓迫階級を號召し左の奮闘に指導しなければならぬ。

「帝國主義反對」「不平等條約の取消」「外國陸海軍の即時撤退」「外國資本家の工場、企業、銀行を沒收して既に組織されたソウエト國家たる中國人民の公有に歸せしめる」「一切の外債—滿清政府及軍閥政府が中國を賣物にして借り入れたもの、取消—等々。同時に、本黨は不斷に勞働者及一般勞働大衆に對し「中國人民が完全に帝國主義に勝たうとするには是非とも支配階級を推翻し、新しい革命政權、眞正なる貧民政權即ちソウエト政權を建設し、同時に國際無産階級の賛助を得る必要がある。」といふ標語を宣傳しなくてはならぬ。

#### 十二、機會主義の遺毒

八七緊急會議は嚴重に以前の黨の指導機關の機會主義的政治方針に反對した。そして中央臨時政治局は屢々地方指導機關の機會主義的錯誤を糾正した。然るに黨内には依然小資産階級の機會主義の遺毒がある。葉賀潮仙失敗の主要原因の一、南昌暴動政治上の意義の喪失せる主要原因の一は、即ち前敵指揮者が革命的政策を實行せずして、各種主要問題に妥協的改良主義的方針（只二百畝以上の地主の土地を沒收し、收穫高の三割に減租すること



を主張し、農民大衆の革命的宣傳に注意せず、勞農が自動的に獨立的に豪紳地主反革命派を殺戮することを許さず、地主、豪紳の財産の徵發沒收政策を放棄したり等々)を採用したことに在る。軍事上の非常な失態も亦前敵指揮に表現されて居る。即ち此の中に、革命建議力なく、果斷な意思と方針なく、幾多の農民暴動中、指導者は猶豫動搖し、革命的な堅固な意思がない。之等は皆幾度かの失敗の主要原因である。此種機會主義的特點は大衆運動の力量を信用せず、農勞大衆に依據せず、信頼し得ぬ軍隊の力量にのみ依頼せんとし、常に雜色軍閥對手にカラクリを行はんことを想ふことである。

中央此次の會議は、全黨の力量を以て、此種危険な致命的な機會主義の遺毒を排除すべきものであると認定する。這種機會主義遺毒が尙ほ存在する主要原因の一は、黨の指導幹部が無産階級の成分でない點にある。本次會議は各級黨部に對し、即刻最も斷然たる方法を以て、指導幹部を勞働者化し、且つ内部の機會主義的分子を肅清することを命ずる。最近兩湖廣東及葉賀南征の失敗の主要原因は主觀上の錯誤が大部分を占めて居ることを知らねばならぬ。鞏固健全な非機會主義的指導が無ければ革命は勝利を得ることが出来ない。

次に本會議は、尙ほ黨内に於ける別種の危険傾向の發生可能を豫防すべき必要あるを認める。此種の傾向は、勞働階級日常の經濟闘争に於て、部分的要求の闘争即ち職工運動工作に對する考慮の殆んど拂はれないことである。其實、武装暴動の總策略は部分的要求の闘争を指導する工作と相衝突しないのみならず、一層積極的に勞働階級を指導し自己の生活改善の要求に對する日常闘争に奮闘せしめる必要がある。かくの如くして始めて共產黨

は發展して大衆の革命的組織となり得るのである。」

#### 政治紀綱決議案

一、本黨第五回大會は黨内の政治規律の整頓を非常に重視した。最も嚴密な政治規律のみが、益々無産階級政黨の闘争の力量を増大する。これは共產黨の最低條件である。

二、今年七月事變に於て公開的に國民政府からの退出を宣言した後、小資産階級領袖との妥協政策を放棄し、決然、勞農大衆を指導して武装暴動を爲すことを決定した。八七會議は、一層詳細に、本黨は以前は機會主義的錯誤を犯して居たが、今後は大衆の力量に信頼し、徹底的に土地革命を實行せねばならぬことを指摘し、且つ秋收時期に於て、湖南、湖北、江西、廣東の四省に於て、農民を指導して暴動を開始し、土地革命の闘争を進行せしめることを決定した。

三、此の政策は寸毫も逡巡を許さないものであつたが、然し各省暴動進行中、本黨の指導機關と負責同志は幾多此の策略に違反する重大な錯誤をやつた。即ち、

#### A 八一事變中の前委の錯誤

中央政治局は南昌暴動は四省暴動の一部であると決定して居る。當然農民主力を以て土地革命の闘争を發展し、單純なる軍事上の行動と勝利を希望すべきでない。然るに前敵委員會の政治軍事上の指導は皆重大な錯誤を演じ、依然機會主義的舊政策を繼續した。即ち政治上に於ては、明瞭な土地革命及勞農貧民政權の政



綱なく、確乎たる「耕者有其田」の標語を提出し得ず、沒收は二百畝以上か五十畝以上か等の議論に彷徨し事實に於て結局「耕者無其田」を實行した。又策略上に於ては、軍の到着した地點に於て、豪紳資産階級の屠殺並に其一切の政治社會組織の破壊、武装の沒收等々を行はず却つて軍閥の所謂「不擾民」の觀念を沿用して貧民を掠奪し、次には、豪紳の財産を沒收して財政問題を解決することなく、却つて舊式軍閥の常に行ふ如く豪紳からの「籌款」方法を想つて貧民と労働民衆を剝奪した。又軍事上に於ては、もと武漢に於て豫定した保守政策に拘泥し、農民運動の比較的基礎ある江西から直ちに廣東に入らず、只敵の攻撃を避けんとを願つて、農民暴動の完全にならない江西東部の荒路を進み、瑞金會戰で勝つた後も、直ちに南下梅縣を進取することをせず、傷兵輜重運輸の困難のみを慮つて遠回りをし、杭汀から潮仙に出で、遂に敵に準備の餘裕を與へて大失敗して居る。更にその次には、暴動開始から潮仙の失敗まで絶えず張發奎との妥協を幻想し、甚だしきは張發奎に手紙を送り、小軍閥的雜色軍隊に南昌暴動の後路を委任し、不穩な蔡廷楷の軍隊に非常手段をとることをせずして中途に叛變され、遂に吾人の軍隊に大なる影響と打撃とを受けしめた。此種指導上の錯誤は、徒に勇敢なる吾人の軍人同志三百餘をして、南昌、瑞金、會昌、湯杭、三河壩の諸役に犠牲者たらしめ、兵士大衆亦非常な損失を蒙つたのみで、結果は失敗である。此種錯誤の根本原因は、前委が軍事投機の遺毒を受け大衆の力量を信頼せず、農民に發動して眞正の勞農民衆の政權を創造する決心がなかつた事にある。これは完全に一時の軍事投機の試みであり、中央の政策に違反した行動である。

B 南方局の廣東省委の農民運動指導も亦重大な錯誤を行つて居る。南昌暴動に當り軍隊が廣東に向つて動き出した時、廣東黨部は當然土地革命の政綱下に農民を鼓動して暴動し、政權奪取を實行しなくてはならなかつた。然るに廣東省委の指導は依然として動搖不確定で、大衆の暴動能力を信頼せず、左の如き重要な錯誤を犯して居る。

- 一、政綱標語上、五十畝以下不沒收に拘泥し、百分の三十の減租標語を専ら提起した。
- 二、戰術上農民軍は只側面攻撃のみを採用して僅に葉賀軍に對する牽制的援助をするのみで、農民大衆に對し、起つて政權と土地とを奪取すべく號召せず、隨つて猛烈な戰術を行はなかつた。
- 三、根本上農民大衆に發動せず、完全に自己の組織せる農軍の行動に依頼した。隨つて純粹なる軍事行動たり得ても農民大衆の暴動ではあり得なかつた。そして南方局は小軍閥的雜色軍隊を前敵委員に紹介して軍事上の牽制を爲すことにのみ注意した。
- 四、地域上、海南、高雷等は起つたけれども大局には關係なく、西江方面は僅かに鐵砲を有する零細な部隊（農軍或は土匪）に交渉した位のもので農民大衆に號召せず、之れが爲め此地には結局暴動なく、黃紹雄の部隊は安然として通過して居る。東江農民運動は普寧、五華、海陸豊を除き、他は皆渙散して殆んど組織なく、更に黨はその指導を誤り、葉賀軍が潮仙到着後、農民暴動をして反對に停頓せしめて居る。
- 五、既に根本に於て農民大衆に發動せず、隨つて大衆中に葉賀軍に依頼する心理を生ぜしめ、之れが爲め一



般農民は自ら起つて政權を奪取する覺悟を知らない。之れは政治宣傳の大錯誤である。

C 湖南省委の農民暴動に對する指導は更に中央の策略に違反して居る。中央は屢々湖南暴動は農民大衆を主力とすべきことを指摘し、且つ省委書記彭公達同志に直接其軍事投機的錯誤を警告し、省委に對し此錯誤を改正して暴動主力を農民大衆の上に建設し、中央の兩湖暴動計畫に照して準備する様要求した。當時幾度か反復辯論し、結局彭公達同志も強いて之を容諾したが、省委の指導は依然として舊い軍事投機的錯誤を改めない。即ち、

一、彭公達は中央の指示に違反し暴動を單なる軍事行動と看做し、只土匪や雜色軍隊と交渉して、廣大なる農民大衆の暴動を誘起することをせず、之が爲め暴動は安源労働者の勇敢な参加があつた以外、各地の農民は實際上何等の行動を爲さなかつた。

二、暴動区域内に於て、土地革命と勞農政權の政綱を提出せず、之が爲め農民をして只共產黨の擾亂と思はしめるに至つた。甚だしきは省委は農民が土地を要求すべきを疑つて、却つて八時間労働の標語を出したりして居る。

三、勞農軍の經過地帯に於て土豪劣紳屠殺の策略を實行せず、農民をして單なる客軍の通過のみと思はせるに至つた。かゝる指導上の錯誤の結果として、湖南農民暴動は單純なる軍事投機となつた。

D 湖北北部の暴動に就て、中央は八七會議後特別委員會をして指導發動せしめた。然るに特委鄂北到着後、

農民大衆の賦稅錢糧に對する反對、軍閥に對する反抗氣等を重視せず、却つて民衆の力量を輕視し、坐して張兆豐軍の來待を待ち、張軍が解散されるに及んで今度は張をして農民の反對する樊鐘秀と聯絡して軍事投機を試みんとした。これは根本から中央の策略並に中央付託の使命と相反するものである。鄂南暴動は既に廣大なる農民大衆の行動を誘起し、湖北省委と鄂南行動委員會は蒲圻城を攻略する戰略を決定した。然るに省委は農民武装の弱少を恐れ時に臨んで大戰停止を決定し遂に民衆を潰散せしめた。これ亦大衆の力量を信頼せず、陣に臨んで退いた大錯誤である。

四、以上の暴動區域に於て黨部の指導が重大なる錯誤を犯して居る外、王若飛同志は未だ省委を經過せずして、上海國民黨市黨部内に工作して居る同志を指揮して革命同志會を組織し、上海に來て蔣介石に投降した汪精衛を歓迎した。これも組織上及政治上の大錯誤である。中央監察委員楊匏安同志は漢口に於て環境險惡を恐れ中央が分配した工作を執行せずして漢口を離れたが、之は明かに黨紀に違反するものである。

五、中央臨時政治局擴大會議は、以上錯誤政策を執行せる黨部の執行機關及負責同志に對して左の如く處罰する

A 譚平山同志は第五次大會後、國民政府の農政部長に就任し、爾後、南昌暴動前後に至る行動及主張は完全に土地革命政策に反對して居り且つ其行動は多く黨より離れて自由行動に移つて居る。最も顯著なるは、七月武漢國民黨及政府が共產黨排除を開始した際、内々鄧演達等と聯絡して取消を主張し、別に第三黨を組織し、知識分子の同志中に中央反對を運動し、一方黨の決議を見るや、中央の許可を得ずして汪精衛に請暇し



請假呈請書中に農民運動の過激を攻撃し、汪精衛の代表陳春圃との談話に於て更に本黨中央及農民運動を攻撃し、最後に中央政治局が彼のモスクワ行を決定するや命に遵はず、九江南昌に到つて依然その個人的行動を發揮した。彼は九江に於て賀龍と語つた時賀が張に反するを知り、負責同志の會議中に於て中央にも黨にも關與せず自ら處すべしと放言した。南昌に於ても依然第三黨の宣傳を行ひ、同志中に於て、又國民黨員中に於て、其後は又革命委員會に於て、幾度か行動後通知するとか或は全然通知もせぬ舉動を重ねて居り、豪紳屠殺、財産沒收等の政策に對し、時に之れを妨碍して居る。かくの如きは本黨の組織的行動に違反するものであるから即ち之を除名する。

B 張國濤同志は中央常委の委託を受け南昌暴動の指導に赴きたるも、その九江南昌到着後中央の命令を執行せず、却つて暴動の主張に懷疑をもち、甚だしきは之に反對し、南昌事變以後は、張發奎との聯絡を主張し且つ一切の土地沒收の政綱に反對した。かくの如き中央の政策と前敵指揮の使命に違反したる行爲の結果は前敵同志に非常な影響を與へ、前委も亦之それが爲め動搖するに至つた。即ち張同志を臨時政治局候補委員中央執行委員會委員より除名する。

C 今次前委の指導は非常な錯誤を犯して居る。此に前委全體に警告する。

D 徐克英同志は汕頭に於て公安局長たりし當時工人を取締り擅に逮捕し、且機に乗じて掠奪した貧民三名を殺した廉により、此に監視一年に處す。

E 南方局廣東省委の農民暴動指導の錯誤は、土地問題策略の標語を諒解せず、群衆に發動せず、只軍事行動のみに専らであつた點に存する。此に全體に對し警告する。

F 湖南省委彭公達、毛東澤、易禮容、夏明翰は其現任委員の資格を取消し、彭公達同志は中央政治局候補委員を開除し、監視半年に處す。毛東澤同志は八七緊急會議後、中央より湖南に派した省委の改組と中央の秋暴政策の特派員であり、事實上湖南省委の中心である。湖南省委の錯誤は毛同志に重大な責任がある。此に中央臨時政治局候補委員を開除する。

G 鄂北特別委員會は中央の命令に違反せるを以て全體に警告を與ふ。又陸沉は特委の書記として、主張する所多く軍事投機心理より出で、根本に於て農民運動の工作を爲さず、此に中央委員の資格を開除する。

H 鄂南行動委員會傅同志は監視半年に處す。

I 王若飛同志には黨國指導の錯誤に就いて警告す。

J 楊匏安同志は中央監察委員の資格を開除する。

## 二

十一月會議が終つて間もない十二月十一日、彼の廣東ソウエートが、過去四ヶ月間の闘争の結晶として實現した。吾人は殖民地革命運動に於て労働者自身が完全に自己の力量を以てたとへ三日に終つたにもせよ、ソウエート政權を獲得したといふ一事は、世界無産階級運動史上に於て、バリコンミューン以上に重大な意義を有するを知る。



これが如何なる環境の下に、如何にして行はれ、如何なる宣言を爲し、如何なる事蹟を残したかといふことは、随つて、最も明確に記述されなくてはならない。だが本稿では之等を一切第五章に譲り、こゝでは、新戦術採用の結晶として、該事件が発生したといふ事實を摘揮するだけに止める。

廣東ソウエートの建設は、全世界を震撼せしめた。國民政府は、非常手段を以て全國的發動の豫防に従事し、ソウエートロシアと國交を絶ち、共産黨並びにすべての労働者農民の組織、並びに之れが活動に凡ゆる壓迫を加へた。然し、いづれにしても、廣東暴動は、「三日天下」といふ表面的失敗の一面に於て、労働者今後の闘争に劃時代的教訓を與へた。第一、此の暴動によつて労働者が痛切に知つたことは、（廣東暴動批判に關する決議及一九二八年三月の宣言より）

「一、兩湖農民暴動以來、南昌八月の暴動、葉賀軍の潮仙の戦闘等、革命の高調期に當つて、労働者農民の經驗未だ充分ならず、政治的組織の基礎薄弱にして國民黨の左派に對する幻想尙脱し切らず、殊に労働者の闘争、農民の暴動、兵士の兵變等の革命力量の間に堅實なる聯絡のなかつたことが、廣東暴動の失敗を決定して居ること。

二、中國の政治的、社會的總危機及び新舊軍閥の亂戦局面を解決するには、ソウエートの勝利以外にないこと、そして此の勝利の爲には、工農兵の聯合を緊密にし、一省或は數省の政權の獲得を全國的勝利に擴大しなければならぬ。随つて、各地勞農は以上の根本を充分に諒解し、農民の遊撃戦より農民割據への發展、大都市労働者日常闘争の發動から、労働大衆の政治的ゼネラルストライキへの發展、大都市に於ける武装暴動から經濟

的中心地帯の政權獲得への發展等に就き、廣東暴動によつて歸結し得た一切の經驗教訓と、廣東暴動によつて得た労働者自身の廣大なる力量に對する自信とを以て直進しなければならぬこと。

三、以上の目的の爲め、一切の無計畫的冒險をいましめ、大衆の間に、ソウエート政權獲得の意義を充分に宣傳し、闘争組織の偉大なる擴大を準備しなければならぬこと。」

であると、共産黨指導者は明確に宣言して居るが、事實、廣東暴動の後に現はれた諸運動の傾向は、かゝる宣言の政策化されつゝあるを吾人に物語つて居る。即ち廣東暴動以後現在に至る各地の無産運動は、完全なる前述經驗の政策化の形態に於て、着實細心なる準備行動として、來るべき第二の革命高調期に對する行動への前進として爲されつゝある。かゝる傾向を具體的に宣言したものは、一九二八年夏行はれた第六回中國共産黨の諸決議並に同時に行はれた第三國際第六回世界大會の殖民地革命運動に關する決議等である。

第六回大會の政治決議は、先づ世界革命の發展、世界革命と中國革命の關係、並びに中國革命の性質に就いて決定的な説明を試みたる後、中國革命現在階段の要求として、

「一、帝國主義の統治推翻

二、外國資本及銀行の沒收

三、中國の統一と民族自決權の承認

四、軍閥國民黨政府の推翻



- 五、農工兵代表會議(ソウエート政府)の建立
- 六、八時間労働の實行、賃銀増加、失業救済及社會保險の實施
- 七、兵士生活の改善、兵士に對する土地と職業の給與
- 八、地主階級の土地の沒收と耕地歸農
- 九、一切の政府軍閥の地方税捐取消と統一的累進税の實行
- 十、世界無産階級及びソウエートロシアとの聯合

を擧げ、更に過去の経験を詳細嚴密に批判し、帝國主義の中國に對する實狀を解剖して、革命第二の高調期の切迫を述べ、大衆の獲得及び武装暴動の意義の宣傳の必要を力説し、機會主義と盲動主義を警告し、黨内工作、労働者及勞農の運動に對する目前の行動、ソウエート区域内に於ける任務、民衆運動中の任務、反帝國主義反軍閥闘争中の任務、兵士の運動の任務、國際聯合の問題等々に就いて一々具體的方針を指示したる上、對國民黨方針に關しては「十一月會議の決定は正しい。國民黨各派は買辦、豪紳、地主、民族資産階級等を代表する反革命派であつて、南昌、及廣東の暴動に於て彼等は完全にファスシスト化して居る。吾人は革命高調期未だ發現せざる今日に於て大衆を中國共產黨の周圍に結合し、不斷に國民黨の本質と罪惡を暴露し、之れを推翻すべき運動を繼續すると共に、大衆中に階級意識を朦蔽し、反帝國主義民衆運動の中に不斷の妥協を提出する所謂第三黨、工農黨の一流に對しても、無産階級の獨立性を支持して絶對的に排撃すべきものである。」

云々と訓令して居る。

左に譯出したのは中國現在の無産運動の根本を爲す第六回第三國際世界大會の殖民地運動に關するテーゼ中、「殖民地に於ける共產黨の任務」及「支那に於ける共產黨の任務」に關する部分である。

(一)

「殖民地及半殖民地に於ける共產黨の建設と發展、客觀的革命状態と主觀的要素の薄弱との間に於ける非常な不均衡の除去は、共產黨インターナショナルの最も重要な任務であり、此の任務は、これ等諸國の歴史的發展及社會的構成によつて決定された一切の客觀的困難に對して發生する。

産業の微弱な發展に應じ、これ等諸國の労働階級は依然として若く、且つその數も一般人口に比較して割合に少い。殖民地の制度、並びに無教育状態、種々雑多な言語の相違は、一般に労働階級の組織と發展の、又特別には、共產黨の急激な發展の困難を物語る。組成の動搖、婦人及小兒の比率は殖民地プロレタリアートの特質的象形である。多くの場合、期節労働者が優越であり、且つ、プロレタリアートの基礎階級すら尙農村に根づいて居る。これは労働者と農民の關係を容易に密切ならしめる代はりに、プロレタリアートの階級意識の發展を一層困難ならしめる。

經驗は示す。殖民地及半殖民地の大多數に於て、たとへそれが黨の優越的部分でないにせよ、運動の第一段過程に於ける重要な活動が、革命的に傾いたインテリゲンチヤ——非常に暫々學生——によつて活氣づけられて



居ることを。又これ等の分子が、最も決定的な帝國主義反對者の存在を黨内に發見した結果共產黨に加入するが、一方に於て、共產黨は帝國主義の搾取と壓迫に對してのみならず、プロレタリアートの政黨として、一切の搾取と壓迫に對し決定的な闘争を指導するものであることを充分に了解しない事實が屢々發生する。

革命闘争の過程に於けるかゝる加入者の多くはプロレタリアートの立場に到達するであらうが、一部はこれ等小ブルジョアの氣分から脱却することの困難を發見する。黨内のかゝる分子が批評的モメントに於て、ナショナルブルジョアヂーの役割を正しく觀察し農民革命其他の問題に一貫逡巡なく行動することを非常に困難とする事實を發見するは明かである。殖民國家は社會民主主義の傳統をもたないが、然し又マルクシストの傳統をも持たない。闘争過程に於ける吾人の若い黨は、黨の建設過程に於て、ボルセヴィズムへの路を發見する爲め、ナショナルブルジョアヂー意識の遺物を抛棄しなければならぬ。

これ等の客觀的困難は、共產黨インターナショナルに對し、殖民地及半殖民地に於ける黨の建設の任務に絶對的な特別の注意を與ふることをその重大なる義務と爲す。此の關係に於ける特別重大なる責任は帝國主義國家の共產黨にも連結する。このことは正しい政治的ラインの作出、組織及アヂテーションの範圍に於ける經驗の正確なる分析の問題に援助することのみならず、黨内の組織的教育、マルクス、レニン文献の或る點を殖民地諸國の言語に翻譯出版することに就いて、又殖民地半殖民地の經濟的社會的問題を研究し、マルクシスト的分析を爲す問題、並に黨機關紙の問題等々に最も積極的な援助を爲すことを要求する。

殖民地及半殖民地に於ける共產黨はあらゆる努力を以て労働階級の中から黨の幹部を作り出す義務がある。黨のメンバーを、宣傳隊や合法非合法の學校に於ける指導者演説者の役割に利用し、進歩せる労働者をレニニズムに徹底したアヂテーター、宣傳者、組織者に教育することに依つて。殖民地諸國に於ける共產黨は眞のプロレタリアートの政黨であり、又その社會的組織でなくてはならぬ。黨内に最も有力な革命的インターゲンチヤを包有し、日常の闘争と大きな革命的戰闘の過程に黨を堅實にしつゝ、共產黨は、工場、鑛山及運輸労働者間、開墾地の半奴隸間に於ける組織を強大にする任務に主なる注意を致さなくてはならぬ。

資本主義が労働者を集中して居る處では何處でも、労働者の長屋でも、工場のバラックでも、労働階級の運動から隔離されて居る開墾地の半バラックに於ても、共產黨はその細胞を作るべきである。小手工業職場に雇はれて居る渡り職人、徒弟、苦力の間にも此の仕事をおぼつてはならない。土地の労働者及大都會より來た労働者は、單一且つ同一組織に結合させるべきである。合法及非合法の工作に關する古い黨の經驗は、殖民地諸國の事情に應じて利用しなければならぬ。例へば支那で起つた様に廣大なる大衆組織が比較的容易に反動派の打撃の下に何等大なる反抗もなく破壊され、かくて黨と大衆との關係を非常に弱めた様なことを出来るだけ避ける爲めに。

## (二)

共產黨の發展と並んで殖民地及半殖民地の共產黨の最も重要な目前の任務は労働組合に於ける工作である。非組織労働者の組織、就中産業の大部門（機械、鑛山、運輸、織物等々）に於ける組織、現存の組織の眞の階級



的組合への改變、これ等の組織内の指導に對するナショナルリフォーマリスト及び反動組合リーダーとの闘争、之等は凡て労働組合の任務に含有さるべきものである。工作の他の範疇は雇主との闘争に於ける労働者の経済的利益及び目前の要求の支持、特にストライキの決然たる、そして正しい指導の下に成り立つ。

労働大衆を含む反動組合内に於ける革命宣傳工作は共産黨の義務である。環境が特別の革命的組合（蓋し反動組合のリーダーが未組織労働者の組織を妨げ、組合デモクラシーの根本的な要求を破壊し、組合をストライキ破り組織に轉換する故に）を組織する必要を示した諸國では、此の問題につき赤色労働組合インターナショナルと協議する必要がある。殖民地諸國に於けるアムステルダムインターナショナルの陰謀（支那、印度、北アフリカ等に對する）に對して、又その反動的特質を大衆に暴露することに對し特別の注意がなされなければならない。

共産黨にとり、注意及指導者の派遣により殖民地に於ける革命的組合運動を援助することはその義務である。だが、此の點に就ては今日まで殆んど何もなされて居ない。

## (三)

農民の組織が存在する處は何處でも、それが眞の大衆組織である限りに於て、彼等の特質とは全く關係がない——共産黨はこれ等の組織内に入りこむ爲めの手段を採用しなくてはならぬ。黨目前の任務の一は、農民問題を労働者階級の間に正しく提起することである。即ち労働者に農民革命の重要性とその決定的役割を説明し、且つアチテーシヨン、宣傳、組織工作等の手段で農民の間に黨のメンバーを獲得することに依つて、共産黨は到る處に

於て、現存の農民運動に革命的特質を與へる様に企てるべきである。共産黨は新たな革命的農民團體及農民委員會を組織しなければならぬ。彼等と共産黨の間に正しい關係を築くことが必要である。農民大衆の中に於て又プロレタリアートのの中に於て、農民及プロレタリアートの戦闘陣營の爲め熱心に宣傳することは根本的な仕事である。

特別な所謂労働者農民黨は、それが如何なる革命的特質を表現すると、それは或る特別の時期に於て、最も容易に一般小資産階級黨に改變し得る。随つて共産黨はかゝる黨の組織に參與してはならぬ。共産黨は二つの階級の結合を基礎としてその組織を造ることは決して出来ない。同様に、小ブルジョアの特質たるかゝる基礎の上に他の黨を組織する如き任務を爲し得ない。労働者及農民大衆の戦闘陣營は左記の中に之を發見し得る。即ち「革命的農民團體（又は彼等の委員會）及労働組合の代表の、細心に準備され且つ定期に召集される聯合會議及大會に於て。又労働者農民の組織的行動を一にし、種々な大衆行動を行ふことにより、行動委員會を成立せしむるに機熟せりと見得らるゝ一定の環境の中に於て。」最後に、暴動の期間中、共産黨の最も根本的な任務の一つは、労働者農民代表のソウエート建設を進展せしめることである。或る又は一切の事情の下に於て、共産黨は決定的な影響農民運動の上に與へなくてはならぬ。其大部分が農民運動に於ける指導任務を容易ならしめるであらうところの労働者農民間の陣營の基礎的形態を發見し、且つ運用する爲めに、又且つこれ等の形態を暴動及權力の機關としてのソウエートに益々轉移せしめる爲めの前提を建設する爲めに。



## (四)

殖民地諸國に於ては、青年プロレタリアートは特に痛ましい苦しみにさらされて居る。そして労働階級の組成の中に青年が演じて居る相對的部分は、古い資本主義國に於けるより、殖居地諸國に於て著しい高度を示して居る。青年労働者の搾取には何等の法律上の制限がない。又労働時間の上にも何等の法律上の規定がない。労働條件は堪え難き程度にまで苛酷であり、且つ雇主及監督から非人道的な取扱ひを受けて居る。其の環境は農村青年と同様である。随つて労働及農村青年が殖民地諸國の革命運動に常に積極的な行動をとりつゝあることは驚くにあたらならない。こゝからして、支那に於ける革命的組織及農民軍の、又日本當局と闘ひつゝある朝鮮のバルチザン軍の、又印度支那に於ける英雄的暴動への参加者の大部分が青年であることが由來するのである。

殖民地に於ける青年共産黨インターナショナルの目前的根本的任務は、共産黨の指導下にプロレタリアート青年の革命的大衆組織、換言すれば、青年コムニスト・リーグを創ることである。此の關係に於て、青年共産黨の立派な指導幹部を養成することは、共産黨青年組織に對する大衆的性質と基礎的なプロレタリア成分とを確立することと同様に重要なことである。青年労働者と共に、青年コムニスト・リーグの中心機關に於けるプロレタリア要素を強大にする爲め、農民青年運動に於て活動しつゝある最も好い最も献身的な分子を獲得することが大切である。未だプロレタリア化しない層から青年コムニスト・リーグへ、青年大衆を展開させることは、後者の中に壓倒的なプロレタリアの構成と、確乎たるコムニストの指導が保證されてのみ始めて可能である。

共産黨の凡ゆる戦ひに參與すると共に、共産黨青年組織は、それ自身を、労働階級の指導に關して黨の地位に置かうとする努力（所謂前衛としての）、並びに、青年共産黨運動に對する「必要」の否定及び共産黨青年機關の「重要」さを單なる學生や其他一般の青年機關の役割に引下けてしまふことを避けなくてはならぬ。

労働者農民の又其他の革命的運動に参加して居る青年の廣大なる大衆を獲得する爲めに、又ナショナル・リフトオルミスト及似而非革命的傾向の影響から彼等を離脱せしめる爲め、殖民地に於ける青年共産黨リーグは、それ自身に關し、合法的機關の補助制度をも利用し、彼等を革命的綱要の上に基礎づけ、共産黨及青年コムニスト・リーグの指導を確立しなければならない。

青年共産黨リーグは、現存する諸組織内に於て、彼等を革命行動に導き、及び彼等の中に於ける勢力と指導とを獲得する如き方法に於て活動しなくてはならぬ。一切のこれ等の機關を利用し、青年労働者の大衆を革命的闘争に導くと共に、青年共産黨リーグの諸組織はその獨立性を失ひ或はその目前の任務を縮小してはならぬ。彼等の共産黨青年の特質の喪失と、革命的青年運動に對する指導の喪失の可能性とは、直面する非常な危険を物語るものである。

屢々補助諸機關を利用し、その中に展開し働きつゝ、一方青年共産黨リーグは、公然と青年労働者大衆の前に現はれ、大衆組織の最も好い分子を青年コムニスト・リーグの中に引導して目前自身の仕事を強大にしなければならぬ。



これ等の諸組織は、労働組合及農民組合の青年部、労働青年の協會、反軍閥同盟、運動協會、學生の地方的協會等々を含む。

共産黨インターナショナルの第六回大會は一切の殖民地に於ける共産黨の義務として、共産黨青年運動の建設とその展開に凡ゆる可能な援助を與へること、及び、青年労働者の利益に關する無智と、被搾取青年労働者の環境改善を要求する戰鬥参加の不熱心との中に示されて居るところの労働階級及労働組合内の錯誤及後退的見解に對して闘ふことを宣示した。

## (五)

殖民地諸國に於ける婦人及少年労働者の搾取は特に廣大なる範圍と野蠻なる形式とに於て爲されて居る。最も僅少なる賃銀、堪え難きまでに長い労働時間、又或る地方で行はれて居るところの、婦人及少年を殖民地に於ける奴隸的條件の下に働かせる爲めに購買すること、等々、又労働階級の住宅に於ける牢獄にも等しい生活、野蠻な残酷な取扱ひ——之等は即ち以上婦人及少年労働者に對する環境である。又同時に、一方ではプロレタリア婦人の間に、必要次第幾らでも出し得る財源をもつブルジョアデー、教會等の反動的活動が廣大に行はれて居る。然し殖民地の婦人労働者(絶望にまで陥つて居るところの)は漸次階級意識に目覺めつゝあり、又革命への進行に参加しつゝあり、又決然として而して大膽に、闘争しつゝある殖民地のプロレタリアートと結合しつゝある。要するに、之等は、支那婦人労働者の革命的諸事件(婦人労働者の大衆的ストライキ、婦人労働者の個人的な英雄的

行動、農民婦人の遊撃戦争への参加)に對する犠牲的な参加に於て明瞭に示されて居る。

殖民地及半殖民地に於ける共産黨は、これ等の層、特に婦人労働者を中心とする諸企業に於て、組織的に婦人を労働組合組織に誘導し、且つ共産黨に對し彼女等の最善を獲得する仕事に注意しなくてはならぬ。又敵の組織の勢力との闘争に於て、共産黨は或は口で、或は文で或は合法的非合法的運動やプロバガンダ等の一切の方法を婦人労働者の獲得の爲めに用ゐなくてはならぬ。

之等の一般的仕事と同時に、あらゆる殖民地の共産黨は、當該國に於ける特殊な社會經濟上の構造と政治上の環境から來る特別の任務をもつ。これ等の仕事の全結成を彼等の行動の確乎たる計畫の中に作り出すことに關する特別な各共産黨に對し、大會は次にこれ等目前の仕事の最も重要なものを示す。

## (六)

支那に於ては、革命今後の生長は、黨に對し、その目前の任務を、ブルジョア・デモクラシー革命の完成、及び帝國主義、地主、及びナショナル・ブルジョアデー——國民黨の勢力——の勢力の破壊への唯一の途として武装暴動を準備し、且之を行ふにありとして居る。

支那人の廣大なる大衆の間に革命的衝動が無いといふことによつて特質づけられて居る現在の環境下に於て、黨の一般的策略は大衆への働きかけでなくてはならぬ。反帝國主義運動の擴大、ストライキ闘争の或る程度の復活、不斷の農民の行動等々の條件の下に此の策略を押し進めることに就ては、黨は左のことを要求する。即ち、



「プロレタリアートを黨の基礎的スローガンのまはりに結合する爲めの全力的努力。革命的労働組合を強化化する爲めの目前の組織的活動。プロレタリアート及び農民大衆の間に於ける日常の經濟的政治的任務遂行に對する最大の注意。プロレタリアートに革命の豫備期間に於ける經驗を教示することに就ての激しい活動。」同時に、黨は大衆に對し、國民黨及軍閥の權力を破壊し、ソウエートの支配を確立することなしには、彼等の地位の急激な改善或は帝國主義支配の打倒、農民革命の任務の解決は、不可能であることを説明しなければならない。

然しながら、黨は、工場に於ける労働者と資本家間の、農村に於ける農民と地主間の、軍隊に於ける兵士と士官の間の凡ゆる大小の對抗を利用し、勞農兩者の最も廣大な大衆を動員する爲め、及びそれを獲得する爲め階級衝突を深刻にし激化せしめねばならぬ。又黨は、大衆の支配階級に對する一般的反抗を擴大する爲めに、現に各處の軍事占領を爲しつゝある國際帝國主義一切の暴行の發生、並びに激化せる反動の殘忍なる政策の一切を利用しなければならぬ。

大衆に對する此の闘争の成功は、環境の正確なる觀察に基づく戰術の採用に於て獲得した成功、並びに、黨内の極左派の錯誤と傾向（軍事投機とか個人的テラー等）及び自己辯明を國民會議召集とか、國民黨民衆運動の復活に對する要求に見出すが如き機會主義を消滅せしめることに於て獲得した成功の範圍によつて、著しい程度にまで決定されるであらう。同時に黨は、今日の殘忍なる階級テラーの環境に於て、黨を被壓迫大衆から孤立せしめる危険を擴大する如き強制的命令的手段を以て、大衆を説服し或は教育せんとする代用手段の指導下に於ける

一切の傾向を克服しなければならぬ。

内部に於ける黨の仕事の範圍に於て、黨は反動派に破壊された地方委員會の再建の爲め、黨の社會的組織を改善する爲め、及びさうすることに依つて、黨細胞の建設に對する特別の注意を、大工場、鐵道工場等に於ける重要部門に集注する爲め努力しなければならぬ。

支那の共產黨は、最大の注意を農村機關の社會的組織を設定することに拂はなければならぬ。これ等の諸機關を本質的にプロレタリアート、半プロレタリアート及農村に於ける貧民分子を以て構成する様に。

民主集權主義の實行。仕事の非合法的條件が認める限りに於ての、黨の內的デモクラシーの保證。諸問題の集合的討論と決定への移展。黨の規律を破り、無責任を増大し、黨の指導中心の權を破壊する様な或種諸機關に於ける都會の小ブルジョアの民主主義傾向との闘争。

黨員の理論方面に於ける教育、彼等の政治的レベルの向上に於ける任務の必要なる強大化。マルクシズム及びレニニズムの組織的な宣傳。支那革命の過去に於ける經驗と教訓の破究（武漢時代、廣東暴動等）。又ブルジョア地主の武器を代表する第三黨（譚平山、汪精衛等）に關する中國共產黨の仕事は、彼等に對する決定的な闘争、並びに、實際的反帝國主義運動と大衆運動の基礎の上に於ける、支配階級の代理としての此の種の民族的改良主義的行動に對する暴露に在る。

それによつて黨が大衆を獲得せねばならぬ根本的スローガンは左の如きものである。



- 一、帝國主義支配の打破。
- 二、外國企業及銀行の沒收。
- 三、民族自決權の承認による國家の統一。
- 四、軍閥及國民黨の勢力の破壊。
- 五、勞働者、農民及び兵士代表のソウエート權力の建設。
- 六、八時間勞働、賃銀増加、失業及び社會保險の援助。
- 七、大地主の全土地の沒收と、農民及び兵に對する土地の給與。
- 八、一切の政府、軍閥及地方の税金公課の廢止、單一累進所得税の實施。
- 九、ソウエートロシア及び世界プロレタリアート運動との聯合。

## 三

要するに、國民黨及政府の治下に於ける無産階級運動の現状は、階級闘争の一發展階段を經過することによつて、對立状態に入れるナシヨナルブルジョアデーと、中國共產黨との尖锐化する闘争の現状に外ならない。

國民黨は、自ら其の所謂「革命的」時代の政綱によつて勞農運動の組織と指導とを宣言して居るが、階級的に互に或る程度の絶對性を認識せる結果として、自ら産婆となつて造りあげた右派勞農の組合にすら、忽ち脅威を覺えて之を壓迫する現状であるから、此の方面の組織と發展性は、唯だ階級的指導が入り込んで行く限りに於てのみ認められ

て居る。そして之は現に、共國兩黨の激しい對立の間に、日一日と現實化しつつある。國民黨との直接關係外に於ける無産階級の他の指導勢力——例へば第五章中に述べるであらう如き右派組合——は今日國民黨の支持を背景とする限りに於て少からぬ反動的勢力をもつて居るが、組織と闘争の發展性を全然缺いて居る。之は然し、ナシヨナルブルジョアデーが更に一段の結成を成就した場合に於ては、有力なる勢力を現示する可能が豫期される。

## 第五章 勞働組合運動

### 第一節 序 論

## 一

中國のプロレタリア運動は、僅々十年に過ぎぬ其の歴史に於て、異常な發展を遂げた。今は一切が、アンダーグラウンドの行動に壓抑されて居るが、その過去に得たる非常なる組織と闘争の經驗、階級的な訓練と意識は、彼等今日の行動目標たるブルジョアデモクラシーの獲得、ソウエート政權の確立への方向に、急速な然かも堅實な進歩を示しつつある。國民革命の第一段發展過程に於て彼等は非常なる失敗をやつたと批判され、事實客觀的に觀て重大なる錯誤を行つて居る。だが彼等にとつて非常な利益であつたことは、此の期間が極めて短い間に經過したことであつた。没落階級たる農民——殊に中農以下を有力なる革命の同盟軍とする彼等の最も重要な工作に於て、ブ



ロレタリアートは現に過去の所有する失敗を償つて餘りある成功を見つゝある。

一方、小資産階級との聯合は、運動そのものがアンダーグラウンドに在る限りに於て具體的な發展を見ないが、此の階級中の重要部分を代表する青年インテリゲンチヤの獲得は、一層基礎的に行はれつゝある。

## 二

中國プロレタリア運動は、特に労働者の組織運動に於て、特殊な過程を以て展開して來た。即ち此の組織運動は自然發生的な組織運動の中から漸次に擴大し、發展し、進歩したものでなく、自然發生的な傾向の中に、突如として開始された一つの指導機關の指揮教導の下に發展したものである。随つてその進歩なり展開なりは、一般的發展過程に見らるゝ如き、各種指導精神の公式的な、對立や分化や妥協といった形式を通過せず、殖民地のプロレタリア運動を最も革命的に指揮するところの、そして勿論所謂分化の形式の場合、最も戰闘的な活躍を以て大衆を引きづつて行くところの左翼の理論と戰術との下に、經濟闘争より革命的政闘争への過程の中に行はれたのである。

その結果、プロレタリアートは、軍閥の專制と暴虐、封建的な不斷の内亂、帝國主義の段階に於ける外國資本の侵略と搾取等々の與へられたる客觀的環境の下に、最も革命的な組織と意識とを獲得して行き、妥協的な、穩健色彩をもつ組織なり機關の對立的な存在を、事實或る限られた程度以上に許さなかつた。勿論後者との對立は漸次激化しつゝあるが、此の對立は、寧ろ、組織内部の對立としてではなく、ブルジョアデーの陣營、フラスシストの陣營との直接の對立として發展しつゝあるもので、随つて、此の種組合の對立に表はれた異なる指導精神の闘争は、

プロレタリア階級と、これに對する現支配階級、即ち政權を把握する國民黨なる民族資産階級との對立の形に於て爲されて居る。かゝる對立の特殊状態は、中國プロレタリア運動を、現に最も明瞭に示されて居る如く、益々徹底的な階級的、革命的方向に、即ち「政權の獲得」といふ直接の行動に導きつゝある。

## 三

プロレタリア運動の指導精神に就いて、現存の系統を強いて云ふならば、第三インターナショナル系統と、第二インターナショナル系統と、サンヂカリズムを奉ずる系統とに區別し得るが、今日では、サンヂカリズムを奉ずる者の勢力は實際運動の上に全然影響をもたず、關係をもたない。第二インターナショナル系統のもの——勿論直接その指揮を受けて居るといふ意味ではなく、大體の思想的傾向から分類したに過ぎない——は、元來が自然發生的な運動の分化の上に存在したものでなく、随つて組織の上に何等根強い根據をもつて居らず、且つ實際戰爭の上に殖民地のプロレタリアートを單なる經濟闘争の外に發展せしめる指導能力をもたなかつた。そこでプロレタリア大衆は彼等自身の發展と共に急激に此の派から離脱し去つた。今日、此の派を代表する運動は、事實上、今日の政權階級直屬の關係としてのみ存在して居るに過ぎない。國際聯盟のアルベルト・トーマ氏が中國を訪問した時、彼は労働者の組織を、國民黨政府當局に就いて聞き、國民黨政府當局によつて、労働組合の名の下に歓迎を受けたが如き、以上の状態から見れば即ち何等の不思議もないのである。此の間に於て、獨り第三インターナショナルに屬するものゝ指導は、殖民地プロレタリア大衆を獲得する必然的に有利な立場をもつて居た。彼等は最も革命的な、即



ち非妥協的な理論と戦術とをもつて、プロレタリアートの組織から開始し、彼等の経済闘争を政治闘争に展開し、彼等の戦線を、全国人口の八〇%を占むる農民大衆との協同に擴大し、更に、此の協同戦線の政治的目標を、國民革命に向け、小資産階級との合作による反帝國主義、反軍閥の革命軍事行動を開始し、然かも此の間に、彼等自身の組織を急激に擴大し、彼等自身の戦闘力を驚くべき程度にまで増大したのである。勿論、彼等は、客觀的に觀て最近の發展過程に於て重大なる過失を行つたと認められる。然し彼等の戦闘的な指導と、その理論は、プロレタリアートを代表する唯一のものとしての立場を大衆中に充分に獲得した。そしてこれを基礎として、今や過去の經驗と教訓との結晶を運轉せんとして居るのである。

## 四

かくて中國労働組合運動は、第三インターナショナル指導の下に、プロレタリアの組織運動として此の十年來發展して來たものである。そして組合運動の歴史は、中國無産階級の革命的闘争を代表して、初期經濟闘争以來の發展を遂げて來たものである。

吾人はプロレタリア運動としての一般的なもの、即ち、プロレタリア運動の國民革命過程に於ける從來の闘争過程は、大體第三、第四章に於て述べて居る。そこで本章では、労働組合運動そのものを中心とし、而してこれを中心とする限りに於て、必要な一般的運動を記述する。

## 五

本章中國労働組合運動に就いては、大體左に掲げた事實を基礎として之を記述したい。

- 一、中國は封建官僚、地主軍閥と、外國資本との極端な搾取と壓迫の下にある。
- 二、殖民地的環境から自己を解放せんとする必然的な行動、國民革命の過程に於て、今やナショナルブルジョアジスト、プロレタリアートとは對立状態の下に闘つて居る。
- 三、中國人口の八十%は農民であり、中國の近代産業は、上海、廣東、武漢、天津其他少數の都會に限られ、一千數百萬の労働者は、手工業労働者として全國に散在して居る。然かも僅かに限られた都會地の産業工場は大部分直接間接外國資本の統治下にある。
- 四、組合運動は最初から階級的革命的な左翼指導精神に導かれて發展して來て居る。随つて中國の組合運動は、自然發展に於ける公式的過程を経ず、其の右翼との對立は、明かに宣言されたファシスト政權との對立の形に於て現はれて居る。
- 五、代表的な組合組織はプロヒンテルンの明かなるメンバーの下に爲され、過去に於ける發展の過程は前後四回に亘る全國労働組合大會の歴史の上に系統的に物語られて居る。

## 六

組織運動並びにその經濟的及政治的闘争を、その發展の順序によつて都合よく開催された労働大會を基準として述べるならば、



一、第一回大會までは、組合組織の初期を示し、此の間、指導は完全に未だ経験と教練とを充分にもたないインテリゲンチヤの下に行はれ、運動は全體として半公開の状態にあつた。そして、歐戦後の世界的な現象として中國にも盛んに行はれた經濟闘争の間に、指導者も労働者も自己の経験をその間に學びつゝあつた。

二、第二回大會までは、一面に於て第一期時代の延長であると同時に、他面に於ては、労働者の或る程度 of 發展が必然的に齎らした新運動の開始であつた。此の運動は經濟闘争から政治闘争への具體的な轉移であつて、此の運動の間にプロレタリアートは必然的に「國民革命」への展開を爲しつゝあつた。此の期の運動の開始に區劃をつけたのは一九二三年の京漢鐵道の罷工であつた。

三、第三回大會までは、國民革命運動へのプロレタリアの進出期であつて、労働者の政治闘争が最も有力に行はれその組織とその闘争力とが最も急激に發展しつゝあつた。此の期の活動を代表するものが即ち五卅運動である。

四、第四回大會までは、その前期に於ては、労働者が具體的に小資産階級及農民大衆と聯合して「國民革命」の戰爭を開始し、此の戰爭の過程に於て最も革命的な組織と經驗とを獲得しつゝあつた。そしてその後半期に於て、彼等の組織發展の一定限度が、聯合戦線の持續を必然的に破壊し、ナショナルブルジョアチーは明かに對立する階級として現はれた。此の期の中心は、北伐軍の長江進出と、武漢政府と南京政府との對立である。

五、第四回大會以後は、即ちナショナルブルジョアチーとの協同時代の後を示すものであつて、殖民地ブルジョアチーのファスシスト化と、殘存する封建勢力との間に、プロレタリアートは、その階級的獨立性を恢復し、直接

政權獲得を宣言して新進出を開始した。此の期に於ける代表的なものは兩湖農民暴動、廣東ソウエート建設並に第六次第三國際大會である。

そこで本章は既述五項の基礎と前記五個の區劃とに基づいて本論に入ることとする。

## 第二節 第一回労働大會まで

### 第一項 大會の集召

近代的労働運動は、中國共產黨の組織後、直ちに開始された。當時此の運動を指揮する人々には、然し、何等の經驗と訓練とがなく、加ふるに適當なるリーダーの數に於て極端なる不足が感じられて居た。少數の青年インテリゲンチヤ——主として北京大學々生であつて、當時のこの人々の多くは今日中國無産革命運動の最高リーダーとして活動して居る——は此の少數なるリーダーを代表して労働運動の第一線に動員された。随つて當時は歐洲戦後に於ける世界的な現象として頻繁に起つた労働者の經濟闘争の高調期にあつたに拘はらず、全體の運動に何等の組織がなかつた。

此の傾向は獨り組合の組織運動に於てのみならず、その他のプロレタリアの政治的活動に於ても同様であつた。要するに此の時代に於ける重要性は闘士の養成と、労働者間に於ける戦闘の經驗とであつた。随つて客觀的には、組



合内部の不整頓、無組織、經濟闘争に於ける無計畫と無成算、指導系統の錯雜等々凡ゆる缺點が現はれて居たに拘らず、社會主義青年團——後の共產主義青年團——の組織、中國共產黨の内部組織の改善、組合運動の統一化組織化等々の重要な工作は、實際闘争の間に急激に展開しつゝあつた。

組合運動が具體的に着手されたのは、但し、一九一九年のことであつて、先づ京漢鐵道と、唐山一帶の炭礦に於て爲された。此の年、京奉線唐山南廠の労働者は既に職工同人會を組織し、五四運動に参加し、一九二一年春には労働組合としての組織を獲得し、京奉線唐山工會と共に、全線の組織及び開灤炭礦組織運動の中心を形成して居た。又同じく一九一九年には京漢線長辛店に於て、十人團なる組織が生れ、一九二一年には長辛店職工學校が設立され更に秋には長辛店工人俱樂部といふ労働組合の組織が達成せられ、一九二二年春には全線十六箇の俱樂部完成し、八月鄭州に於て京織漢線總工會組織準備委員會が成立したのである。

之等の運動は、一九二〇年春正式に成立した中國労働組合書記部——後第二回全國労働大會に於て成立した中華全國總工會に指導を譲つたところの——によつて指導されて居た。

運動は専ら北方に於て、殊に全國的性質を重視して鐵道と鑛山とに中心を置いて居たが、然し此の頃に於ける指導方針は極めて初期的なもので、大體一九二一年一月の「先驅」に掲げられた陳獨秀の左の如き訓令の範圍を出て居ない。即ち、

「現在世界に於ける中國の政治經濟狀態は、既に吾人——現状に不満足な、そして環境に盲従しない——をして勞

働運動に従事しなくては駄目だと自覺さして居る。此の意義の下に労働運動を爲す人々に、其の須知事項として左記の數項を示す。

「一、工場、鑛山、交通、此三種の労働者は無産階級の中堅として資産階級と闘ふものである。無産階級が此中堅を失ふならば資産階級に對する戰鬥力は消滅する。

二、現在労働運動に従事して居る人々は、必ずしも凡てが労働者ではない。此の現象は、いづれの國でも労働運動の幼稚な時代には當然にかくあるものだから、吾人は此の事實を否認しない。然し此の種の人々は自分が労働者でなく、労働者を援けて居る者であることを忘れてはならない。殊に注意すべきは、非労働者を集めて労働團體を組織し、労働團體の名を冒してはならぬ事である。

三、労働運動者は、その組織に當り、左の三種の範圍に於て爲すべきである。

(イ) 黨派的組織

(ロ) 職業或は産業別的組織

(ハ) 地方的組織

此中、(イ) は階級闘争に最も適するものであるが、運動幼稚の時代には出來難いのみならず、強いて組織しても、實力が伴はない時は空看板に終つてしまう。(ロ)(ハ) は比較的容易である。然し、一地方の聯合に全國とか全省とかいふ名を冠してはならぬ。又地方聯合會は必ず團體の聯合であつて個人の聯合であつてはなら



ぬ。

四、労働運動の最終の目的は、勿論労働者の世界を造るにある。然しそれに至る實力を有しない間は、實力相當の戦術によつて行動することを忘れてはならぬ。労働者が自身で政府を建設し得る實力を備へるまでは、封建的政府に反抗する一切の他階級の革命黨派を援助して成功せよ、労働者は尠くも、集會、結社、出版、罷工の自由を得られやう。此の種自由は労働運動の重要な基礎である。そこで、それ等の自由獲得の爲め、封建的現政府の下に於てする普選、集會、結社、出版、罷工等を束縛する法律の廢止には懸命に働かなくてはならぬ。

五、労働者が他の黨派に對して採るべき態度は、

(一) キリスト教は靈魂昇天で労働者を騙し、一生資本家の牛馬に甘んぜんことを求めるものであるから反對する。

(二) 反革命的頑固黨は元來労働者が嫌ひである。彼等が接近する時は労働者を利用する場合に限られて居るから反對する。

(三) 非革命的社會黨例へばキリスト教社會主義等は表面労働者の權利を主張するが、實際は資本主義制度の生命を延長させるものであるから反對する。

(四) 無政府主義者は革命的であるが、個人又は小團體の自由を過重視し、中央集權及び強制執行に反對する

隨つて組織にも革命にも適しないから之に反對する。

六、八時間労働制と日曜休息制は労働運動中の重要條件である。此問題が解決されなければ、一切の教育、衛生集會等の問題は端緒を得ない。蓋し、時間と精力との關係で、教育、衛生、集會問題を具體化する機會が得られないからである。

七、罷工は労働者の唯一の武器である。だが、罷工實行の時は、必ず資本家の企業状態及び労働市場の供給状態を審明し、罷工失敗による労働運動の大打撃を避けなくてはならぬ。」

封建勢力との闘争に於てブルジョアヂーを援助し協同に進展する結果として、労働階級が、新しい支配者の下に論功行賞として政治的自由を獲得し得る如く考へて居た前述陳獨秀の當時の思想的程度は、同時に、當時に於ける一般的闘士のそれであつた。かゝる思想は、熱烈なる當時の實際闘争の間に貴重なる展開をして行つたのである。要するに、初期的な指導と人材の不足にも拘はらず、労働運動は、歴史的な進展を遂げつゝあつたのである。不充分なる訓練と經驗との間にその運動を開始した労働運動の指導者は、その運動の進行につれて、指導方針の混亂不統一、各地工作の分散と相互の無聯絡、異なる指導力に對する不明確なる意識、労働者の實狀に對する明瞭なる考察の缺如等々の不整頓を痛切に感じた。そこで第一の急務として一應全國に於ける労働團體の代表會議を召集し、運動の統一と、方針政策の確立と、中央機關の具體的設定とを行ふことを決定し、一九二二年四月十日、組合書記部本部(上海)は、左の通知を全國労働團體に發した。



「最近、各處組合から、五一記念を期し、適當の地點で全國労働大會を召集し、盛大に記念日を祝すると共に、全國労働者を聯絡すべしとの要求を頻りに受取る。本書記部も此の擧の必要を認めるので、特に左の目的と方法を宣示する。各團體より代表一名宛を派せられたい。尙その際各團體の證明書を代表に與へられたい。

## 一、開會の目的

## A 五一記念日の表祝

## B 全國労働者感情の融合聯絡

## C 生活問題改良の討論

## D 各代表提案の討論

## 二 代表は一團體一名

## 三 時期は、五月一日より五日間

## 四 地點は廣東

## 五 旅費は、各團體自辨、但滞在費は書記部に於て負擔する」

だが此大會は、完全なる一個指導勢力下に於ける組合の全國代表大會ではなく、労働組合書記部主催の下に召集された全國各派の組合會議であつた。随つて五日間の討論も、第二回大會以後に於けるが如く整然たる順序と統一全然なく、寧ろ對立する各派——特にマルクス主義派と工團主義派との激烈な争を以て終始した。(註一)大會には工團

主義を代表する湖南系の人々例へば譚小岑の如きが出席し、組合統一の指揮權がマルクス主義系に歸屬することに極力反對した。激論の結果、彼等は、所謂組合會議から離脱した。そこで此の全國大會は、事實上最後に至つて各派聯合會議からマルクス系組合の全國大會の形式に變化した。そして此の變化に於て、彼等は (一) 労働組合書記部の指導精神を一般に宣明し (二) 工團主義指導者との關係離脱により、自己組合の團結と統一を促進し (三) 組織と闘争の方針に關する一定の根本政策を討議決定し (四) 全國的中央機關の建設に向つて具體的な發展を開始し得る結果を得た。

此の大會に於ける準備は上述の事情により充分なる形を備へて居なかつた。随つて後半に於て良好なる傾向を示したに拘はらず、此の大會に於て決定的な根本戦術と組織とを具體化することが出來ず、只最短期間に再び全國大會を召集し、全國的中央機關の設立を爲す一切の工作を、組合書記部に依囑したに過ぎない。然し之は甚だ重要な結果であつた。此大會の後、指導者は只管此の要求に向つて直進し、一九二三年以後の目覺しい働きを示したのである。大會によつて得たる重なる成績としては此の外、左の如き今後の工作方針の議決がある。即ち、

## 一、出版、言論、集會、結社、罷工の自由等政治的權利要求に關する運動

## 二、労働組合法、労働保護法、工場法制定の要求

## 三、八時間労働、婦人少年労働者保護法の制定に關する要求

## 四、地方組合運動に於ける實際工作と帮觀念の除去に關する方針 (註二)



尙、今一つの重要事項は、此大會の最終に於て、全會一致、赤色労働組合インターナショナル参加を決議したことである。此の大會は、元來が、中國共產黨指揮下に開催され、第一回中國社會主義青年團全國大會と同時に同じ地点で開催され、徹頭徹尾、共產黨指導下の労働組合組織が眼目となつて居た。随つて此の決議は自然的なものであつた。然し組合の全國的組織が未だ準備されて居なかつた爲、此の決議が正式に實行されたのは、これより三年の後、即ち第二回全國大會が召集された時である。

### 第二項 當時の組織状態

組合書記部が労働組合組織の工作を開始してから第一回全國大會を召集するに至る僅かの期間中に、中國の組合組織は非常に發展した。それは一つは當時の運動が全國的に大した壓迫を受けず、殆んど公開的に行はれてゐたこと、一つは労働者日常の極端なる生活苦が、戦後の世界的風潮の刺戟により急激な經濟闘争の形となつて續發したことが、共に重大なる理由となつて居る。然し前にも述べた如く、指導の不統一とその戰術の不確立、労働者大衆中に於ける活動の非常なる不足等により、其の發展は、單なるその後の準備基礎を意味する以上の何者でもなかつた。今當時に於ける全國組織の大勢を觀るに、

(一) 北方 開灤炭礦、唐山諸工場の組織は非常に進展して居り、殊に鐵道工人組織は、全國的産業別組合組織の第一聲を擧げる氣勢の下に各線共に準備されつゝあつた。京漢線では事實上全線労働者の統一が成つて居た。然

しその他の産業工場には殆んど手がついて居なかつた。

(二) 揚子江沿岸 當時の武漢は重要な時代運動の中心地であり、京漢、粵漢兩路工會組織の基點でもあつた。職業的小組合、例へば武漢機器總會とか揚子機器廠工會とかいつたものは無數に成立して居たが、サンヂカリズムの系統其他の他種指導勢力が錯雜して居た。湖南では華實紡績罷業前は總司令趙恒惕の自由政策の御蔭で一般の運動は公開的に行はれ、組織運動も擴大して居たが、準備時代を脱せず、指導勢力の錯雜といふ點に至つては湖北に於けると同じ状態を示して居た。上海ではマルクス派組合の勢力は壓倒的であつたが、護軍使何豐林の壓迫下にあつた爲他の地方より種々な點に於て困難多く、組合も大部分は狹隘なる職業別的のそれであつて、大産業工場は未だ組織されて居なかつた。指導勢力も至つてまち／＼であつた。蕪湖、南京、杭州、蘇州一帶の工場も大體一樣な形勢下にあり、充分な團體の力量を統一した組織は確立して居なかつた。

(三) 廣東香港地方 最も早く組織運動の發達した地方であるが、全體として大産業の組織なく大部分は手工業工人及び小工場工人の組織で、指導勢力は此の間に對立状態を示して居た。海員工會も此の當時に於ては充分に組織されて居らず、明確なる色彩をも持たなかつた。

即ち、全體として見れば、大工場の組織なく、産業別の組織もなく、地方合同の組織もなく、僅かに工業都會地の手工業工人と、工場労働者間の職業別的小組織が無數に散在し、此の間に各派の指導勢力が錯雜して居たわけである。だが、之等の組織の大部分が、大なり小なり經濟闘争の經驗を得て居たことは、第一回大會後に於ける有力な



る發展の基礎を爲すものであつた。

第三項 當時の勞働條件

中國の勞働者は、今日でもさうである如く、自己の生活改善否その維持の上に、法律上の保證を全然もつて居ない。彼等は只使用者の意のままに取扱はれて居る。随つてその一般勞働狀態は極端に劣悪である。彼等は自己の生活を維持する爲の活路として「鬭争」があるのみだつたのである。左に掲げる第一表は、農商部の各地勞働狀況報告から、又第二表は、揚子江北支一帶の勞働狀態に關する各地勞働運動者の報告（新青年第七卷第六號及第八卷第一號）から摘出したもので、兩表共に一九一九年より一九二一年に亘る間の實狀を示すものである。

第一表 各地工業勞働者及苦力平均賃銀（一九一九年頃單位は仙）

業種	最高	中	最低	各地					
				京兆	直隸	河南	江蘇	山東	浙江
織	最高	中	最低	三八・七	四〇・〇	三三・〇	五一・〇	三六・〇	四五・〇
布	最高	中	最低	二七・七	二五・七	二六・〇	三九・〇	三〇・〇	三一・〇
雜	最高	中	最低	一八・〇	一六・三	二四・〇	二五・〇	二六・〇	二一・〇
工	最高	中	最低	四〇・三	四一・〇	三五・〇	五四・〇	三四・〇	三七・〇
業	最高	中	最低	三一・〇	三七・〇	二九・〇	三八・〇	二八・〇	二九・〇
力	最高	中	最低	二二・〇	一八・四	二四・〇	二四・〇	二三・〇	二二・〇

苦力	最高	中	最低	各地					
				燕	湖	武	昌	南	京
苦	最高	中	最低	三〇・〇	三二・〇	三〇・〇	四八・〇	二七・〇	四八・〇
力	最高	中	最低	二〇・〇	一三・〇	二一・〇	三〇・〇	二一・〇	三四・〇
力	最高	中	最低	一〇・〇	一四・〇	一七・〇	一七・〇	一七・〇	二一・〇

第二表 各地勞働狀況調査（一九二〇—二二年）

業種	時間	最低賃銀	最高賃銀	備	各地	
					武	昌
織	二二	五・五	九・〇	勞働者五千の内四割は月約六元	南	京
紡	二二	五・五	八・五	勞働者三千五百の内三割五分は之亦月六元前後	南	京
造	一一	七・〇	一六・〇		南	京

機	印	鐵
械*	刷*	鑪*
八	一〇	一〇
九	七	八
一五	一五	二二
普通組版高拂		



炭	鑛*	一〇	八	二
便	夫*	一〇	八	二
織	布*	一〇	八	二
絹	緞*	一一	六	二〇
雜	役*	一一	五	八
印	刷*	一〇	七	二〇
電	燈*	九	八	一五
水	道*	一〇	八	一二
開	溲普通職工	一〇	一五	二五
同	坑外礦夫	一一	一	二五
同	坑内礦夫	八	一	二五

(三) 北京  
(四) 唐山

全體で二千五百  
同八百五十  
同三百八十

皆出来高拂にて一條二十五—八文見當、従業員約三千五百  
皆出来高拂、花入り一匹四元無地三元普通一週間を要す。機  
械織工は最高四〇仙、一般女工平均一日の出来高二十仙位で  
此種労働者約六萬

唐山炭礦夫	八	一五	二五
トロッコ押	八	一五	二五
唐山製造所	九	一六〇	二四
機關車機械工	九	一六〇	二四
同組立工	九	一五〇	二四
同鍛鐵工	九	一五〇	二四
同客車機械工	九	一五〇	二四
同木工	九	一〇〇	二四
紡績粗紡	二	四七	三三
同精紡	二	三三	二二
同總場	二	四〇	三三
同荷造	二	三七	三五
同織布	一三	三〇	三〇

上海の紡績會社は當時、三十六工場錠數百〇八萬、工人八萬  
六千、總て包工制で、工頭は男二〇元より三〇元、女一五元  
より二〇元

賃銀少い爲二度作業即ち十六時間働くもの多し

織布女工は出来高拂で一疋一五仙



印刷	九一二二	一〇	三〇
紙折、製本	一〇一一二	五	八
巻タバコ	一〇	三五	五〇
マッ	一〇	二〇	三〇
埠頭苦力	一〇一四	二〇	三二

男女年齢別にして見ると、

本表中\*印は月給である。然し兩表の最高賃銀を得る者は極めて少い。當時の上海各紡績工場の標準賃銀を

女工の多くは出来高拂  
製薬工の日給比較的高し、箱は千に付十仙、普通一日千  
個が最大能力  
埠頭二十二、苦力約三萬、普通荷物は多くて一個銅貨二文

十歳以下	男 一〇	女 一〇	全員對する比率 二%
十五歳以下	男 二〇	女 一七	一六%
二十歳以下	男 二五	女 二〇	二〇%
二十歳以上	男 三〇	女 三三	六二%

となるが此の數字は外國人經營のものにも適用され得る。例へば日華紡績の當時の状態を擧ぐるならば、左の通りである。

梳棉	二〇一八
粗紡	一八一八

精紡	一六一四
幼工	一〇

註一 工團主義運動とは、アナルコサンヂカリズムの思想を受け継いだ中國の運動であつて、一九一七八年頃より特にその勢力は青年インテリゲンチヤの間に傳波した。地方的には湖南に於て甚だ有力であつた。湖南勞工會は即ちその中心機關であつて、一九二三年一月十七日事件の犠牲者黃麗等も此の系の闘士であつた。湖南の此の派の勢力は然し第一回全國大會後、漸次、マルクス系に逐はれ、最後の分子は、華實紡績罷工後趙恒惕が此種機關の壓迫を開始すると共に、上海に移つた。

又當時、上海に參戰華工團の組織があり、一部此の派の傾向をもつて居たが、それは實際上何等の役割を演じて居らず、彼等は只戰時中及戰後佛蘭西國境方面で勞働して居た各種勞働者の散漫なる一團體であつて、産業的にも職業的にも労働組合としての實質をもつて居なかつた。一方、同じ佛蘭西歸りの者の團體に「勤工儉學生」(所謂苦學生)團の一部がある。之は休戦後、吳稚暉が主となつて佛國へ送つた苦學生が、先方に到着した後、勞働のみで勉學が不可能なのを知つて歸國した後の組織である。此派の人々は一部は先方で共產黨を組織して逐はれたのも少くないが、同時にサンヂカリズムの信奉者として歸國し實際工作に参加し出したものも少くない。

註二 帮は (一)所謂青帮紅帮と稱する土匪其他社會の裏面に行動する徒の秘密結社 (二)手工業者のギルド (三)産業及自由労働者の地方的團結組織等であつて、いづれも舊い歴史を持つて居る。

此中(一)、(三)は香港、上海等の各地産業都市では漸次崩壞の傾向を示しつゝあるが、然し手工業労働者間の此種制度は全體として殆んど變化を見ない。一九二一—三年の香港海員罷業で、寧波幫は「罷業は廣東幫のことだ」として平氣で罷業破りを演じたが、かゝる事例は鑛山労働者等に於て少くない。(一)は最近労働運動に對する破壊的暴力團として屢々利用され、一九二七年三月以後、數多の虐殺等を犯しつゝある。



### 第三節 第二回労働大會まで

#### 第一項 總 說

第一回大會から第二回大會に至る三箇年間に、労働運動は非常に發展した。そして此の間の前半に於ては、全国的に續發した經濟闘争の間に組織を擴大し經驗と訓練とを收め、此の間の後半に於ては、アンダーグラウンドの運動の經驗と、下層組織の鞏固とを獲得し、五卅運動と共に現出した所謂中國第一期革命高潮期の活動の基礎を定めたのである。此の三箇年の運動をかくの如く前半と後半とに區分したものは、一九二三年二月の京漢鐵道罷工である。

京漢線罷工前の運動状態は、大體に於て、第一回大會前のその延長であり、實際闘争の間に必要な經驗と闘士とを獲得しつゝあつた時代である。

但し、大會前の時期に於ける經驗と教訓とを以て、以前の自然發生的闘争を、今度は計畫的な指導下の闘争に展開した所に非常な差異を見る。又その闘争が分散せる小工場から重要な大産業工場に擴大した所に非常な發展があり、且つその結果として、闘争が單なる經濟闘争から政治闘争へと發展した所に特別の重要な發展を見るのである。

此の闘争の「政治闘争への發展」こそ、即ち中國労働運動が既に第一期時代を經過したことを示すものである。そ

の具體的結果を齎したものは、指導者の計畫的行動を基礎として展開した重要産業に於ける實際闘争——即ち一九二二年に於ける唐山の罷業、海員罷業、最後には例の京漢線罷業である。之等の闘争は、全國労働者に對し、

- (一) 軍閥及帝國主義の存在と中國労働者の解放とは絶対に兩立しない。
- (二) 經濟的闘争目前の要求も政治闘争の發展なくしては決して達し得られない。
- (三) そして彼等の闘争は、鞏固なる階級的組織と、整然たる指導の下に労働者が一致團結しなくては發展し得ない
- (四) 更に、帝國主義と軍閥との壓迫に反抗して、此の闘争を一層有力に展開し勝利を得る爲めには、一切の被壓迫民衆と國民革命運動の上に密接なる聯合を形成し、然かも此の運動の中に自ら指導的立場を支持しなくてはならぬ。

ことを徹底的に教へたのである。これ等の闘争は凡て、(一)軍閥帝國主義の極端なる彈壓、(二)國民革命の共同戦線の未成立、(三)労働者の組織の未熟、微弱、統一機關の未存在、指導者の經驗不足、(四)大衆中に於ける工作の不充分等々により殆んど全く失敗に歸したが、此の失敗の中に二七事件後に於ける大々的組織の發展が見られる。

#### 第二項 組織運動

一九二二年の夏以來頻發した大小罷工の間に、上海其他各地大都市の組織運動は非常に發展し、一九二四年には廣東のみで約二百五十、上海のみで約二百の組合を見た。之等は大部分手工業、又は小工場労働者の職業別的組織



であつて、充分な闘争意識と争闘力とを備へたものではなかつた。大部分は舊式なギルドの遺物として破棄さるべきものであつた。當時の指揮者は、之れ等分散せる労働者の力量を、有力なる職業別、若しくは、近代工業にあつては、産業別的組織に統一する爲めに奮闘した。之れが爲め彼等は最初の計畫たる鐵道、鑛山、海員の全国的組織運動を一層積極的に繼續した。左にその重なる活動を述べて見よう。

#### 第一款 全國鐵道の組織

労働組合書記部が最初から従事した産業別組合組織であつて、第一期組合運動の全精力が集中されたところのものである。此の運動は唐山と長辛店が其の發生地である。一九一九年には唐山南廠の工人は既に職工同人會を組織し、五四運動の参加等の活動を示して居たが、一九二一年春に至つて確乎たる労働組合の形式を建設し、翌年十月の山海關工場の罷工及唐山工場の罷工に偉大なる實力を示した。一方長辛店では、同じ一九一九年、五四運動の頃工人間に十人團なる組織が出来、全線運動の中心となつた。一九二一年一月には長辛店職工學校が書記部によつて設立せられ、同年秋には長辛店工人俱樂部が生れ、翌年三月には全線に亘る十六箇の俱樂部が完成された。そして各俱樂部は四月長辛店に代表會議を開き、總工會組織を協議し、八月鄭州で第二回の集合を行ひ、總工會組織準備委員會を組織した。之れで京漢線の統一組織計畫は事實上出来上つたのである。同時に其他の鐵道の組織も有望に展開しつゝあつた。即ち、

京奉線では、山海關以東は事實上奉天軍の壓迫の爲め進行しなかつたが、以西は有力に組織され、殊に唐山及山海

關の工場は最も戰闘的で、該地方炭山の組織の先導となつて居た。

京綏線では、車務、機務、工場と職業別に組織されて居たが、純労働者の車務工會が中心となつて、その統一に努力しつゝあつた。

津浦線では、切り崩しの巧妙の爲め全線中最も戰闘力を缺いで居たが、一九二二年春來濟南を中心とする戰闘的な組織が進行しつゝあつた。

正太及瀧海線では、前者は一九二二年春全線を三段に分つ組織を完成し、石家莊に總工會をもつて居た。又後者は

一九二一年末に於ける待遇改善の罷工以來組織は殊に鞏固となり、兩線共に、京漢線の組織と並進しつゝあつた。

株萍線では、一九二一年秋、路鑛工人學校の組織あり、翌年春には安源路工人俱樂部生れ、同年九月の罷業後、一層實力を擴大した。

粵漢線では、一九二二年春長沙に工人俱樂部成立し、同年九月の罷工後、總工會を組織した。

かゝる全國の状況下に、京漢線では一九二三年一月鄭州に第三回會合を開き、二月一日同地に總工會成立大會を開くに決し、全國友誼團體にそれ／＼招待を發した。書記部の計畫は、京漢線總工會の組織と共に、全國鐵道總工會を組織し、之を全國總工會組織の基礎とするにあつた。然るに此の成立大會は直隸軍閥の大暴壓に遭ひ二七の慘案を現出し、遂に約一年半に亘る第一回反動時代の出現となり、一切の労働運動の破壊と停頓とを來したのである。

二七事件以後の彈壓は事實鐵道工人の組織に非常な打撃を與へた。即ちその後の状態は京綏線が車務工人によつ



て千餘の勢力を保持したのと、株萍路の現状維持と、二七事件後生れた膠濟鐵道組織が千五百餘の組合員を保持して居たのとを除けば、その他は皆悲惨な状態で、京漢線の如きは數人乃至四五十人の秘密結社で僅かに主要驛の組織を維持し、津浦線の如きは全線に五十人足らずの秘密結社員を有して居たに過ぎない。

だが此の事件は、組合運動の上に非常な経験を與へ、一般労働者の階級意識を非常に刺戟した。一九二四年の二七紀念日に、組合書記部は、秘かに北京で第一回全國鐵道代表者會議を開き、列席の京漢、京奉、京綏、津浦、粵漢、膠濟、正太、隴海、株萍の九路代表によつて全國鐵路總工會の成立を宣し、之れを基礎とする新しい活動を開始した。かくて生れた全國鐵路總工會は、全國に於ける産業別的組合の最初のものである。又最も戰闘的なものであつた。鐵路總工會はその成立の年の六月、香港で開かれた太平洋運輸労働會議に参加し、

(一) 各國運輸労働者の組織を充分に發展し、既に組織されたものには、之に切實なる整頓を加へて力量を充實し、東方に於ける資本主義反抗の主力とする。

(二) 各國現在の鐵道、郵便、電話、電車、電信等の運輸労働組合の一大合同を完成せしめ、その綜合下に支部任務を計畫し、政治及經濟闘争を爲す。

(三) 太平洋運輸労働者は鞏固なる一大組織を設けると共に、世界の革命労働者と聯合する。等の重要決議を爲し、更に八月には、ハンブルグで開かれた第四回國際運輸會議に代表を派し、次で第四回の赤色労働組合インターナショナル大會に代表を送り、正式に之に加入した。

一九二四年秋、直隸軍閥失脚し、第一回反動時代が一先づ終るや、鐵路總工會本部は直ちに鄭州に移り、そして反動時代に切り崩され、破壊された各鐵道の組合の恢復と、新組織と及びそれ等の完全なる統一とに全力を盡し、翌年の第二回二七紀念日には第二回全國鐵路代表大會を鄭州に召集し、決定的な組合の組織、任務、目前工作の目標と戰術とを宣言し、名實共に備はる全國鐵路總工會の基礎を定めたのである。

#### 第二款 上海工團聯合會の成立

マルクス主義派の指導は既に最初から壓倒的ではあつたが、然し之に對立せんとする他の組合運動者の努力も此の頃に於て甚だ烈しかつた。此の運動の中心となつたものは、サンチカリズムを奉ずる湖南勞工會の分子を中心とするものであつた。彼等は華實紡績の罷工後、趙恒惕に逐はれて、組織を上海に移し、此の地に於てその活動を繼續した。然し指導者の無政府主義的傾向は漸次崩壊し、此の頃では所謂經驗的現實主義に基づく「組合主義」が、事實此の派の指導精神となつて居た。そして此の派には、感情其他の原因により共產黨派から分離したものの、國民黨中の一部知識分子で自らマルクシストを以て任ずる者等が参加した。殊に國民黨の右派指導者は有力なる援助をした。例へば馮自由、邵元冲、馬超俊等の如き、即ちそれである。

かくて一九二三年十月、上海絲紗女工協會、上海船務棧房工會、上海紡織工會、南洋煙草職工同志會等を基本組合とする地方總聯合の準備に着手し、翌年三月十八日、上海工團聯合會成立大會を開いた。此工團聯合會成立の當時は二十四組合であつたが一九二五年五月には三十七組合をもつて居た。中心人物は張志餘、徐錫麟、王光輝、湛



少等であつた。

だが此の派は全国的組織の基礎をもたなかつた。上海の一地方に僅か三十餘の地方組合聯合を保持したに過ぎない許りでなく、その活動が全體として政治闘争をサポートし、單なる組合主義の經濟闘争によつて労働者の地位を改善しようといふのに在つた爲め、軍閥帝國主義の彈壓下にある殖民地労働者の闘争を導き、彼等大衆を確然と把持する第一の資格をもたなかつた。五卅運動の當初に於て、隨つて、彼等は上海の全労働者から見棄てられたのである。彼等の全国的組織運動は、一九二五年の春に至つて、開始された。即ち彼等は一九二五年の二七紀念日に於て國民黨西山會議派の闘士と共に長辛店に會合し、各省區工團聯合會組織を計畫し、先づ上海、北京、天津、漢口、廣東に準備處を設け、期日を定めて大會を開くことを議決した。此の組織の目標は、

- (一) 政治的に公平なる公民權
- (二) 待遇改善
- (三) 平等なる教育の機會
- (四) 搾取階級の暴虐に對する抗争
- (五) 國民會議への參加
- (六) 労働保護法の憲法内挿入
- (七) 組合法制定

(八) 集會、結社、言論、出版の自由

等であつて、京漢鐵路總工會、中華海員工會、上海工團聯合會、廣州機器工人維持會、長沙工人俱樂部、粵漢路徐家棚工會、安徽省工會を基本團體として居た。然し、實際では之等の基本團體の大部分は實力なき空組合であつたし、又有力なる海員工會の如きは確實にマルクス派組合の基礎を形成して居たし、又京漢鐵路總工會は唯だ長辛店工人間の反共產黨系分子によつて本家争ひの名乗りを保持して居たものに過ぎなかつた。かういふ次第で各省區工團聯合會はその成立以來、西山派の青年活動を代表する民治主義同志會一派の熱心な協同により、長辛店工會を基點として北京工會聯合會の成立が一九二六年一月宣言された以外に、何等の實際的現はれを見ない中に第二次の反動期に會した譯である。

### 第三款 全國總工會の組織

二七事件後、それまでに建設した一切の重要組織が破壊され、且つ總工會派に對する反對宣傳が有効に行はれた結果、此の派は非常な運動上の困難に當面した。然し彼等は之に對し、

- (一) 各工會を秘密結社によつて保持し、工場に於ける細胞の活動に力を注ぐ。
- (二) 舊組織を保つて居る北方組合では、専ら労働者の教育と組織の充實に努め、當分積極的闘争を控へる。
- (三) 廣東、香港、上海等各工業都市に於ける群小組合の合同と産業別及職業別への整理に努め、大工場の獲得とその組織の充實に努力する。



(四) 全国的産業的組織に努力し、最短期間内に全国总工会成立の實現を期する。  
(五) 青年知識階級の精神を獲得し、之等を無産運動の過渡的任務に動員する。  
(六) 過去の戦跡を嚴重に批判し、大衆に帝國主義及軍閥の本質を暴露し、國民革命の意義と労働階級の役務を明かにする。  
等の具體方針の下に新しい運動を開始した。即ち組合書記部は二七事件後の彈壓下にも拘はらず、舊國會が恢復されるや、直ちに、労働組合法の運動を開始すると共に、左記十二箇條の目前闘争の要求を宣示して、全国労働者の闘争を指揮した。

- (一) 集會、結社、言論、出版、罷業の自由。
- (二) 團體契約、國際聯合の承認。
- (三) 八時間労働及夜業六時間制、毎週二十四時間の休息。
- (四) 婦人及少年(十八歳以下)労働者及危険なる又は非衛生的なる作業に従事する労働者の六時間労働、並に時間外労働に對する組合の同意の必要。
- (五) 農業労働者の八時間労働及び時間外労働に對する按比的賃銀の支拂。
- (六) 農産物の價額保證及び價格決定に對する農民代表の參加。
- (七) 婦人及少年労働者の夜業禁止、十六歳未満の就業禁止、婦人の産前後に六乃至八週間の休暇と賃銀の給與。

- (八) 最低賃銀制定と労働者代表の之が制定參加。
- (九) 労働者代表の政府及び私人經營の産業管理參加。
- (十) 労働法實施機關の設立と労働者の參與。
- (十一) 労働法制定。
- (十二) 補習教育機關の設備。

又、一方凡ゆる方法で雜誌其他の刊行物を出刊し、(註)前述目標と方策に基づく宣傳を擴大した。

かくて組織運動は海員組合の全国組織の完成によつて海陸兩重要交通機關の堅實なる組織にまで發展し、廣東でも工人代表會の組織がなされ、天津方面の各工場の組織も新たに發展するに至つた。

一九二五年三月、書記部は中華海員工會總聯合會、漢冶萍總工會、全國鐵路總工會、廣東工人代表會の聯名を以て左の如き第二回全國労働大會召集の案内狀を發した。曰く、

「吾人労働階級は全国的大團結を謀る爲め、一九二二年五月一日廣東に第一回全國労働大會を開き、翌年第二回大會を召集すべき件を中國労働組合書記部に委託した。然し二七慘劇後、全國組合皆嚴重な壓迫を受け、第二回大會は竟に召集出来なかつた。之れは各組合の等しく遺憾とする所であつた。本會等、全國各組合が階級的互助精神に基づき、全國一致の團結を謀るべきものなるを思ひ、特に五月一日、廣東に第二回大會を召集することを發起し、既に代表を廣東に派して準備させて居る。宜しく各組合に於て正式代表(組合員百乃至千人に付き一名



千人を超過する毎に一名)を四月二十七日以前に廣東に派せられたい。」

大會は豫定の如く五月一日廣東で開かれた。此の大會に於て、年來の目的であつた中華全國總工會は正式に成立した。

此の總工會の成立は中國勞働運動過去の奮闘の成果であつて、之より中國勞働運動の發展は、従前に比し全然新しい時代を劃したのである。即ち此の總工會成立によつて全國の勞働者は、

(一) 系統的な中央機關をもち、全國勞働者相互の行動に統一と聯絡とを得た。

(二) 階級的組合の闘争と訓練との確乎たる戰術を決定し、政治闘争に直進すると共に、自己の階級的立場を中心とした國民革命への聯合戰線を具體化し得た。

のである。左に總工會會則を掲げる。

### 第一章 總 則

「第一條 本會は中華全國總工會と定名す。

第二條 本會は全國勞働者を團結し、全國勞働者の福利を圖るを目的とす。

第三條 本會は本部を 〃に置き、其他相當の地點には辦事處を置く。

第四條 國內の眞正の勞働組合は會員となり得る。凡そ各種産業勞働者にして産業別全國的組織を有するもの、或は市、縣、省別に合同組合組織を有するものは該總機關を通じて會員とする。單獨組合にて直接本會に加入

する場合には本會の審査と認可とを要する。

第五條 本會の任務は、

- 一、全國勞働者の組織の發展。
- 二、全國組合運動の統一と密接な團結。
- 三、各組合の組織系統の整理。
- 四、各組合間又は組合内の争議の仲裁。
- 五、各組合の行動の指揮。
- 六、全勞働者共同奮闘の目標指示。
- 七、全國勞働者を代表し、國際勞働者と密接なる結合を爲す。
- 八、勞働者の知識の向上と相互の感情の聯絡。
- 九、各組合間の有効なる互助の促進。
- 十、勞働者の利益の保證、各種救済、職業紹介等。

### 第二章 組 織

第六條 本會の最高機關を全國代表大會とし、毎年一回開催する。但し、臨時大會を召集することを得る。共に執行委員會之を召集し、各勞働團體派遣代表數は本會執行委員會に於て按比決定する。



第七條 全國代表大會は執行委員二十五名を選挙し執行委員会を組織する。大會閉會後は執行委員会を以て本會の最高機關とする。

第八條 執行委員会は執行委員長一、副執行委員長三名を互選する。委員長職務執行不能の時は執行委員会は新に之を互選する。

第九條 執行委員会の下に幹事局を設け、執行委員会の指揮監督を受けて本會一切の事務を辦ぜしめる。(その人は執行委員会にて決定する。)

第十條 幹事局を左の部及職務に分つ。

- 一、組織部 本會所屬各組合の組織事項を管掌し、各地未組織労働者を援助して組合を組織させる。
- 二、秘書部 本會一切の文書、統計報告の收發。
- 三、宣傳部 本部の宣傳、教育事業を管掌し、各組合の教育方針を指導する。
- 四、經理部 會計、庶務等の經濟事項。

各部には主任一、幹事若干を置き執行委員会に於て適宜事任する。

第十一條 幹事局に總幹事一名を置き、執行委員会中の一人之を兼任する。總幹事は幹事局會議の主席となる。

第十二條 本會は會務の發展及其便宜の爲相當の地點に辦事處を特設し得る。特別辦事處にはそれ／＼主任一、事務員若干を置き、執行委員会に於て適宜選任する。

第十三條 執行委員会は必要に應じ、各種の特別委員会或は機關を設立し、及び顧問、編輯員等を聘用し得る。

第十四條 本會の執行委員会、幹事局及其他の機關の人員は毎年一回改選する。

第十五條 執行委員会、幹事局、特設辦事處、特別委員会及特設機關の會議及組織の細則は執行委員会に於て別に定める。

### 第三章 公 約

第十六條 各組合は本會代表大會及執行委員会の議決及命令を實行する。

第十七條 若し一處又は一種の労働者に労働階級の闘争發生した時、各組合は本會に通告したる後、一致して聲援的、經濟的、實力的の援助を與へる。

第十八條 同一産業及職業、又は同一地域内に二箇以上の同性質の組合發生した時は、本會の勸告に従ひ互讓して一個の組合とする。

第十九條 各組合間に争議ある時は、直ちに本會に訴へて仲裁を待ち、互に攻撃しない。

第二十條 各組合は本會に不満ある時、直ちに本會に抗議し、又は代表大會に訴ふることを得るも、直接本會の行動又は言論を破壊する如き行爲があつてはならぬ。

### 第四章 經 費

第二十一條 各組合は毎月本會に會費を納める。但其額は各組合に於て按比認定する。



第廿二條 必要の時は、本會執行委員會の決議を経て、各組合より特別費を徴收することを得。

第廿三條 本會の經費に困難を生じた時は、本會を支援する外、外部の同情者に義捐を求むることを得。

## 第五章 附 則

第廿四條 本規則は全國代表大會通過後、効力を發生する。

第廿五條 本則中不適當の處あれば全國代表大會の通過を経て修正する。」

## 第三項 當時の労働條件と罷業

一九二二年から三年にかけて、罷業は全國の主要なる工場に殆んど普遍的に行はれた。然かも此の時期に至つて指導者の計畫的策動が或る程度に労働者中に働いて居た爲、それから結果した影響は非常に大なるものがあつた。此の種の罷工は、數年來の労働者の實際生活苦から自然發生的に擴大した罷業傾向の延長ではあつたが、かくの如く、計畫的な指導が働いて、然かもそれが重要な産業に向ふに及んで、労働者は、直接間接産業の支配者である所の外國資本家と中國軍閥とに對する鬭争なしには、到底經濟的利益を獲得し得ない明確な事例にぶつかつたのである。軍閥反對、帝國主義反對は、かくして労働大衆の聲となり、殖民地革命の原動力の發動は此の間に急激に展開した。今之等の所謂中心争議の代表的なものを擧げて見ようと思ふ。だがその前に一と通り、當時の労働者の労働條件の概要と、之から必然的に生れた彼等の盛んな罷工傾向の統計的な記述を試みよう。

## 第一款 労働條件と罷工統計

物價の騰貴は労働者の生活を極端に苦難ならしめて居るのみならず、一方では内亂の爲失業者群は益々増大し、資本家の態度は寸分の改善なき原始的搾取を支持して居る。中國の工業は歐戰中に非常に發達したと雖もその殆んど全部は、纖維工業其他の輕工業である。これ等の工場では益々婦人や年少労働者の搾取によつて成年労働者を除去せんとして居る。一九二五年夏英國獨立労働黨から派遣されて中國労働事情を調査したマロン氏の報告は云ふ。

「紡績工場に就いて見るに、労働時間は普通十時間半乃至十六時間である。元來十二時間（食事時間卅分加算）だが機械掃除で運轉を休む前日には、繼續十六時間の労働が要求される。

賃銀は男工卅仙乃至五十仙、少年労働者は十仙乃至二十五仙。そして全體の六〇％は女工である。天津では上海の如く女工の數は多くないが、然し全體の六〇％は十五仙乃至二十五仙の少年工で、普通職工の平均賃銀は卅仙、労働時間は十二時間である。

漢口では平均銀卅仙（但申新紗廠の如く四十仙の例もある）。労働時間は十二時間で毎十日に一度休日がある。視察の實狀を云へば、震寰紗廠では二千三百人の内女工が一千、少年労働者が一千の割合で、中には八歳にも足らぬ様なものも居た。一定の食事時間が與へられて居らぬので作業しながら食つて居るのを見た。又第一紗廠では八千の内三分の一は少年工で、小兒を連れて通ふ女工も少くない。

又生絲工場は約卅萬の労働者を使用して居る。此種工場は夜業をしない。普通十二時間労働が課せられ、労働